

故ニ此ノ如キモノニ至テハ假令大岡越前守ヲシテ之ヲ判定セシムルモ恐ラクハ其當夫得
 サル可シ故ニ此ノ如キモノ、眞偽實否ヲ判決スルニ於テ之ヲ裁判官ニ一任セハ或ハ爲メ
 ニ無辜者ヲ冤枉ニ陷レ又ハ惡人ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシムルノ事ナキヲ保セズ是
 ヲ以テ此人如キ場合ニ於テハ法官或ハ警官ハ必ス右等ノ者ニ其解剖分析又ハ鑑定ヲ命ス
 ルヲ常トス然ルニ此等ノ者故ナク面倒ナリトシテ之ヲ肯セサルニ於テハ無辜ナル同胞ヲ
 冤枉ニ陷レ或ハ惡人ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシムルヲ甘スルモノコシテ其狀情甚ダ
 惡ム可シ故ニ其故ナクシテ之ヲ肯セサル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ科スル者トス
 但シ本條ノ刑ハ唯タ其故ナクシテ之ヲ肯セサルノミコテ之ヲ科スルモノトス故ニ若シ之
 ヲ免シカ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル時ハ第二百十五條ニ照シテ之ヲ處分ス
 其唯タ裁判所ノ召喚ニ應セサルノミナル時ハ治罪法第九十二條ニ從テ罰金ヲ科スルモ
 ノトス

第一百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ証據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯
 セサルハ亦前條ニ同シ

一人モ萬人ニ優ルコトアリ萬人モ一人ニ若カサルコトアリ證人ノ如キ即チ是レナリ親シク其
 事實ヲ聞見シタル者ヲシテ之レカ證人トシメハ以テ其事ノ實否ヲ證スルニ充分ナレド
 若シ其事實ヲ聞見セサル者ヲシテ之レカ證人トシメハ假令萬人ノ多キヲ築ムルモ亦一
 人ノ用ナシ故ニ證人タル可キ者ハ必ス其事實ヲ聞見シタル者ニ限ルモノトス是ヲ以テ法
 官ハ親シク其事實ヲ聞見シタル可シト認ムル證人トシテ証據ヲ陳述スルコトヲ命スルコトア
 リ此場合ニ於テ其人故ナク之ヲ面倒ナリトシテ肯セサル時ハ更ニ他人ヲシテ之レニ代
 ラシムルコトヲ得可キヤ或ル時ハ以テ二人以上其事實ヲ聞見スルコトアル可キヲ以テ之レニ
 代ハラシムルコトヲ得可キモ亦或ル時ハ以テ其事實ヲ聞見シタル者一人ニ止マルノ場合ア
 レハ之レニ代ハラシムル者ナキコト往々之レアリ此時ニ當テ其人之ヲ肯セサルニ於テハ其
 罪ノ有無及ヒ輕重ヲ判定スルコト能ハス爲メニ無辜者ヲシテ冤枉ニ陷レ又ハ全ク其罪アル
 者ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシムルコトナキヲ保セス故ニ其故ナク之ヲ肯セサル時ハ前
 條ト同シク四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

但シ本條ノ刑ハ前條ト同ク唯タ其故ナクシテ之ヲ肯セサルノミコシテ之ヲ科スルモノ
 刑○第一百八十條

トス故若紙之免レカ爲疾疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル時ハ第二百十五條ニ照
シテ之ヲ處分ス其唯裁判所ノ召喚ニ應セサルノミナル時ハ治罪法第九十二條ニ從テ
罰金ヲ科スルモノトス

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査
シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五
十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

醫ハ固ト仁術ニシテ病者アリ以テ之レカ診察ヲ乞フ者アル時ハ如何ナル恐ル可キ病質ト
雖モ眼科齒科ト通常ノ内外科ト如キ大ニ其科ヲ異ニセサルヨリ以上ハ決シテ其己レノ
之ヲ恐ルカ爲メニ辞ス可ラサルノ責任アルモノナリ若シ其之レヲ恐ル者ノ如キハ寧
ロ最初ヨリ醫師ヲシテ他ノ職業ニ就ク可キナリ故ニ其醫師ト爲リシ者ハ必ス其覺悟
シテ其職業ニ就ク下云ノモ亦敢テ不可ナルコトナシ既ニ其覺悟アルノ醫師ニシテ又
社會ハ數年若ハ數十年ニ一回ハ必ス傳染病ノアルヲ免レサルハ固ヨリ長期スル所ナリ

其傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ官署ヨリ其病患ヲ検査シ又ハ
消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル時ハ必ス進ンテ其職ヲ務ム可キ筈ナリ其レ既ニ
人民ヨリ乞フメニ之ヲ辞ス可ラサルノ責任アルモノナリ况ンヤ官署ノ命令ニ於テ焉
其レ之レニ應ジテ可ラランヤ然ルニ其己ニ傳染セシコトヲ恐レテ故ナク之ヲ肯セサ
ル者ナシトモ其病毒ハ少シモ之ヲ猶豫セズ益々蔓延シ終ニ千萬ノ生靈ヲ擧ゲテ了々鬼籍
ニ入ラシム其慘狀恐ル可シ故ニ其故ナク之ヲ肯セサル者ハ其之ヲ肯セサルノミニシテ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス本條ハ前二條ノ場合ヨリ其情狀更ニ惡ム可ク
又其害ノ及フ所更ニ大ナルヲ以テ其刑モ亦重クセリ

第二項獸醫タル者前項ノ罪ヲ犯スニ於テハ亦空シク畜類ノ生命ヲ失ハシムルノ恐レアレ
ハ之ヲ罰スルモノトス但シ人獸ノ差アルヲ以テ其刑モ亦異ニシ前項ヨリ一等ヲ減シテ處
分スルナリ

○第四章 信用ヲ害スル罪(凡九節五十五條)

刑○第百八十一條

○本章ハ取引註釋ヲ要ス

〇第一節 貨幣ヲ偽造スル罪(凡十二條)

貨幣トハ即チ一國通用ノ金錢ニシテ即チ金貨銀貨、銅貨、及ヒ紙幣ヲ合稱スルナリ其偽造トハ假令品位真物ニ毫釐ノ差ナキモ政府ノ權ヲ以テ造ラサルモノハ都テ偽造ト爲ス其偽造ノ貨幣一タヒ世上ニ流出スルニ於テハ之レカ爲メ忽チ流通ノ便ヲ塞キ天下ノ人心ヲ疑惑セシメ大ニ公衆ヲ害スルヲ以テ本節第四章ノ首メニ措ケリ

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

內國通用ノ金貨銀貨及ヒ紙幣ヲ製造スルハ政府ノ特權ニシテ人民ノ濫ニ製造ス可キモノ非ラス若シ之ヲ偽造スル者アルニ於テハ國寶ノ信用ヲ害スルヲ甚ダ大ナリ故ニ其偽造シテ行使シタル者ハ之ヲ無期流刑ニ處スルモノトス

第二項變造シテ行使シタル者トハ金銀貨ノ邊緣ヲ煎錯シテ其量目ヲ減シテ行使シタル者

又紙幣ノ文字ヲ改竊シ其價額ヲ増シテ行使シタル者ノ類ヲ云フ彼ノ偽造ハ全部ニ關シ

此ノ變造ハ特ニ一部ニ係ル故ニ本項ノ罪ハ其情狀前項ヨリ更ニ輕キヲ以テ之ヲ輕懲役

第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨トハ即チ英金洋銀ノ如キ內國ニ於テ之ヲ內國ノ金銀貨ト交換スルヲ得ルモノヲ云フ故ニ之ヲ偽造シテ行使シタル者ハ其信用ヲ害スルヲ前條ト異ナルヲナシ然レモ内外ノ別アルヲ以テ前條ノ刑ヨリ一等ヲ減シテ有刑徒刑ニ處スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ既ニ前條ノ刑ニ一等ヲ減シタルヲ以テ第二項ノ場合即チ變造シテ行使シタル者モ亦前條第二項ノ刑ニ一等ヲ減シテ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルナリ

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ內外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス
刑〇第百八十二條〇第百八十三條

斷タル者モ亦宜シ其職工ノ刑ヨリ減セザル可ラス即チ此等ノ者ノ刑ハ其職工ノ刑ニ照
 シテ一等又ハ二等ヲ減スルモノトス
 本條ノ明文情ヲ知テ云々トアルヲ以テ其全ク情ヲ知ラスシテ雇ヲ受ケタル職工又ハ職工
 ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ其罪ヲ問ハサルカ如シト雖モ他事ト異ニシテ貨幣ノ
 偽造變造ハ一タヒ其役ニ從事スルニ於テハ必ス其情ヲ知ルコトヲ得ル者ナレバ一旦之レニ
 着手シタル以上ハ必ス其情ヲ知ル者ト認ム可ク又之レカ職工雜役者ニ於テモ其情ヲ知ラ
 ズト云フノ口實ナキモノトス
 第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ各本條ニ照シ二等ヲ
 減ス
 既ニ貨幣ノ偽造變造ノ情ヲ知テ之レニ從事シタル職工及ヒ雜役者ニ其刑アリトモ從テ
 其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者モ亦其刑ナカル可ラス然レモ正犯者ヨリ其情ノ原諒ス可
 キモノナレバ以テ之ヲ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減スルモノトス
 第百八十九條 偽造變造スル貨幣外内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

内國通用ノ貨幣銅貨又ハ銀行紙幣ノ偽造變造ハ假令外國ニ於テ之ヲ爲スト雖モ一タヒ之
 ナ内國ニ輸入スル時ハ其内國ニ於テ之ヲ爲スト敢テ異ナル所ナシ故ニ其偽造變造ノ貨幣
 ナ内國ニ輸入シタル者ハ其内國ニ於テ偽造變造シタル者ノ刑ト同シク之ヲ處斷ス
 第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シ
 タル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス
 其未ダ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス
 偽造變造ノ貨幣ナルコトヲ知テ之ヲ受取り且又之ヲ他ニ行使シタル者ハ假令之ヲ偽造變
 造シタルニ非ラスト雖モ其偽造變造ノ貨幣ヲ通用サセシコトヲ欲スル者ニシテ其情惡ム可
 ク又稍々其偽造變造者ニ近キモノナレハ其偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ二等ヲ
 減シテ處分スルモノトス
 第二項唯ダ其受取りタルノモノニシテ其未ダ之ヲ他ニ行使セサルニ先ダテ發覺シタル時ハ
 其偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各三等ヲ減スルモノトス
 但シ其偽造變造タルコトヲ知ラスシテ之ヲ受取り又ハ之ヲ行使シタル者ハ固ヨリ其罪
 刑ニ照シ第百八十八條ニ照シ第百八十九條ニ照シ第百九十條

論セサルモノナリ
第九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監
視ニ付ス

本條ノ意義ハ過條ニ於テ既ニ說明シタルハ敢テ又茲ニ之ヲ贅セス

第九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首
シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス
内國ニ於テ貨幣ヲ偽造變造シタル者及ヒ外國ニ於テ之ヲ偽造變造シテ内國ニ輸入シタル
者又ハ其偽造變造ノ情ヲ知テ之ヲ取受シタル者其未タ之ヲ行使セス且ツ未タ官ニ發覺セ

サル前ニ於テ自首スル時未タ社會ニ害ヲ與ヘサルノ前ナレハ全ク本刑ヲ免シ唯タ六
月以上三年以下ノ監視ニ付スルモノトス故ニ若シ之ヲ行使シタルノ後子官ニ自首シタル
者ハ第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シテ之ヲ處分スルモノトス

第二項職工雜役者及ヒ房屋ヲ給與シタル者ノ如キハ其情輕ク又其正犯者ト區別セシカ爲

メ其未タ之ヲ行使セサルノ前ニ於テ之ヲ自首スル時ハ本刑ヲ全免シテ他ニ一刑ヲモ加ヘ
サルモノトス

第九十三條 貨幣ヲ受取スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ
其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但シ其罰金ハ二圓以下ニ降スコト得ス

本條ハ初ノ眞貨ナリト思惟シテ之ヲ受取リタル者豈ニ圖ランヤ眞貨ニ非ラスンテ即チ偽
貨變幣ナラントハ然レモ之ヲ毀棄スルハ自家ノ損失ト爲ルヲ恐レ萬一ヲ僥倖ニ托セント

知ラヌ顔ノ半兵衛ニテ其後チ私カニ之ヲ他ニ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス而
テ第二十六條ニ罰金ハ二圓以上十圓以下ノ明文アレハ之ヲ二圓以下ニ降スコト得ス若シ之ヲ

降ス時ハ其明文ニ背反スルノ恐レアリ且ツ又科料ト混スルノ患ヒアルヲ以テ茲ニ十錢ノ
偽幣ヲ行使シタル者ナルモ其價額ニ倍即チ二十錢ヲ科セズシテ二圓ノ罰金ヲ科スルモノ

トス

○第二節 官印ヲ偽造スル罪(凡八條)

敢テ註釋ヲ要セス
刑○第九十一條○第九十二條○第九十三條

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

御璽ハ天皇ノ御璽ニシテ勅任官ノ辭令書ニ捺用シ國璽ハ大日本國璽ニシテ勅章及ヒ公使ノ委任狀等ニ捺用スルモノナリ而シテ本條及ヒ後二條ハ皆テ「偽造シ又ハ其偽璽偽印ヲ使用シ云々」トアルヲ以テ一旦偽造シタル者ハ假令之ヲ使用セサルモ各本條ニ規定スル本刑ヲ科スル者ニシテ又之ヲ使用シタル者ハ假令已レ自ラ之ヲ假造セスト雖モ各本條ニ規定シタル本刑ヲ科スルモノトス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
本條モ亦敢テ註釋ヲ要セスト雖モ其所謂產物トハ即チ蠶種、生糸或ハ麥酒若クハ砂糖、製

茶、紙其他各種ノ產物ヲ云ヒ商品トハ度量衡、荷車、人力車、藥品其他各種ノ商品物ヲ云フ

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影贖ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
若シ監守自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

前條ノ罪ハ即チ偽造及ヒ使用偽印ノ罪ニシテ本條ノ罪ハ真正ノ御璽國璽各官署ノ印及ヒ記號印章ヲ盜用スルノ罪ナリ而シテ其所謂盜用トハ其官印ヲ盜マスト雖モ唯タ影贖ヲ盜ミタルノミヲ以テ既ニ之ヲ盜用ト云フ例ハ竊カニ官印ヲ取出シ文書等ニ押捺シ或ハ既ニ押捺シタル影贖ヲ切り取りテ之ヲ他ノ文書等ニ移シテ使用スルノ類ヲ云フ

官印ノ影贖ヲ盜用スルハ之ヲ監守スル者ト之ヲ監守セサル者トハ孰レカ難クシテ孰レカ易キヤ精細ノ思想ヲ費ヤサスシテ其之ヲ監守セサル者ノ難クシテ其之ヲ監守スル者ノ易キヲ知ル可シ去レハ其盜用ヲ爲シ易キ者ノ刑ハ其之ヲ爲シ難キ者ノ刑ヨリ更ニ重クセザレハ以テ其盜用ノ患ヲ豫防スルニ足ラサルモノトス且ツ夫レ之ヲ監守ス可キノ職ニ在テ却テ之ヲ盜用スルハ其之ヲ監守スルノ職ニ非ラサル者ノ之ヲ盜用スルヨリ其情更ニ惡シ

刑○第九十四條○第九十五條○第九十六條○第九十七條

○第九十條 官署に於て御璽國璽官印記號印章ノ影贋ヲ盗用シタル時ハ唯々其盗用シタルノ罪トシテ既ニ之ヲ監守スルノ責任ナキ者ノ偽造シタルノ罪即チ前二條ノ例ニ照シテ之ヲ處斷スルモシヨク

第九十八條 官署に發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス各種ノ印紙トハ即チ証券印紙、願歴印紙、賣藥印紙、煙草印紙、ノ類ヲ云ヒ界紙トハ即チ訴訟用野紙、文通用野紙、証券野紙ノ類ヲ云フ其他ハ敢テ註釋ヲ要セス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス
第三節 官署に於て御璽國璽官印記號印章ノ影贋ヲ盗用シタル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
本條ノ意義精神ハ既ニ過節ニ於テ説明シタルハ敢テ又茲ニ之ヲ贅ヒス

第二百一節 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ヲ受ケル

本條ノ意義精神モ亦然リ

○第三節 官署に於て文書ヲ偽造スル罪(凡六條)

本節ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

詔書トハ天皇陛下勅旨ノ文書ヲ云フ増減トハ文字ノ數ヲ或ハ増シ或ハ減スルモノニシテ變換トハ十圓チ千圓ニ變シ此ノ事件ヲ彼ノ事件ニ換フルノ類ナリ此等ノ者及ヒ其詔書ヲ毀棄シタル者ハ何レモ皆ナ無期徒刑ニ處スルモノトス

第二百三條 官署に於て文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス其官署に於て毀棄シタル者亦同シ

本條ハ前條ト異シ行使シタル者ハ云々ノ字アルヲ以テ本條ノ問フ所ハ官署に於て文書ヲ偽造シタル者ニ限リ○第二百三條マテ

造シ又ハ増減變換シテ且ツ之ヲ行使シタル者ハ限リ之ヲ適用セラルモノニシテ唯ク其偽造
増減變換ニ止テ未ダ之ヲ行使セサル者ハ本條ノ問フ所ニ非ラサルナリ

第二百四條 公債証券地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債証券ニ係リ時ハ一等ヲ加ヘ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セサレモ其有記名ノ公債証券ノ刑輕然シテ無記名ノ公債証券ノ刑重

所以ハ其有記名ナルモノハ據ル所アルヲ以テ之ヲ檢出スルヲ易ケレハ隨テ亦其害ノ及
フ所小ナルモ其無記名ナルモノハ據ル所オキテ以テ之ヲ檢出スルヲ難ク從テ亦其害ノ及
フ所大ナルニ因テ然リ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ前二條ノ例
ニ照シ一等ヲ加ヘ行使シタル者ハ前二條ノ例

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

本條ハ第九十七條ノ精神ト同シク其管掌職務ノ官吏カ其官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變

換シテ行使スルハ最モ爲シ易ク地位カレシテ之ヲ罰スル他ノ者ヨリ更ニ重カラザシム以
テ其患ヲ豫防スルニ足ル故ニ前二條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フルモノトス

本條「官吏其管掌ニ係ル文書」トアルヲ以テ假令官吏ト雖モ其管掌ニ係ラサル者ナル時
ハ常人ノ刑ト更ニ異ナル所オキモノトス

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ依テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタルモノハ偽造官印ノ各
本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以
下ノ監視ニ付ス

此節ニ記載シタル罪ハ皆十重罪ナレモ其情狀ノ如何ニ因テハ或ハ之ヲ減輕シテ輕罪ノ刑
ニ降スヲアリ然レモ社會ノ信用ヲ害スルノ大ナルモノナレハ六月以上二年以下ノ監視ニ
付スルモノトス

三九一
○第四節 私印私書ヲ偽造スル罪(凡五條)
刑○第二百四條○第二百五條○第二百六條○第二百七條

官印官書ヲ偽造スル罪トハ五十歩ト百歩トノ差コソアレ其偽造ハ一ナリ故ニ既ニ官印官書ヲ偽造スルノ刑アレハ亦從テ私印私書ヲ偽造スルノ刑ナカル可ラス是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ私用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

人民各自ノ實印ハ即チ其人々ノ信認ヲ表スルモノニシテ俗ニ所謂首ト交換ス可キ程ノモノナレハ之ヲ偽造シテ使用スルニ至テハ如何ソ其レ之レカ罰ナカル可ケンヤ然レモ官印偽造ノ罪ヨリ其精稍々輕キモノナレハ唯タ其偽造シタルノモトハ未タ以テ之レカ罰ナキモノトス其偽造シテ且チ之ヲ使用スルニ至テ初メテ其之レカ罰アルモノナリ假令又其罰アルモノ之レヲ官印偽造ノ罪ニ比スルキハ更ニ輕キヲ以テ之ヲ重禁錮ノ刑ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモトス

第二項他人ノ私印ヲ偽造セシメ唯タ其他人ノ印影ヲ盗用シタル者即チ竊ガコ他人ノ印ヲ取

出シテ之ヲ押捺シ其本人ノ押捺シタルモノト詐ル者ハ右本刑ニ一等ヲ減シ處分スルモトス

第二百九條 爲替手形其他裏書以テ賣買ス可キ証書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形証書ニ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

本條モ亦前條ト同シク其之ヲ偽造シタルノモトハ未タ以テ之レカ刑ナキモノトス其偽造シテ且ツ之レヲ行使スルニ至テ初メテ之レカ罰アルモノナリ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書等偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦前二條ト同シク其偽造シテ且ツ之ヲ行使スルニ至テ初メテ之カ罰アルモノナリ

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照刑○第二百八條○第二百九條○第二百十條○第二百十一條

シテ處斷ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セスシテ既ニ判然タリ

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

○第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪(凡五條)

本節ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

官ヨリ發行スル所ノ諸免狀諸鑑札ハ大概税金ヲ納ムルカ或ハ免許料鑑札料若クハ手数料ヲ納メテ受ク可キモノナリ然ルニ其之ヲ納ムテ厭ヒ官ヲ欺瞞シテ免狀鑑札ヲ偽造シテ且ツ之ヲ行使シタル者ハ本條ニ定メタル刑ヲ科スルモノトス然レモ其唯々偽造ニ止テ

其未タ之ヲ行使セザル者ハ其罰時モソトシ但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造

官印ノ各本條即チ本章第二節ニ記載シタル各本條ニ照シテ處斷スルモノトス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情事知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

屬籍トハ華士族平民ノ類ヲ云ヒ身分トハ嫡子庶子ノ類ヲ云ヒ氏名トハ戶籍ニ記載シタル所ノ姓名ヲ云フ故ニ假令平素已レノ用ナル名乘又ハ號ト雖モ其戶籍ニ記載セサル者ヲ遣

フ時ハ則チ詐稱タルヲ免レサレハ人民タル者能ク注意アル可シ餘ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百十五條 公務ヲ免カルキ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メコソ他人ノ爲メニスルヲ分ヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ証書ヲ作りタル者ハ一等ヲ加フ

公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者トハ例ハ

刑○第二百十二條○第二百十三條○第二百十四條○第二百十五條

証人鑑定人トシテ裁判所ノ喚問ニ應ズ可キ者其公務ノ全部ヲ免レンカ爲メ又ハ官吏教師
 者其公務ノ一部若クハ數部ヲ免レ勞セヌ月給ヲ食ラシカ爲メ疾病ト詐稱シ醫師
 三ノ氏名ヲ用テ診斷書ヲ偽造シテ且ツ之ヲ行使シタル者ヲ云フ此等ノ者ハ何レモ皆テ一月
 以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス
 第二項醫師タル者其公務ヲ免レシトスル人ハ賄賂等ノ爲メ囑託ヲ受ケ健康ナルニ疾病
 證書ヲ偽造シテ之ヲ交付スルニ於テハ其情其公務ヲ免レシトスル者ハ更ニ惡ム可シ故ニ
 一等ノ加テテ處斷スルモノトス然レモ其公務ヲ免レシトスル本人及ヒ醫師共ニ唯々其
 證書ヲ偽造シタルノミヨテハ未タ以テ本條ノ問フ所トナラズ其偽造シテ且ツ之ヲ行使ス
 官職ヲ初メテ本條ノ問フ所トナルモノナリ
 日本條ノ罪ヲ犯ス者ハ實際往々之レヲ以テ嘗テ予輩ノ聞見セル者亦少ナシトセス然ルニ其
 發覺シテ之レヲ罰シ被ルル者ハ十二ノ二ナク大概僥倖ニシテ終ルハ實ニ遺憾ノ至リ
 其刑罰抵白必罰ヲ期スル能ハサル者ハ之レニ准シテ其罰ヲ重クスルヲ要ス夫レ人ハ
 萬一ニ刑罰ヲ免カレハ僥倖ヲ期スルニ非ラサレハ敢テ罪ヲ犯サハルモノナリ若シ刑罰

以テ唯々犯罪者カ罪惡ヲ犯カセシメ因テ得タル所ノ利害ヲ奪還スルノモノナリトモ其刑罰
 必ズ免カレハ能ハル能ハルモノナラシムハ敢テ罪ヲ犯ス者ハ何トナレハ如何
 如愚人ト雖モ必ズ罪人ト視做サレハ恥辱ヲ顯ミテ罪ヲ犯ス者ハアテ可カラサレハ
 動凡テ何等ノ罪ヲ犯ス其犯罪者ハ發露スルト隱匿シテ遂クルトハ機運ヲ豫算シテ事ヲ爲
 スモノナリ故ニ刑罰ヲ脱スルノ道多キモノニハ權衡シテ平準ヲ取ランカ爲メニ其罰ヲ重
 クスルヲ要ススト其然リ故ニ本條ノ罪ハ固ニ必罰ヲ期スル能ハサルモノナレハ予輩
 ハ法官ニ向テ常ニ其範圍内ノ長期ノ重禁錮ニ處シ多數ノ罰金ヲ附加セシメテ望ムナリ
 第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カレ可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑
 託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ作リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
 第七十八條 於テ陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他
 詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル者ノ刑ヲ規定セラレタリシカ若シ其徵兵ヲ免レシカ爲
 メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ノ
 刑ハ本條ニ因テ之ヲ處斷スルモノトス

刑○第二百十六條

本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ前條即チ第二百十五條ノ例ニ照シ其免役ヲ圖リタル者ハ自己ノ爲メコソルト他人ノ爲メハコソルトヲ分テス前條第一項ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ一月七日以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓七十五錢以上三十七圓五十錢以下ノ罰金ヲ附加スルモソトス醫師其他入ノ囑託ヲ受ケテ健康ナルコト疾病ノ證書ヲ偽造シ之レニ交付シタル時前條第二項既ニ加重セシ所ノ刑ニ又更ニ三等ヲ加ヘテ二月十六日以上一年六月二十二日以下ノ重禁錮ニ處シ四圓六十八錢七釐五毛以上四十六圓八十七錢五釐以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス

第二百十七條 免狀鑑札及ニ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ
第二百十三條ヨリ第二百十六條マテノ四條ハ何レモ皆テ免狀鑑札及ニ疾病ノ證書ノ偽造ノ罪ニ係ルナリ本條ハ其真正ノ免狀鑑札及ニ疾病ノ證書ヲリトモ若シ其内ノ文字ヲ増減シ又ハ其文意ヲ變換シ之ヲ行使シタル者ノ罪ヲ規定スルモノニシテ此等ノ者ハ假令之ヲ偽造セズト雖モ其之ヲ偽造シテ行使シタル者ト致テ異ナラズ所チキテ以前四條ノ中其適照ハ可キモノニ照シテ其刑ヲ科スルモノトス但モ唯々其證書ノ文字文意ヲ増減變換シタル

ルノミヨテハ未ダ以テ本條ノ問フ所トナラス其増減變換シテ且ク之ヲ行使スルニ至テ初メテ本條ノ問フ所トナルモノナリ

○第六節 偽証ノ罪(凡九條)

偽證ノ爲メコソル或ハ有罪者ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシムルコトアリ或ハ無罪者ヲシテ有罪被刑ニ陷ラシムルノ不幸アルモノコシテ其害甚ク大ナレハ宜シク之ヲ嚴ニ罰セサル可ラサルナリ

第二百十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

刑○第二百十七條○第二百十八條

治罪法第百八十條ニ豫審判事ハ證人ヲシテ愛憎畏懼ノ心ナク正實ニ陳述ヲ爲ス可キ事ヲ宣明セシム可シ云々トアリ左モアリツラン若シ證人ニシテ愛憎畏懼ノ心アル時ハ之レカ爲メ誤テ無辜者ヲシテ冤枉ニ陷レ或ハ惡人ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシムルコトナキヲ保セテ故ニ證人タル者ハ必ス正實ナラサル可テサルモノトス然ルニ實際其被告人ヲ憎ンテ其事實ヲ作爲シ或ハ之ヲ愛シテ其事實ヲ掩蔽スル者ハ殆ント稀レナルモ其畏懼ノ爲メ被告人ヲシテ刑罪ヲ被ムテシムルヲ憫然ニ想ヒ其罪ヲ犯シタル事實ヲ知ルモ之ヲ知ラスト陳述スルコト間々ナキヲ保セス否ナ隨分ニ之レアル可キノ情勢ナリ故ニ此ノ如キ證人アリタル時ハ其被告人ノ重罪、輕罪、違警罪ノ別ニ因テ本條規定スル所ノ其偽証ノ刑ヲ科スルモノトス

第二百十九條 偽証ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免ケタル時ハ偽証者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

前條ノ罪ハ唯テ證人タル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタルノミノ者ニ止マルナリ故ニ其偽証ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免ケタル時即チ重刑ニ處セラル可

キ者ニシテ輕刑ニ處セラレ又ハ全ク無罪放免ニナリタルノ場合ニ於テハ前條一二三ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フルモノトス

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前二條ハ即チ被告人ヲ曲庇シタルノ罪ニ係ハリ本條及ヒ後テノ二條ハ即チ被告人ヲ陷害スルノ罪ニ係ハリナルナリ抑モ被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲スモノノ如キハ常ニハナキ所ナレモ其被告人ニ私讐アル者ニ於テ偶々之レアル所ナリ而シテ有罪者ヲ無罪放免ニシタルト無罪者ヲ有罪被刑ニシタルトハ其罪同シクシテ重刑者ヲ輕刑ニシタルト輕刑者ヲ重

刑○第二百十九條○第二百二十條

刑ニシタルトハ其害一ナルカ如シト雖決シテ然ラス其間大ナル差違アリテ存スルモノナリ西人法律家ノ言ニ曰ク百人ノ有罪者ヲ無罪放免ニ失スルモ寧ロ一人ノ無罪者ヲ有罪被刑ニ失セシムルコト勿レト是レ至言ト謂フ可シ故ニ本條被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲タル者ノ刑ハ前二條ノ被告人ヲ曲庇スル爲メ偽証ヲ爲タル者ノ刑ヨリ更ニ重ク之ヲ科セリ

第二百二十一條 偽造ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ偽証者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコト得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降スコト得ス

前條ハ唯ダ被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲シタルノミノ場合ニ止マレリ故ニ若シ其偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル時ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルナリ

第一項偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ其被告人ハ

固ト無罪放免ニシテ可キモノナレハ之ヲ減輕シテ其偽証ノ爲メ先キニ處セラレタル被告人ノ刑坐ニ其偽証者ヲ反ヘシテ其刑ニ處スルモノトス然レニ若シ其反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ其反坐ノ刑ヲ科セズシテ前條ノ例ニ照シテ其刑ヲ科スルモノトス

第二項偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレ其刑期限内ニ於テ其偽証ノ罪發覺シタル時ハ或ハ法官ノ意見ヲ以テ其陷害セラレタル者現ニ經過シタル日數ニ照シ其偽証反坐ノ刑期ヲ其陷害者ノ經過シタル日數ト同シキマテコ之ヲ減スルコト得レ但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降スコト得サレハ若シ陷害者ノ經過シタル日數少ナクシテ偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ其偽証者ノ刑期ハ陷害者ノ經過シタル日數ト同シキマテコ之ヲ降スコト能ハスシテ其偽証ノ刑ト等シキマテコ之ヲ登ラシメサル可ラサルモノトス但シ本項ハ法官ノ意見コトテ如何トモス可キモノニシテ決シテ犯人ノ當然受ク可キノ權利ニ非ラス

抑モ本條ノ罪ハ徒ニ無辜者及ヒ輕刑者ヲシテ有刑及ヒ重刑ニ陷レタルモノニシテ其情大ニ惡ク可ク又其害甚ク恐ル可クテハ予輩ハ法官ニ向テ第二項ノ例ハ容易ニ用ヒサランコト

刑〇第二百二十一條

第二百二十二條 偽証ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷セシメノ目的ヲ以テ偽証ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第一項ハ偽証者敢テ被告人ヲ死刑ニ陷ルノ意思アラサルニ其偽証ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタルハ全ク偽証者ノ意思表示ニ出テタルモノナレハ之ヲ死刑ニ反座スハ或ハ酷ニ過クルシ難ヒナキ能ハス故ニ反座ノ刑ニ一等ヲ減シテ無期徒刑ニ處スルモノトス若シ其未タ死刑ヲ執行セサル前ニ於テ其偽証ノ罪發覺シタル時ハ其被告人未タ害ヲ被ムラサルニ因リ又一等ヲ減シテ有期徒刑ニ處ス

第二項若シ其偽証者ニ於テ豫メ被告人ヲ死刑ニ陷レントスルノ目的ヲ以テ偽証ヲ爲シ因テ被告人死刑ニ處セラレタルトシテ分明ナル時ハ又其偽証者ヲ死刑ニ反座スルナリ然レモ若シ其未タ死刑ヲ執行セサル前ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ未タ其目的ヲ遂ケス又

被告人ニ於テモ其害ヲ被ムラサルニ因リ其反座ノ死刑ニ一等ヲ減シテ無期徒刑ニ處スルモノトス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

民事商事又ハ行政裁判ニ關シタル偽証ハ若シ之カ爲メ一方ニ損失ヲ被ムラシムルモ唯タ財産上ノ損害ニ止テ敢テ刑事ノ如ク身體ニ害ヲ加フルコト非サレハ其刑ヲ輕クセリ

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス

鑑定トハ筆鋒ノ眞否及ヒ印影ノ眞否等ノ鑑定ヲ云ヒ通事トハ譯者啞者若クハ國語ニ通セサル者ノ爲メニ通譯スルヲ云フ故ニ其鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル書家印判師及ヒ通辨等ノ者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ罪ト同シク之ヲ處分スルモノトス即チ其目的被告人ヲ曲庇スルニ在ルキハ第二百十八條第二百十九條ニ記載シタル所ノ刑ニ處シ其目的被告人ヲ陷害スルニ在ルキハ第二百二十條第二百二十一條○第二百廿二條○第二百廿三條○第二百廿四條

一條第二百二十二條ニ記載スル所ノ刑ニ處シ其民事商事又ハ行政裁判ニ關スル時ハ第
二百二十三條ニ記載シタル所ノ刑ニ處スルモノトス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメ
タル者ハ亦偽証ノ例ニ同シ

賄賂以下其他ノ方法トハ即チ詐欺、脅迫、結約、威權、等ノ類ヲ云フ故ニ此等ノ方法ヲ以テ
人ニ囑託シテ偽証又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ自ラ直接ニ之ヲ爲シタルニ非
ラスト雖モ間接ニ他人ヲ教唆シテ之ヲ爲サシメタル者ナレハ取リモ直サス正犯ニシテ躬
自ラ之ヲ犯シタルト敢テ異ナル所ナシ故ニ前數條ニ記載シタル偽証及ヒ詐僞ノ陳述ヲ爲
シタルノ例ニ照シテ之ヲ處斷スル者トス

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ
自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

通常ノ自首ハ唯ダ本刑ニ一等ヲ減スルノミナレトモ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事
件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首スルニ於テハ直チニ其裁判ヲ改正シテ正當ニ歸シ

社會モ被告人モ共ニ其害ヲ被ラサルノ前ナレハ本刑ヲ全免スルモノトス是レ第八十八條
ニ所謂別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ナリ然レモ本條ノ明文「裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ
自首シタル時」トアルヲ以テ假令其裁判ヲ改正シテ正當ニ歸セシムルヲ得可ク又別ニ
其害ヲ被ムル者ナカラシムルヲ得可キ裁判確定前ト雖モ其裁判宣告アリシ後チニ至テ
自首シタル者ハ決シテ本條ニ從テ本刑ヲ全免スルモノニ非ラス即チ通常ノ自首ト同シク
唯ダ本刑ニ一等ヲ減スルニ止マルモノトス

○第七節 度量衡ヲ偽造スル罪(凡四條)

度トハ物尺ノ云ヒニシテ量トハ秤ノ云ヒニ秤ノ云ヒナリ此三器ハ人民交際
上ニ於テ一日モ欠ク可ラサル緊要ノ器具ナリ故ニ若シ夫レ之カ器ヲ變更シテ大
小アラシメハ公衆ハ大ニ其害ヲ被ムルニ至ル可シ然ルニ從來度ニハ餘リ偽造
シト雖モ其量衡ノ二者ニハ往々偽造アリテ量ニハ八分量ト稱シテ十ノ八分ナル
者アリ又購買ノ紙量ニハ間々十二分量ト唱ヘテ十二分ナルモノアリ衡ニハ賣量
買量ノ稱アリテ其所謂賣衡トハ真正ノ衡ヨリハ強キモノニテ少シク物ヲ掛ケテ
刑○第二百廿五條○第二百廿六條

其本目ニ至ルモノナレハ買者ハ之レカ爲メ損失ヲ被ムルノ恐レアリ然ルニ買衡ナルモノハ之レヨ一轉シテ眞正ノ衡ヨリハ弱キモノニシテ多ク品ヲ掛ケテ其當目ニ過ギサルモノナレハ賣者ハ之レカ爲メ損失ヲ被ムルノ患ヒアリ故ニ官其定規ヲ設ケテ之レニ檢印シテ發賣シ人民ヲシテ信ヲ措キ使用セシム然ルニ尙ホ且ツ間々之ヲ偽造スル者アリテ社會ヲ害スルヲ以テ本節ヲ此刑法中ニ編入シテ其偽造者ヲ罰スルモノトス而シテ本節ノ犯罪ハ鞭珊氏ノ所謂必罰ヲ期スル能ハサルモノナレハ其刑期内ニ於テ成ル可ク嚴罰スルヲ要スルナリ

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ノ明文「度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ云々」トアルヲ以テ唯タ其度量衡ニ偽造シ又ハ變造シタルノコトヲ以テ本條ノ問フ所ニ非ラス其偽造變造シテ且ツ之ヲ販賣スルニ至テ初メテ本條ノ問フ所トナリ以テ之レカ刑ヲ科スルモノトス而シテ

偽造トハ全部ヲ偽造スルヲ云フ變造トハ一部ヲ變造スルヲ云フ故ニ假令斛斗ノ縁鐵絛鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修復セ又ハ秤量ノ緒紐ヲ附替ヘル等僅少ノ變換ニテモ都テ之ヲ變造ト視做スナリ度量衡販賣人タル者能ク心得アル可シ

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス已レ自ラ度量衡ヲ偽造變造シタルコト非ラスト雖其偽造變造タルノ情ヲ知リテ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ二等ヲ減シテ之ヲ處斷スルモノトス但其情ヲ知テアルヲ以テ若シ全ク其情ヲ知ラスシテ之ヲ販賣シタル者ハ本條ノ問フ所ニ非ラサルナリ

第二百二十九條 商買農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

商買タルト農工タルトヲ論セス苟モ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スル者ハ必ス之ヲ其職業上ニ使用ス可キノ目的ナルヲ以テ其未タ之ヲ使用スルニ至ラスト雖其所有スルモノヲ以テ本條ニ規定シタル重禁錮ニ處シ又併セテ罰金ヲ附加スルモノトス

刑〇第二百廿七條〇第二百廿八條〇第二百廿九條

第二項若シ其定規ヲ増減シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得ルニ於テハ即チ人ヲ欺瞞シテ財物ヲ取リタルモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論シ第三百九十條ニ從テ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノトス

抑モ定規ヲ増減シタル度量衡ハ即チ禁制物ナレハ其何人ノ所有ヲ問ハス必ズ之ヲ沒收スルモノトス既ニ然レハ本條ニハ商賈農工トアリテ華士族官吏等ノ文字ナケレハ此等ノ者ト雖モ亦之ヲ所有スルニ於テハ本條ヲ以テ論ス可キモノト信スルナリ

又本條ノ明文「定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者」トアルヲ以テ假令其偽造變造ニ係ルルモ其定規ヲ増減セサルモノヲ所有スルハ本條ノ問フ所ニ非ラサルカ否未タ以テ判然セスト雖モ予輩ハ左ノ如ク推察スルナリ曰ク其偽造變造ノ情ヲ知テ之ヲ所有シタル者ハ假令定規ニ増減ナシト雖モ本條ヲ以テ之ヲ論ス可キモノトス曰ク其偽造變造ノ情ヲ知ラズシテ之ヲ所有シタル者ハ其定規ヲ増減セサルモノナル時ハ唯タ其器ヲ沒収スルニ止テ敢テ其罪ヲ論セサルモノトス

其定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スル者ハ其偽造變造ノ情ヲ知ラズト云フ口實ナキモノトスルモ其定規ヲ増減セサルモノハ其偽造變造ノ情ヲ知ラサルコト亦免レサルノ通患ナリ故ニ斯ク區別シテ其罰不罰ヲ分ケサレハ恐クハ法律ノ適用ヲ失スルニ至ラン故ニ予輩斯ノ如ク解釋セリ

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

人ノ囑託ヲ受ケタル者トハ即チ職工ニシテ固ト正犯ヲ以テ論ス可キモノナレハ人ノ囑託ヲ受ケテ爲シタルモノナレハ其情ニ於テ之レカ刑ヲ減輕セサルヲ得ス故ニ其正犯ノ本刑ニ照シ各一等ヲ減シテ之ヲ處分スルモノトス

○第八節 身分ヲ詐稱スル罪(凡二條)

身分ヲ詐稱スルハ其情甚タ惡ム可ク又之レカ爲メ或ハ他人ニ害ヲ被ムラシムルノ不幸ナキヲ保セ故ニ本節ヲ設ケテ其身分ヲ詐稱スル者ヲ罰スルナリ

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑○第二百三十條○第二百卅一條

本條ノ明文「官署」對シ云々「トアル」ヲ以テ旅店ニ投宿スル等ノ節詐稱スルハ本條ノ問フ所ニ非ラサルナリ

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僱用シテ者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪(凡四條)

本節ノ公選ノ投票トハ政事上ニ關スル公選ノ投票ニシテ即チ府縣會議員及ヒ其議長ヲ選舉スル投票或ハ區町村會議員及ヒ其議長ヲ選舉スル投票若クハ數町村聯合會議員及ヒ其議長ヲ選舉スル投票又ハ戶長、學務委員、衛生委員等ヲ選舉スル投票ノ類ヲ云フ彼ノ銀行株式及ヒ米商會社等政事上ニ關セサルモノハ此刑法ニ關スル所ニ非ラサルナリ

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス既ニ本文ヲ以テ判然タリ

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲セシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百三十六條 調書ヲ作り投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐稱ノ所爲アル者ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罪ハ其管掌者ノ犯ス所ノモノナレハ其自ラ詐偽ヲ爲スル最モ容易ニシテ且ツ他レリ之ヲ防禦スルハ最モ難ク加之其既ニ調書ヲ作り結局ヲ報告シタルノ後テ至テハ之ヲ改正スルハ頗ラ難キモノナレハ權衡ヲ得セシメンガ爲メ前數條ノ刑ヨリ更ニ重ク其刑ヲ科スルモノトス

刑○第二百卅二條ヨリ○第二百卅六條マテ

◎第五章 健康ヲ害スル罪(凡六節二十一條)

本章ニ掲クル所ノ罪ハ廣ク一般ノ人民ニ關シテ其健康ヲ害スルノ罪ニ係ルナリ
其特ニ一人又ハ數人ニ對シテ其健康ヲ害スルノ罪ハ第三編違警罪ニ之ヲ掲ケタリ
○第一節 阿片烟ニ關スル罪(凡六條)

人ノ健康ヲ害スルモノ阿片烟ヨリ甚クシキハナシ故ニ此節ヲ以テ本章ノ首メニ
置ク而シテ此節ノ關スル所ハ唯ク其阿片烟ノ一點ニ止テ敢テ藥用ニ供ズル阿片
ニ及ブモノニ非ラス其藥用ニ供スル阿片ノ如キハ別ニ規則アリ以テ之ヲ關スル
ナリ

第二百三十七條

阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣セタル者ハ有期徒刑ニ處ス

本條以下此節ノ刑ハ頗ル嚴ナルカ如シト雖モ是ニハ抑モ其然ラサル可ラサル所以ノア
カテ存スルナリ何シヤ隣國支那ニ於テ阿片烟ノ爲メ大害ヲ被ムリタルモノ我邦ノ善キ殿
鑑ニシテ我カ立法者ハ其犯罪ヲ豫防シ以テ害ヲ被ムテサテラントテ務ム故ニ之ヲ嚴ニセリ
韋廉士曰ク犯罪ヲ豫防セシムル其之ヲ制止スル所以ノモノナシテ其之ヲ誘導スル所以ノ

モノヨリ其力強カラシムルヲ要ス若シ夫レ其之ヲ制止スル所以ノモノナシテ其之ヲ誘導
スル所以ノモノハ其力弱クシテ其刑罰ハ之レニ由テ得ル所ナク唯ク徒ニ害ヲ與フルニ
止マル可シ其故何トナレハ不充分ナル刑罰ハ犯者ニ於テ其刑罰ニ處セラル、モ尙モ且ツ
其犯罪ヲ爲シタル方大ニ利ナリトノ思想ヲ起スヲ以テ其惡ヲ再ヒセサルヲ保シ難ク却テ
勢ヒ自ラ犯罪ヲ再ヒスルノ結果アリ故ニ社會ハ其益ナク犯者ハ刑ヲ被ムルヲ以テ其刑ノ
害ヲ受ク可キナリ之ヲ外科醫カ人ノ疼痛劇クシキヲ憐ミ治術ヲ施ストテ中止スルニ譬フ
其病者ノ身ニ加フルニ無益ナル截斷ノ苦痛ヲ以テシテ而シテ其治ヲ全クセサルハ豈ニ仁ノ術
ト稱ス可シヤ故ニ外科醫タル者ハ仮令憐レニモ致セ其病所ノ治シ得ル丈クハ必ス之ヲ截
斷セサル可ラス而シテ刑罰モ亦此ノ如シ其之ヲ誘導スル所以ノモノヨリハ其之ヲ制止ス
ル所以ノモノナシテ其力強カラシメハ人其比較ヲ爲シ到底割ニ合ハサルヲ感シ以テ其犯
罪ヲ止ムルニ至ル可シト以上韋廉士ノ說ニ據テ之ヲ考フレハ我カ立法者ノ意此節ノ罪ハ
務メテ豫防セントスルニ在ルヲ以テ勢ヒ之レカ刑ヲ嚴ニセサルヲ得サルナリ予輩モ亦固
ヨリ當ニ其然ラサルハカラサルヲ信スルナリ

刑○第二百卅七條

第二百二十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

阿片烟ヲ吸食スルハ尋常ノ煙草ヲ喫スルト異ニシ大概寢所ニ於テ之ヲ吸食シナカテ醉眠ナルモノトス故ニ支那地方ノ如キニ在テハ阿片烟ヲ吸食スル爲メ特更ニ房屋ヲ設ケテ之ヲ貸與シテ利ヲ圖ル者アリト云フ我邦ニ於テモ亦先年兵庫縣下ニ此犯人アリシト云テ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

我カ立法者ノ意發メテ阿片烟ノ害ヲ避ケントスルニ在リ故ニ其需用者マテモ亦併セテ之ヲ罰ス可キモノト定ム

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

阿片烟及ヒ其吸食ノ器具ハ禁制物ニ係ハルヲ以テ人民ニ於テ之ヲ所有ス可キモノニ非ラス故ニ若シ之ヲ所有スルコト於テハ之ヲ吸食スルノ疑ヒナキ能ハス是ヲ以テ未タ之ヲ吸食スルコト至ラスト雖モ苟モ之ヲ所有スル者ハ其自家ノ物タルト他人ヨリ寄托ヲ受ケタル物タルトニ論ナク一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ其器具又ハ阿片烟ニ因テ得タル利益ハ都テ之ヲ沒收スルモノトス

○第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪(凡三條)

社會ノ必要物水ニ過クルモノナクシテ而シテ人ノ疾病ニ其水ノ汚穢ナルニ原因スルモノ最モ多シト去レハ如何シ飲料ノ淨水ヲ汚穢スルノ刑ナカル可ケンヤ

是レ本節ノ設ケアル所以ナリ
刑○第二百卅八條ヨリ○第二百四十二條マテ

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

〇第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪(凡四條)

天下恐ル可キモノ傳染病ヨリ甚クシキハナシ抑モ此傳染病ナル者ハ貴賤貧富ヲ分タスニ依リ流行スルニ於テハ百萬ノ生靈モ一夏ニシテ空シク鬼籍ニ入ラシムルノ慘狀アルヲ目撃スルハ屢々ニシテ珍ラシカラサルノ事實ナリ是ヲ以テ我カ

政府ハ其傳染病豫防規則ヲ頒布スルモノ既ニ數個ニ及ヘリ即チ檢役停船規則虎

列刺病豫防規則及ヒ傳染疫牛處分規則傳染牛疫豫防規則等ノ類ナリ今本節ハ此

等ノ傳染病豫防規則ニ違背シタル者ヲ罰スルモノトス

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ其輕禁錮ト罰金ノ間ニ又ハノ二字アルヲ以テ二刑併セ科スルモノニ非ラス法官ノ意見ニテ輕禁錮ナリ又ハ罰金ナリ孰レニテモ其宜シキニ從テ之ヲ科スル者トス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ等シ加フ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑〇第二百四十三條ヨリ〇第二百四十八條マテ

日本條亦第二百四十六條同之ヲ輕禁錮罰金ヲ併セ科スルモ非ラヌ法官ノ意見ニテ孰レ
九其一刑失科スルモノトス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ十
日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條モ亦前條ト同シク輕禁錮カ罰金カ其一刑ヲ科スルモノトス
○第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪(凡三條)

○第一節 危害品トハ即チ火藥雷管等破裂質ノ物品ヲ云ヒ健康ヲ害ス可キ物品トハ即チ臭
氣及ヒ毒質ヲ帶ヒタル物品ヲ云フ此等ノ物品ハ皆ナ固ト官ノ許可ヲ受ケ其規則

ニ從フニ非ラサレハ以テ之ヲ製造スルコトヲ得サルモノナリ故ニ此等ノ物品ヲ官
ノ許可ヲ得サルガ又ハ官ノ許可ヲ得ルモ其危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ

違背シタル者ハ本節ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス
第二百五十條 官許ヲ得ズシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上
二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ
保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ
照シ重キニ從テ處斷ス

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ其罪重シ然レモ是レ故意ニ出テタル
ニ非ラサシテ全ク過失ナレハ之ヲ過失死傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ之ヲ處斷スルモノ

○第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪(凡三條)

健康ヲ害ス可キ飲食物トハ有毒質ノ物品ヲ他ノ飲食物ニ混和シテ販賣スルヲ云
フ彼ノ腐敗シタル飲食物ヲ販賣スルカ如キハ第四編違警罪中ニ在リ

刑○第二百四十九條ヨリ○第二百五十二條マテ

四二三

第二百五十三條、人の健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ノ如キハ其害ヲ公衆ニ及ホス可シト雖モ畢竟一己ノ利益ヲ圖ルコト汲々トシテ敢テ他人ヲ害セントスルノ故意ニ出テタルモノニ非ラザレバ之ヲ第二百四十四條ニ記載シタル健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒ水質ヲ變シタルモノニ比ス可ラス何トナレハ第二百四十四條ノ罪ノ如キハ已レテ利セントスルノ意アルニ非ラズ又他コト意アルニ非ラズ即チ之ヲ故意ナリト視做サハルヲ得サレハナリ去レハ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ第二百四十四條ノ罪ト同一視ス可ラス故ニ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ唯々三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スルコト止マルモノトス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 本條ノ罪ヲ犯スニ於テ其害前條ノ罪ヨリ更ニ大ナリ故ニ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

第二百五十五條 前三條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條

ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ第二百五十二條ノ精神ト同シク且ツ其意モ亦一ナレハ敢テ贅釋ヲ施サス

○第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪(凡二條)

西諺ニ曰ク藥セサレハ中醫ニ當ルト其レ然リ故ニ歐醫ノ診察ヲ以テ投スル藥ハ却テ其藥セサレニ劣リ之レカ爲メ疾ヲシテ病ヲラシメ一層ノ危篤ニ至ラシム可キハ吾人ノ屢々聞見スル所ナリ左レハニヤ我國ノ諺ニモ亦千人殺ロサハレハ以テ通常ノ醫師タル能ハスト云ヘリ是レ其數タルノ時ニ當テ早既ニ開業スルヲ以テナリ故ニ若シ夫レ通常ノ醫師タル可キノ學業ヲ積メテ而シテ後チ開業セハ則チ其開業シタルノ時既ニ通常ノ醫師タレハ決シテ人ヲ殺サスシテ事濟ムナリ古來醫ハ仁術ト稱スルニ非ラズヤ夫レ仁術トハ人ノ疾病ヲ治療シ其將ニ死ナントスル篤疾モ藥劑ノ調合宜シキヲ得テ之ヲ回生セシムルニ因テ此名アルモノナリ然ルヲ管ニ之ヲ治療セサルノミナラス却テ之ヲ危篤ニ至ラシメ其未タ死ヌ可ラサル者モ一匙ノ爲メニ之ヲ殺スハ豈ニ其レ之ヲ仁術ト稱ス可ケンヤ此等ノ醫ハ刑○第二百五十三條

實ニ不仁術ニシテ予輩ノ大ニ排斥スル所ナレトモ天下人民ノ多キ其良醫ト數醫ト
 ナ知ラサル者亦多シトス是ヲ以テ其數醫ニ生命ヲ進呈スル者亦少ナシトモ是
 レ何ニ因テ然ルカ積日ハ醫ノ試験ナキヲ以テ假令數タルモ尙ホ且ツ之ヲ開業ス
 ルコトヲ得ルニ因テ然リシナリ嗚呼亦恐ル可キ哉我ガ明治政府ハ夙ニ此病ヲ察シ
 醫業ヲ爲サントスル者ハ必ス官ノ試験ヲ經テ免狀ヲ得タル者ニ非テサレハ之ヲ
 許サルコト定メタリ故ニ若シ其試験ヲ受ケス醫術開業免狀ヲ得スシテ私ニ醫
 業ヲ爲シタル者ハ本節ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ假令其本方ヲ誤ルコトナク又人ヲ傷害スルコトナシト雖
 モ都テ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス但シ醫術開業免狀ヲ得タル醫師ノ門弟
 コシテ師ノ代診ヲ爲シタル者ノ如キハ假令官許ヲ得タルコト非ラスト雖モ本條問フ所ノ限
 リニ非ラサル可シ

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各

本條ニ照シ重キ罪ニ從テ處斷スルコトナリ
 前條ノ犯人即チ官ノ許可ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者其治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷
 ニ致シタル時ハ其故意ニ出ルコト非ラズ即チ其術ノ拙キカ爲メコト人ヲ傷害シタルモノ
 ハ之ヲ過失殺傷ノ各本條ト前條トノ罪ヲ照シ合セ孰レコトモ其重キ方ノ一刑ヲ科スルモ
 ノトス

第六章 風俗ヲ害スル罪(凡六條)

本章ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ公然衆人ノ目前ニ於テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ニ係ハルヲ以テ告訴ヲ待タズ
 シテ直ニ之ヲ罰スル者トス然レモ第三百四十六條第三百四十七條ニ記載シタル猥褻ノ所
 行ノ如キハ固ト私ニ犯ス所ノ者ナレハ其被害者若クハ親屬ノ告訴ヲ待テ之ヲ罰スルナリ
 第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタルハ
 四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑○第二百五十四條ヨリ○第二百五十九條マテ

註釋家皆本條中ノ公然ノ文字ハ其陳列ト販賣トノ二者ニ關スルモノナレハ若シ公然ナ
 ラサル時ハ孰レモ本條問フ所ノ限リニ非ラスト解釋スレモ予輩ノ推察スレ所ヲ以テスレ
 ハ其公然ノ文字ハ獨リ陳列ニ關シテ販賣ニハ關セサル者ト信スルナリ何トナレハ二者ノ
 間ニ又ハノ二字ヲ以テ前後ヲ分斷シ又更メテ出ルモノナルヲ以テ公然ノ文字ハ後及ハ
 サレハナリ左モアリツラン陳列ハ見世ニ措クハ即チ公然ノ陳列ニシテ與ニ置クハ即チ公
 然ノ陳列ニ非ラスト云フ公私ヲ別ツ所ノ標準アレモ販賣ニ於テハ能ク之レカ公私ヲ別ツ
 所ノ標準アルナシ何レノ場合ニ於テモ亦之ヲ公然ナリト云ヒハ則チ公然ナリ之ヲ公然ニ
 非ラスト云ヒハ則チ公然ニ非ラサルナリ好シヤ其公私ヲ別ツ所ノ標準ヲ得可シトスルモ
 其公然販賣シタル者ハ固ヨリ其公然ニ非ラストモ之ヲ販賣シタル者ハ其唯々陳列ニ止テ
 未タ之ヲ販賣セサル者ト其情等シカル可シ故ニ現ニ法官ノ處分ハ何レニ在ルニ致セ予輩
 ハ本條ノ法文ニ從ヒ且ツ其法理ニ問ヒ左ノ如ク解釋スルナリ
 曰ク其公然陳列シタル者ハ假令未タ之ヲ販賣スルニ至ラスト雖モ本條ヲ以テ之ヲ論スル
 モノトヌ曰ク其一ヲ販賣シタル者ハ假令公然ニ非ラスト雖モ亦本條ヲ以テ之ヲ問フ者

トヌ

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重
 禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

社會ノ盜賊賭博ニ原因スルモノ最モ多シトス故ニ其盜賊ノ禍原ヲ減セシカ爲メ本條及ヒ
 次條ヲ以テ其賭博ニ關スル者ヲ罰スルナリ

明治十七年一月四日太政官布告第一號ヲ以テ左ノ如ク布告セラレタリ

賭博犯ノ儀ハ刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内行政警察ノ
 處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行
 ハシム

賭博犯處分規則

第一條賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處
 ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ博徒ニシテ黨類ヲ招
 結シ又ハ賭場ヲ開張シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ橫行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲
 刑○第二百六十條

罰及ヒ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前
項ニ依テ處分スルハ其罰額ノ半ニ減スルコトヲ得

第二條賭具及賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒入ス

第三條賭博犯ヲ取押フルコトハ何人ノ家宅ヲ問ハズ何時タリトモ之ニ立入ルコトヲ得
但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜之
決定ヲ內務卿ノ許可ヲ得テ施行スルコトヲ得

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭ス
ル者ハ此限リニアラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ沒收ス

本條中「但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ非ラス」トアルヲ以テ雙六ノ如キ各々飲食物ヲ賭ス
ル者ハ固ヨリ以テ本條ノ問ヲ所コ非ラサル可キモ其一方ハ財物ヲ賭シ一方ハ飲食物ヲ賭

シタル者ハ之ヲ如何ス可キヤ違警罪第四百二十八條第四項ニ「路上ニ於テ賭博ニ類スル
商業ヲ爲シタル者」トアルハ是レ即チ廻リ當テ飴屋又ハトツコイ々々々ノ如キモノヲ
指スモノト解スルナリ果シ然ラハ此等ノモノハ何レモ皆ヲ賣者ハ飲食物ヲ賭シ買者ハ財
物ヲ賭スル者ナレハ假令一方ハ飲食物ヲ賭スルモ他ノ一方コソ財物ヲ賭スル時ハ則チ此
刑法ヲ以テ之ヲ論ス可キモノト信スルナリ既ニ然リトモ是ニ於テ左ノ分解ヲ得タリ

曰ク各々財物ヲ賭スル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰シ其一方ハ財物ヲ賭スルモ他ノ一方コシテ
飲食物ヲ賭スル者ハ違警罪第四百二十八條ヲ以テ之ヲ罰シ其各々飲食物ヲ賭シタル者ハ
本條ノ但書ヲ以テ之ヲ全ク其罪ヲ論セサルモノトス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上
六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

富籤トハ所謂千人會ナルモノコシテ其事固ト賭博ニ非ラスト雖モ云ハ、體裁ノ善キ賭博
ニシテ畢竟異名同實ナルモノナリ故ニ本條ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓
刑○第二百六十一條○第二百六十二條

以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 異ナリ本條コソハ公然ノ文字即チ神祠佛堂墓所其他禮拜所ノ總体ニ係

ハルナリ是レ一目瞭然小學童子尙ホ且ツ解スルコト難カラサル所ナレハ敢テ此點ニ向テ喋

々ノ註釋ヲ贅セス但シ本條ノ罪ハ其法文ニ在ルカ如ク唯タ其不敬及ヒ妨害ニ止マルモノ

トス故ニ其墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者若クハ神祠佛堂其他公ノ建造

物ヲ汚損シタル者ノ如キハ違警罪第四百二十六條ヲ以テ之ヲ罰スルナリ

○第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪(凡三條)

抑モ此刑法ナルモノハ身惡ヲ罰スルモノコシテ其心惡ハ之ヲ宗教ニ讓リテ敢テ之

ヲ問ハサルモノトス否ナ又之ヲ問フノ場合アリト雖モ其身惡ニ顯ハレテ初メテ之

ヲ問フモノナレハ若シ唯タ其心惡ノミヨ止マル時ハ對人ノ生時ニ在テ現ニ其面前

ニ於テ之ヲ殺サントスルノ惡心アルモ此刑法ハ決シテ一言片句チ出サレモ若シ

其身惡ニ顯ハル、以上ハ對人ノ生時ハ固ヨリ其死後ト雖モ亦之ヲ罰スルナリ是レ

此刑法ノ旨トスル所其人ノ生死ニ在ラスシテ其身上ニ顯ハル、ノ惡ヲ罰スルニ在

レハナリ故ニ本章ヲ設ケテ死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル者ヲ罰スルナリ

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者トハ其埋葬ノ失費勞力ヲ厭ヒ其未タ埋葬セサル死屍ヲ道

路河川等ニ遺棄スルノ類ヲ云フ故ニ其未タ埋葬セサル死屍ヲ毀棄シタル者ハ假令其屍ヲ

失ハスト雖モ亦本條ヲ以テ之ヲ論スルモノトス但シ官許ヲ得シテ死屍ヲ解剖シタル者

或ハ自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者等ハ違警

罪第四百二十五條ヲ以テ罰スルモノニ係ハルナリ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁

錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

刑○第二百六十三條○第二百六十四條○第二百六十五條

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

四三三

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ノ意義ハ過條ニ於テ屢々説明シタルハ敢テ又茲ニ之ヲ贅セス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪(凡六條)

論者ノ常ニ憂フル所ハ政事上ノ自由ヲ妨害サル、ニ在リ而シテ予輩モ亦大ニ之ヲ

患フルト雖也之ヲ職業ノ自由ヲ妨害サル、ニ比スルハ予輩ハ其職業ノ自由ヲ妨

害サル、ヲ以テ其害更ニ大ナリトス何トナレハ彼ノ政事上ノ自由ヲ妨害セラル、

カ如キハ敢テ活路ニ窮スル等ノコトナント雖也此ノ職業ノ自由ヲ妨害セラル、ニ於

テハ其活路ニ窮スルニ至ルノ不幸ニ陷レハナリ其レ然リ故ニ本章ヲ設ケテ其職業

ノ自由ヲ妨害スル者ヲ罰スルモノトス

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ缺少可カラサル食用物ノ賣買

ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

穀類其他衆人ノ需用ニ缺少可カラサル食用物ハ即チ味噌、醬油、鹽等ノ類ニ云フ故ニ本

條第一項ニ此等需用ニ缺少可ラサル必要ノ食用物ニ限リ之ヲ問フモノナリ世ノ註釋家

ハ皆チ茶ヲ以テ需用品ト爲シテ之ヲ第一項ヲ以テ論ス可キモノト爲セヒ予輩ハ茶ハ第二

項ニ屬ス可キモノナリト信スルナリ何ナレハ茶ハ固ト能ク之レカ性質ヲ尋ヌルハ米

鹽等ノ如キ需用品ニ非ラスシテ寧ロ之ヲ養澤品ト云フ可キモノナレハナリ夫レ米鹽等ハ

社會一日モナカル可ラサルモノニシテ若シ之レナキニ於テハ人民ハ生命ヲ保ツト能ハサ

レモ茶ノ如キハ否ラス俗ニ所謂有リテモ無クテモ可ナルモノナリ故ニ假令之レナシト雖

モ之レカ爲メ人民ノ生命ヲ保ツト能ハスト云フコトナシ然ラハ則チ茶ハ第二項ニ屬ス可キ

モノナルヤ明カナリ若シ夫レ之レナモ需用品ナリトモハ汁粉モ蕎麥モ團子モ飯團餅モ皆

ナ需用品トセサルヲ得ス終ニ天下ノ食物ヲ擧ケテ皆チ需用品トセサルヲ得サルニ至ル可

シ嗚呼其レ誤解モ亦甚タシカラスヤ

第二項食用物ニ非ラサル物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ其必要 不必要トチ問ハス都テ前項

刑○第二百六十六條○第二百六十七條

ノ刑ニ一等ヲ減シ處分スルモノトス假令其食用物ナリト雖モ敢テ需用品トスルニ足ラザル物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ亦前項ノ刑ニ一等ヲ減シ處分スルモノナリ

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セサレモ其糶賣トハ財産ノ競賣ヲ云フナリ

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威カヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變ズル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威カヲ以テ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ前條ノ反對ノ刑罰ヲ規定シタルモノニシテ亦敢テ註釋ヲ要セス

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

虚偽ノ風説ニ流布スルトハ例ヘバ戦争アリト偽リ或ハ天災アリト欺キ以テ物品ノ價直ヲ騰貴シ若シ之ヲ下落セシメテ人心ヲ惑乱シ害ヲ公衆ニ被ラセ已レ獨リ利益ヲ占メント

圖ル者ノ類々云フ又假令已レテ利セントスルノ目的ナシト雖モ虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ都テ本條ヲ以テ之ヲ罰ス可キモノトス抑モ本條ノ需用物品ハ第二百六十七條ト異ニシテ其區域頗ル廣ク其食用物ト否トヲ問ハ

ズ苟モ社會ノ需用物品ハ悉皆之ヲ包括スルモノトス故ニ味噌醬油鹽等ハ固ヨリ薪、炭、油、衣服、木材等衆人ノ必ス缺ク可ラサル物ノ價直ヲ虚偽ノ風説ノ爲メ昂低セシメタル者ハ

都テ本條ヲ以テ之ヲ罰スルナリ然レモ本條ノ明文「需用物品」トアルヲ以テ若シ其敢テ需用品トスルニ足ラサル物ニ係ル時ハ本條ノ問フ所ニ非ラサルナリ既ニ然リトモハ其需用物品ト不需用物品トノ間ニ一定ノ區界ナカル可ラサルナリ然ルニ實際一目ニシテ之ヲ

刑○第二百六十八條ヨリ○第二百七十二條マテ

分別スルヲ得可キ物モアリ又或ハ容易ニ之ヲ分別ス可ラサル物ナキニ非ラサレハ予輩
ハ單ニニ法官ノ注意ト公平ヲ乞フナリ本條ノ旨ハ...

○第九章 官吏瀆職ノ罪(凡三節十九條)

元來官吏ノ職務ニハ畫然タル一定ノ區界アリテ決シテ之ヲ上下ス可ラサルモノナ
リ蓋シ之ヲ上リ其權ヲ越ユル時ハ之レカ爲メ人民ノ自由ヲ妨害スルノ患アリ若シ
又之ヲ下リ其職務ヲ怠ル時ハ勞セシテ其給金ヲ食ルノ恐レアリ過不及ハ彼ノ道
徳止ニ於テ之ヲ禁スレド此ノ法律上ニ於テモ亦之ヲ許サハルナリ故ニ本章ヲ設ク
官吏ノ職務ヲ過不及シテ之ヲ罰スルナリ
○第一節 官吏公益ヲ害スル罪(凡三條)

○第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セズ又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨

害シタル者ハ三月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ノ罪ヲ犯シ其輕禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ第二十三條ニ照シ現任ノ官職ヲ失フモ

ノトス

○第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ビ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮

撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サハル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ第二百七十七條ノ反對ノ注文ナリ即チ彼ノ第二百七十七條ハ陸海軍ノ將校タル者故ナ

ク出兵ヲ肯セサルノ罪ニシテ本條ハ其出兵ヲ要求スル權アル官吏タル者其出兵ヲ要ス可
キ場合ニ至リ怠リテ之ヲ要求セサルノ罪ナリ而シテ彼ノ第二百七十七條ニハ故ナク明文
アルヲ以テ若シ其故ノアル時ハ其罪ヲ論セサレド本條ニハ其明文ナキヲ以テ其出兵ヲ要
ス可キノ場合ニ至テハ假令故アルモ尙ホ且ツ本條ヲ以テ之ヲ論ス可キモノトス

○第二百七十七條ノ刑ト本條ノ刑ヲ比較スルニ彼レニ輕クシテ此レニ重シ是レ何ニ因テ然ル

カ世ノ註釋家ハ皆ナ直轄ス可キノ任ト否トニ因テ然ルナリト解スレド予輩ハ斯ク解スル
能ハサルナリ否ナ此ノ如ク解スルヲ得可キモ其常職アル者ノ偶マ怠リタルト其常職ナ
ク僅カニ變ノ爲メニ備ヘタル者其變ニ當テ之ヲ怠リタルトノ間ニ就キ彼レヲ輕クシテ此

刑○第二百七十三條○第二百七十四條

レヲ重クセル予輩未ダ其法律ノ精神ヲ得サレハ敢テ此點ニ向テ之ヲ註セサルナリ
第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ
處ス

官吏タル者ハ俸給ノ爲メ其身ヲ官ニ致シタルモノナレハ決シテ商業ヲ爲シ利益ヲ圖ル可
ク若シ官吏ニシテ商業ヲ爲ス時ハ忽チ鄙吝ノ心ヲ生シ私利ヲ圖ルコトシテ其職務
ヲ慢ニスルノ恐レアリ故ニ明治八年四月第六十五號ヲ以テ之ヲ禁ス即チ本條ハ其規則ニ
違背シテ商業ヲ爲シタル者ヲ罰スルモノトス然レモ本條ノ明文商業トアルヲ以テ其農工
業ニ係ハル時ハ敢テ本條ノ問フ所ノ限リニ非ラサル可シト信スルナリ
抑モ本條ノ罪ハ前二條ノ罪ト其輕重略ホ比較スルモノナレハ固ト之レニ禁錮ノ刑ヲ科ス
可キ罪質ニ非ラサルヲ以テ罰金ノ最多額ヲ五百圓トシ其權衡ヲ取レリ

參考ノ爲メ明治八年四月第六十五號ノ達ヲ左ニ掲載セン

第一條凡ソ官吏タル者並ニ其家族トモ他ノ物品ヲ買入レ之ヲ餘人ニ賣リ以テ利ヲ獲ルモ
ハ或ハ他ノ生産ヲ買入レ製作ヲ加ヘ之ヲ販賣シテ利ヲ獲ル等ノ業一切禁止ノ事

但區長郵便取扱人學區取締役等外吏ノ分ハ此限ニアラス

第二條官吏ノ家族自己ノ財ヲ以テ商買ノ業ヲ營マント欲スル者ハ分籍別居ノ上相營ムヘ
キ事

第三條左ノ數件ハ商買ノ業ニアラサルニ付官吏タル者ト雖モ制禁ニアラサル事

但商買同様ノ店ヲ開クハ不相成候事

- 一 礦山田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事
- 一 田地家屋ヲ貸シテ地代宿賃ヲ獲ル事
- 一 金銀ヲ貸シテ利息ヲ獲ル事
- 一 所有地ヨリ生スル物産ニ製作ヲ加ヘ賣拂事

明治八年五月第八十七號達ヲ以テ第三條第一項ヲ左ノ如ク改正セリ

一 礦山借區營業及ヒ田地ヲ所有シ其利ヲ獲ル事

〇第二節 官吏人民ニ對スル罪(凡十三條)

此節ノ罪ハ本編第三章第二節ノ罪ト相對スルモノナリ予輩ハ總則第二條及ヒ條
刑〇第二百七十五條

三條ノ下ニ於テ其兩條ハ自由民權ヲ保護スル所ノ金城鐵壁ナリトシテ註シテ

リシカ今本節ノ十三ヶ條ハ何レモ皆自由民權ヲ保護スルノ金城鐵壁ナリ其レ

既ニ此ノ金城鐵壁アルヲ以テ予輩人民ノ自由民權ヲ保護ス可シ
第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ヲキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利

ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルコ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告
ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セズ

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セズ人ヲ逮捕シ又ハ不正コ人
ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
但監禁日數十日ヲ過クル毎コ一等ヲ加フ

法律ニ定メタル程式規則トハ治罪法ニ規定シタル逮捕監禁ノ程式規則ヲ云フ而シテ本條
ノ刑ハ第三百二十二條ノ常人ノ犯シタル同罪ノ刑ヨリ重キハ是レ其職務上ノ犯罪ナルヲ
以テナリ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム
可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻
ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

囚人囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

囚人ハ固ト嚴ニ之ヲ檢束ス可キモノナレト決シテ其度ヲ踰ヘテ無情ヲ極ム可ラス故コ若
シ其度ヲ踰ヘテ無情ヲ極ムル時ハ假令未ダ囚人ヲ傷害スルコ至ラスト雖モ三月以上三年

以下ノ重禁錮ニ處シ又併シテ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑○第二百七十六條ヨリ○第二百八十條マテ

四四二

第三項若シ前項ノ所爲ヲ行ヒタルニ因リ四人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ノ刑ニ一等ヲ加ヘタルモノト此第二百八十條トテ照シ合セ孰レコテモ其重キ方ノ一刑ヲ科スルモノトス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏四人ノ監禁ヲ解クコトヲ忘リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

本條ノ官吏トハ司獄官吏ヲ指スナリ而シテ本條ノ罪ハ其故意ト過失タルトニ係ハラズ都テ之ヲ罰スルモノトス然ルテ或ル註釋家ハ忘リノ文字アルヲ以テ唯タ其過失ヨリ出ルモノヲ問テ決シテ其故意ニ出ルモノヲ論セスト解スレモ予輩ハ其然ラサルヲ信スルナリ何トナレハ若シ之ヲ本條ニ問ハサルコトセハ即チ通常ノ毆打創傷ノ各本條ニ從テ之ヲ論セサルヲ得ス既ニ然カクセハ其故意ニ出テタル者輕クノ却テ其過失ニ出タル者重キニ至ルノ不都合アリ是レ立法者ノ精神ナランヤ故ニ本條ヲ解センコトハ宜シク左ノ如ク解ス可シ曰ク過失ニテステ尙ホ且ツ然リ況ンヤ故意ニ於テヤ必ス本條ヲ以テ論ス可キモノタルヤ亦明カナリ

第二百八十二條 裁判官檢察官及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セザルヲ爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

五四二

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
李拔氏曰ク人ノ罪ノ有無ヲ審判スル時ハ其人ハ即チ被告ニシテ社會即チ政府ハ怨怒ヲ含ム原告タルナリ寡ハ固ヨリ以テ衆ニ抗スルコト能ハサルカ故ニ裁判ノ公平ナルコト非法ノ裁判ヲ受ケサルコトノ堅固ナル保証アルニ非ラサレハ一人ノ被告ハ社會ノ爲メニ抑壓セラル、ノ患ヲ免ル、ノ難シ政府ハ社會ノ威權ヲ集メテ掌握スルモノニシテ政府ハ即チ威權ナリト云フモ亦可ナリ而シテ威權ハ他物ノ已レニ抗スルヲ好マス若シ阻礙アレハ必ス之ヲ破排セシメト欲スルノ性質ヲ有スルモノナリ故ニ審判ヲ受クル人ヲ保護スルノ庇保ハ甚ク堅固ナラサル可ラスト今本條ハ即チ其審判ヲ受クル人ヲ保護スル所ノ甚ク堅固ナル庇保ナリ

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者刑ニ第二百八十一條ニ照シ第二百八十二條

六四二

十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

本條ノ明文「故ナシ」トアルヲ以テ若シ其故ノアル時ハ本條問フ所ノ限リニ非ラサル
可シ雖モ其故ハ必ス故モ故大故タルヲ要スルナリ故ニ若シ夫レ其故タルヤ小故タレハ
決シテ其故アリトスルニ足ラサルナリ既ニ其故アリトスルニ足ラストモ則チ本條ヲ以
テ之ヲ論ス可キモノトス而シテ本條ハ其全ク受理セサルモノハ固ヨリ假令之ヲ受理スル
モ遷延シテ之ヲ審理セサル者モ亦之ヲ罰ス可キモノトス

第二百八十四條 官吏ハノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年
以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

本條ノ官吏トハ裁判官、檢事、警察官吏ヲ除クノ外一般ノ官吏ヲ云フナリ故ニ其何レニ屬
スル官吏タルヲ問ハズ苟モ人ヨリ不正ノ囑託ヲ受ケ爲メニ金銀物件ノ賄賂苞苴ヲ收納シ
又ハ未ダ之ヲ收納スルニ至ラスト雖モ既ニ其之ヲ收納ス可キヲ聽許シタル者ハ都テ之

ヲ罰スルモノトス

第二項若シ賄賂苞苴ノ爲メニ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ前項ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ之ヲ
斷スルモノトス

本條以下其賄賂ヲ贈ルノ人ハ唯々其賄賂ノ金額若クハ物件ヲ沒收セラレ、ニ止テ敢テ其
他ニ刑ヲキモノトス

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以
上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

本條ノ不正犯罪ノ害ハ權利義務ノ裁判上ノ事ナルヲ以テ前條ヨリ更ニ甚タシトス故ニ之
レカ刑ヲ重クセリ

七四二

第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタ
者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ
刑○第二百八十三條ヨリ○第二百八十六條マテ

附加ス

八四二 其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

本條ハ刑事ニ關スル賄賂ニシテ其害直チニ被告人ノ身體ノ上ニ及フモノナレハ之ヲ前條民事ノ害ニ比スレハ其害更ニ大ナリトス故ニ之レカ刑ヲ重クシ且ツ數項ノ例ヲ設ケ反坐法ヲモ規定セラレタリ

第二百八十七條 裁判官檢察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾キ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

無辜者ヲシテ冤枉ニ陷レシメハ即チ良民其害ヲ受ク若シ有罪者ヲシテ無罪放免ノ僥倖ヲ得セシメハ則チ社會其害ヲ被ムル故ニ本條ヲ設ケテ其兩害ナカラシメノヲ務メタリ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂既ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

本條ハ其既ニ賄賂ヲ收受シタル者ノミヲ問フモノナリ故ニ若シ唯々其收受ヲ聽許シタルノミニ止テ未ダ之ヲ收受セサルモノハ敢テ其金額物件ヲ沒收セズ又敢テ之ヲ追徴セサルモノトス

○第三節 官吏財産ニ對スル罪(凡三條)

本節ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第二百八十九條 官吏自ラ看守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

竊取シ難キモノト竊取シ易キモノトノ間ニハ同一竊取ノ場合ニ雖モ其刑ノ輕重ナカル可

ラス即チ竊取シ難キモノ、刑ハ輕クシテ竊取シ易キモノ、刑ハ重クセサル可ラス是レ其

權衡ヲ平準セシカ爲メナリ今本條ノ犯罪ハ最モ爲シ易キモノニシテ且ツ其職務ニ背クモ

ノナレハ其情ニ於テ甚ク惡ム可シ故ニ之レカ刑ヲ重ク科スルモノトス

第二項ノ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ストハ即チ重懲役ニ處スルヲ云フナリ

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以

刑○第二百八十七條ヨリ○第二百九十條マテ

上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
租税以下其他諸般ノ入額トハ手數料、沒收、罰金、科料、等ノ類ヲ云フ而シテ其正數外ノ金
穀ヲ徵収シタル者ハ其已レノ懷中ニ入ル、ト否トヲ問ハス都テ之ヲ本條ニ問ヒ罰スルモ
ノトス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監
視ニ付ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

◎第三編 身體財産ニ對スル罪(凡二章百三十三條)

本編ハ即チ私益ニ關スル罪ナリ

◎第一章 身體ニ對スル罪(凡十三節七十四條)

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第一節 謀殺故殺ノ罪(凡七條)

本節ノ殺人罪ハ其過失ヨリ出ルコト非ラヌシテ其全ク之ヲ殺ロサントスルノ志念

ヲ以テ之ヲ殺シタル者ニ係ハルナリ

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

刑法草案第三編第四條ニ曰ク「手段ノ何様タルヲ論セス早晚人ヲ死ニ致スヘキ藥品ヲ用

ヒテ人ヲ故殺スルハ之ヲ毒殺ト名ケ豫メ謀ラサルモノト雖モ死刑ヲ以テ之レヲ罰ス」ト

坡亞曾拿德氏ノ説明ニ曰ク「毒殺ノ兇器最モ恐ル可クシテ之ヲ爲スハ秘密ノ間ニ於テス

故ニ之ヲ防クモ亦須ラク嚴ニス可キナリ何故ニ最モ恐ル可クシト言フヤ人命ニ關スル他ノ

犯罪ノ如ク器具等ヲ用ヒテ公然顯行スル者ニ同シカラス故ニ學術精シク化學盛ナル國ニ

於テモ此犯罪ヲ證スル能ハスシテ罪人刑ヲ追ル、ト往々之レアリ况ンヤ此等ノ學術未ダ

備ハラサル國ニ於テチヤ」ト其レ然リ顯然タル暴行ハ被害者ニ於テモ亦之ヲ防クノ方法

ナキニ非ラサレハ陰微ノ間ニ暴行ヲ爲ス者ハ被害者ニ於テ全ク之ヲ禦クニ手段ナシ故ニ

其權衡ヲ平準センカ爲メ且ツ其危險ナル犯罪ヲ豫防センカ爲メ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シ

刑〇第二百九十一條〇第二百九十二條〇第二百九十三條

タル者ハ其豫メ謀ルト否トヲ分ク大皆テ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處スルナリ否テ此毒殺ニ於テ即時ニ施ス可キモノニ非ラス故ニ一切之ヲ謀殺ト認ムルナリ是レ本條ニ於テ謀殺ト否トチ區別セズ之ヲ混シテ一ニシタル所以ナリ

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

故殺トハ始メヨリ人ヲ殺スノ意アルコト非ラズ臨時殺意ヲ發シ故サヲ人ヲ殺シタル者ヲ云フ而シテ此故殺ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期徒刑ニ處スルモノトス謀殺ト故殺トハ其之ヲ殺サントスルノ心ヲ生シタルノ時間ニ前後ハアレ等シク之ヲ殺サントスルノ意ヲ以テ人ヲ殺シタルモノナリ去レト其之ヲ殺サントスルノ心ヲ生シタルノ前後ヲ以テ之レガ刑ヲ異ニセサル可ラサルノ理由アルモノト見ヘタリ予盡未ダ其精神ヲ得ズ

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス

支解トハ肢體ヲ分解スルノ類ヲ云フ所謂首足其處ヲ異ニスルモノナリ折割トハ腹部ヲ割キ臟腑ヲ顯ハシ或ハ肉ヲ殺キ骨ヲ折キ若クハ腹内ノ生膽ヲ抜キ胎兒ヲ出スノ類ヲ云フ其他慘刻ノ所爲トハ毒蛇ニ咬マシメ又ハ湯火ニテ燒爛スルノ類ヲ云フ其レ此等ノ所行ハ極

メテ殘忍慘愴ニシテ其情大ニ惡キモノナレハ謀殺ニ非スレテ故殺ナリト雖也之ヲ死刑ニ處スルナリ

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免ガル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メトハ例ヘハ強竊盜ヲ犯サントスルコト當リ守門者アルチ患ヒ逃カコ之ヲ故殺スルノ類ヲ云フ已ニ犯シテ其罪ヲ免ガル、爲メ人ヲ故殺シタル者トハ已ニ其罪ヲ犯シテ後チマンマト首尾モ吉野山ト其家ヲ出テシコト豈ニ圖ラシヤ後ロノ方ヨリホーイ々々々ト呼ビツ、追捕セシトスル者アリ之チ患ヒテ故殺シタルノ類ヲ云フ前嘗ハ罪惡ヲ遂ケント欲シテ之ヲ爲シタルモノコシテ後者ハ既行ノ罪惡ヲ追レンカ爲メコト爲シタルモノナリ故ニ豫謀ノ廉ナシト雖也他ノ罪惡ノ爲メコシ又遁レンカ爲メコト此ニ及フハ道德上利害上共ニ罪甚ク重シ故ニ刑亦隨テ重シトス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

刑○第二百九十四條ヨリ○第二百九十七條マテ

本條ノ詐稱誘導トシテ清律ニ所謂「知津河水深泥濘ニ而詐稱平淺及橋梁渡船初漏不堪渡レ人而詐稱牢固」詭令ニ「過渡」以致「陷溺死傷」者云々ノ類ヲ云フ此等ノ所爲ヲ以テ人ヲ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ無期徒刑ニ處スルナリ若シ豫メ謀テ人ヲ死ニ致シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處スルモノトス然レモ本條ノ明文「人ヲ殺スノ意ニ出テ云々」トアルヲ以テ若シ人ヲ殺スノ意ニ出サル者ハ本條ノ間ヲ所ニ非ラスシテ其疾病死傷ニ致シタル時ハ第二百八條ニ從テ處分スルナリ

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ謀テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

假令甲ヲ殺ロサント欲シテ誤テ乙ヲ殺シタルモモセヨ其人ヲ殺サントスルノ念慮ハ業ヨ已ニ確定シテ且ツ之ヲ實行シタル者ナレハ若シ其乙ヲ殺サレハ則チ甲ヲ殺ス一亦明ナリ夫レ甲モ人ナリ乙モ人ナリ甲乙共コ人ナレハ孰レコセヨ人ヲ殺スハ則チ一ナリ故コ假令誤テ他人ヲ殺スモ其謀殺故殺ノ別ニ因テ之ヲ處斷スルモノトス元來本節ノ殺人罪ハ其殺サレタル人ノ甲タルト乙タルトコ因テ其論不論チ異ニスルコ非ラス唯其人ヲ殺シタル者ヲ罰スルヲ以テ原則トス故コ其殺サレタル人ノ甲タルト乙タルトハ間ハス等シク之ヲ處斷

○第二節 毆打創傷ノ罪(凡十條)

第二百九十九條 本節ノ罪ハ人ヲ毆打シテ創傷ヲ加ヘタルモノニ係ハルナリ故ニ唯タ其毆打シタルノ重軽ニ依リテ未タ創傷ヲ加フルニ至ラサルモノハ違警罪第四百二十五條ヲ以テ之ヲ論ス可キモノトス

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ罪ハ固ト人ヲ殺スニ念ナク唯タ毆打創傷セントシタルモノ過ツテ之レカ爲メ人ヲ死ニ致シタル者ニ係ルナリ故コ之レカ刑ヲ輕クシテ重懲役ニ處スルナリ

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折り及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折り其他身體ヲ殘廢シ癡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

坡亞會拿德氏ノ說ニ據レハ假令一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾スルモ其既コ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾ス刑○第二百九十八條ヨリ○第三百條マテ

ル者ヲシテ餘ノ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾セシムルハ則チ兩目兩耳ヲ失ハシメタルニ同シトノ論
ナレドモ本條ノ法文ニテハ此解釋ヲ用フル能ハス左リトテ世間ニ註釋家ノ云ヘルカ如ク同
時トテ一手一足ヲ折リタル者ハ之ヲ篤疾ノ部ニ入レ同時ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ且ツ一肢ヲ
折リタル者ハ之ヲ癡疾ニ入ルト解スル能ハス乃チ予輩ハ左ノ如ク解スルナリ

目ヲ手足目耳ノ何レタルヲ問ハス苟モ二個以上傷害シタル者ハ都テ篤疾ヲ以テ論ス可
但シ既ニ一目ヲ瞎セル者ノ餘ノ一目ヲ瞎セルカ如キハ假令視力ヲ全失セシメタルニモモ
本條第一項ノ明文ノ兩目ヲ瞎シタルハ云フコト能ハス何トナレハ一目ハ業ニ已ニ瞎ス
ルモノニシテ其犯人ノ新タニ瞎シタルモノニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ者ハ第二項ノ癡
疾ノ部ニ入レテ之ヲ處分セサルヲ得ス然レモ其害大ナルヲ以テ予輩ハ特別ヲ以テ七年ノ
重禁錮ニ處サレシコト望ムナリ

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至
ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十二日以上ノ期間以下ノ重禁錮ニ處ス
本條ハ數行アリテ錯雜セラルカ如シト雖モ其實一目瞭然敢テ註釋ヲ要セズ

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡疾又ハ死ニ致マタル者ハ前數條ニ記載シタ
ル刑ニ照シ各一等ヲ加フ
前數條即チ第二百九十九條ヨリ第三百一條マテノ三條ノ罪ハ何レモ皆ナ一時ノ憤激ヨリ

發シタル者ニ係ルナリ即チ故意ノ毆打創傷ナリ故ニ若シ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癡
篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加ヘテ之ヲ處斷スルモ
ノトス

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルヲメ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打
創傷シタル者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ第二百九十六條ノ主義ト同一ナレハ敢テ茲ニ註釋ヲ贅セス

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

本條モ亦第二百九十八條ノ主義ト同一ナレハ又敢テ茲ニ註釋ヲ贅セス
刑○第三百一條○第三百二條○第三百三條○第三百四條

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自其刑ヲ科ス若シ其毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサルハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ヲニ在ラス

毆打創傷ノ共犯ハ之ヲ總則第四百四條ニ照シテ各自ニ其同一刑ヲ科セスシテ其重傷ヲ負ハシメタル者ハ則チ之レニ相應シタル重刑ヲ科シ其輕傷ヲ被ムラシメタル者ハ則チ之レニ相當シタル輕刑ヲ科スルモノトス然レモ二人以上共ニ亂毆シテ誰カ重傷ヲ負セ誰カ輕傷ヲ被ムラセタルハ詳カナラサル時ハ各其本刑ヲ科スルコト得ス故ニ重傷ノ刑ヨリ一等ヲ減ス例ヘハ數人共ニ石ヲ擲ケ人ノ両目ヲ瞎スルモ其何人ノ石ナルヤヲ詳カニセサル時ハ之ヲ無罪トスルコト能ハサルハ固ヨリナレモ各自ニ篤疾ノ刑ヲ科スルモ亦恐ヒサル所ナラ故ニ權衡ヲ平準シテ重傷ノ本刑ニ一等ヲ減シテ各自同一刑ヲ以テ之ヲ處分スルモノトス若シ甲ハ右ノ目ヲ瞎シ乙ハ左ノ目ヲ瞎シタルコト判然タル時ハ甲乙共ニ癡疾ノ刑ヲ科スルナリ但シ教唆者ハ其重傷ヲ負ハシタル者ノ本刑ニ減等セサルモノトス併シナガラ犯人爲ス所ノ罪教唆者ノ指定外ニ出テタル時ハ教唆者ハ總則第八條ノ例ニ照シテ

此ヲ指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科スルナリ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

幫助シテ傷ヲ成サシメタル者トハ例ヘハ甲乙ノ二人丙ヲ毆打スルニ當リ丁之ヲ幫助シ丙ノ両手ヲ捉ヘ自由ヲ得セシメス之レカ爲メ甲乙二人ヲシテ丙ヲ毆打創傷セシメタル如キ類ヲ云フナリ

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ毒藥ヲ用ヒテ損害ヲ加ヘタル者ヲ論ス然レモ此刑ニ當ツルハ悉ク殺意ナキ者ナリ若シ之レアラハ即チ前節ノ毒殺條下ニ屬ス去レト健康ヲ害スルノ意ヲ以テ之ヲ爲ス者ニシテ過誤ニテ此コ及ヘルコ非ラス

本條ニ於テ豫謀ト否トヲ區別セス之ヲ混シテ一ニスルモノハ此毒藥損害ニ於テハ即時ニ施ス可キモノニ非ラス故ニ一切之ヲ豫謀ト認ムルナリ是ヲ以テ本條ノ罪ヲ犯シル者ハ第

刑○第三百五條○第三百六條○第三百七條

三百二條ノ豫メ謀テ人ヲ毆打創創スルノ例ニ照シテ處斷スルモノトス

○六二 第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

本條ハ第二百九十七條ノ主義ト同一ナリ然レモ固ト人ヲ殺スノ意アルニ非ラス唯モ詐稱誘導シテ創傷セシメントシタルニ過ツテ之ヲ死ニ致シタルモノナリ是レ犯人ノ意外ニ出テタルモノナレハ之ヲ其目的タル毆打創傷ノ例ニ照シテ處斷スルモノトス

○第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪(凡八條)

第一編第四章第一節ニ規定スル所ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ一般ノ犯罪ニ適用スルモノナリ故ニ之ヲ總則中ニ掲ケテ今本節載スル所ノ宥恕及ヒ不論罪ハ特別ニ殺傷ニ關スルモノニ適用スル特別ノモノトス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ立法者カ人類ノ情ヲ察シテ設立シタル者ナリ原來一時ノ爲メニ迫制セラレテ思考

スルニ暇ナキハ人性避テ可カラサルハ缺所ナリ立法者ハ此場合ヲ恕ノ本條ノ律ヲ作レリ本條仔細ニ宥恕ノ場合ヲ悉セリ暴行ト云ヒ直チト云フ共ニ緊要ノ字眼ニシテ本條ノ骨子ナリ惡言罵詈ノ辱メニ逢ヒテ憤怒ニ耐ヘズ人ヲ殺シ又ハ創傷シタル者ハ宥恕ノ中ニ入ラス故ニ暴行ト云フ若シ夫レ言語ノ辱メモ極メテ耐ヘ難キ者アリテ此ニ至ル者ハ其時ノ事情ヲ審カニシテ唯モ酌量減輕ス可キナリ又恥辱ヲ與ヘテシタル時日ヲ經テ人ヲ謀殺シ又ハ創傷シタル者ハ與カラス故ニ直チト云フ然ラハ何ヲ以テ故意ノ殺傷ヲ宥恕減輕スルト云フニ此類ノ人ハ社會ニ後日ノ危險ヲ與フル者ニ非ラサレハナリ其故ハ此人固ト兇惡ノ心ナシ若シ此人ヲシテ激怒ス可キ不幸ノ機ニ會ハサラシメハ一生無事ニシテ止マシテモ知ル可カラサレハナリ然レモ其暴行ヲ受ケタルハ突然毆カテ棒ニ受ケタルニ非ラスシテ已レ彼レニ對シテ不正ノ所爲アル爲メニ之ヲ招キタル者ハ決シテ此宥恕減輕ノ限リニ在ラサルモノトス是レ固ト已レ不正ノ所爲アルカ爲メナレハ當然ノ理ナリ若シ此但書ヲ設ケサレハ社會ノ爲ニ大危險ノ結果ヲ生ス可シ例ヘハ怨アル人ヲ殺サント欲シテ先其其人ヲ辱カシメ誘ヒテ其レヲ暴行ヲ爲サシメ初メテ殺意ヲ生シタル體ニ見セカケ

刑○第二百八條○第二百九條

之ヲ殺ス者ナキヲ保セズ之レヲ本條ニ照テ宥恕減輕セハ其害勝テ天官ヲ可カラサル者アラントス是レ此但書ノアル所以ナリ

二六一

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

毆打シトハ即チ二人相互ニ毆打スルノ場合ヲ云フナリ而シテ此場合ハ實際往々之レアル所ナリ此ニ一疑問アリ二人毆打シテ其一人死シ他ハ生存ス死者ハ無言ナリ生存者獨リ云フ彼レヨリ暴行ヲ受ケタリ然レモ遂ニ其實況如何ヲ確知スルニ由ナシ此ノ如キハ唯ダ毆打ニ止マル者コシテ孰レヨリ仕掛ケタル毆打ヲ知ラサル者ニ擬ス可キヤ否ヤ世ノ論者ハ毆打ニ止マル者ノ孰レヨリ事ヲ起セシテ知ラサル者ニ擬ス可シト云ヘリ然レモ坡亞會拿德氏ハ此場合ニ於テ左ノ如ク論ゼテレタリ

曰ク蓋シ其生存者ハ果シテ宥恕ヲ受ク可キ權アルヤ否ヤヲ知ラズト雖モ若シ之レアル可クハ受ケシメサルハ甚ダシキ不幸ナリ故ニ罪ノ疑ハシキハ輕クスルノ通則ヲ用ヒテ宥恕ノ中ニ入ル可シト予輩モ亦其然カクセザル可ラサルモノト考フ所ナリ

第二百一十一條 本夫其妻ヲ姦通シ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ノ明文「姦所」ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者トアルヲ以テ其場所ハ必ス其姦所ニ限ル可シ故ニ追テ門外ニ至リ殺傷スルカ如キハ宥恕ノ限リニアラス假令其姦所タリトモ之ヲ自撃シテヨリ暫時經過シテ之ヲ殺傷スルカ如キモ亦宥恕ノ限リニアラサルモノトス佛國ニ此義ヲ明ニス可キ一例アリ正妻ノ姦通ヲ目撃シ其房ヲ外ヨリ銷シ銃ヲ來テ之ヲ殺シタリシカ此人宥恕ノ利ヲ享受セリシト云フ是レ好例ナリ然レモ其直チト直チニ非ラサルトノ時間ノ區別ハ法律ヲ以テ定ム可キニ非ラス裁判官ノ所見ニ委スルモノトス故ニ其姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕スルヲ第二百九條ト同一精神ナリ但シ其犯罪前ニ本夫其婦ノ姦通ヲ許容シ若クハ默許シ又ハ其姦行ヲ誘ヒテ利ヲ圖ル等ノ事情アルニ於テハ決シテ宥恕ノ限リニアラス即チ本刑ヲ科スルモノトス

本條特ニ正妻ニ限リテ妾ニ及ハサル所以ノモノハ妻ノ關係ハ妾ヨリ重シ其義務モ亦之ノ刑○第二百十條○第二百一十一條

比例ス可シ故ニ正妻ノ姦罪ハ妾ノ之レヲ犯セルヨリ重シ蓋シ妻ノ之レヲ爲スハ妾ノ姦通ヨリ其夫ノ權利ト名譽ヲ妨害スルコト多シ故ニ此ヲ殺傷スル者ヲ宥恕ノ中ニ入ル尤モ妾ノ此犯罪ニ於テモ其愛スル夫ハ非常ノ怒ヲ發ス可シト雖モ其權利既ニ妻ニ同シカラサレハ其義務モ亦異ナラサル可ラズ是ヲ以テ妾ヲ殺傷スル者ヲ宥恕セス蓋シ此場合ニ於テ妾ヲ殺スハ情ヲ酌量シテ其罪ヲ減スルコトアラン但シ之レヲ刑法ニ明揭ス可カラズ聞ク所ニ據レハ佛國ノ婦女或ハ云々法律ハ男子ノ作ル所ナルカ故ニ男子ノ利益ニ偏重ナリ就中姦通ノ條ニ於テ甚タシト坡亞曾拿德氏之ヲ論破シ姦通ハ獨リ女ニ責メテ男ニ責メサルノ理由ヲ説明シテ曰ク例ハ姦通シテ兒ヲ生スルモ男子ノ外ノ女ニ通スルコト於テハ其子外ニ在テ女子ノ外ノ男ニ姦スルコト於テハ其子家ニ生ヌ故ニ男子ハ其害ヲ家族ニ及ホセバモ女子ハ一家ニ之レヲ及ホス是レ男女ノ姦通ニ差異アル所以ナリ是レ本條獨リ妻ハ姦通ヲ止テ夫ノ姦通ニ及ハサル所以ナリ

止舊律殺死姦夫條ニ於テハ姦夫姦婦ヲ殺死スル雖モ之ヲ不論ニ措ク然レモ既ニ同等人民ヲ殺死スルニ至テハ如何シ之ヲ不問ニ附ス可ケンヤ之ヲ不問ニ附スルハ餘リ寛ク失スルノ

恐レアリ故ニ本律ニ於テハ宥恕減輕ニ止メテ之レカ刑ヲ科スルモノトス

第三百十二條 畫間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

本條「人ノ住居シタル邸宅」トアリ人ノ住居シタルノ句緊要ノ字眼ナリ門戶牆壁ノ字悉ク此一句ヲ承帶シ來ルナリ故ニ其邸宅門戶牆壁ハ何レモ皆ナ必ス人ノ住居シタル者ニ限ル可シ假令人ノ住居シタル者ト雖モ他家ニ美麗ノ婢アリ隣舍ノ子弟若クハ僕隸情意ヲ通セシト欲シ牆壁ヲ踰ユルコトアルハ毫モ危險ノ事ニ非ラス故ニ恐レテ之ヲ殺傷ス可ラスコトヲ爲スハ宥恕ノ中ニ入ラス又垣ヲ越ヘ牆ヲ壞リテ人ノ園中ニ入り菓實ヲ盜ム者アテゾモ其情ヲ知テ之ヲ殺ス者ハ宥恕ス可ラス何トナレハ桃李ノ子實モ財產ナルニ相違ナシト雖モ之ヲ竊ムハ重大ノ危險ヲ主人ニ與ルモノニ非ラサレハナリ若シ之レヲ宥恕セハ怨アル人ヲ本條ノ義ニ托シテ殺傷スルノ弊ナキヲ保セヌ故ニ予輩ハ法官ニ向テ刑法草案第三編第一章第三節第十九條第二項ノ然レモ事件ノ摸樣又ハ攻入者ノ品性ニヨリ人身或ハ財產ニ對シテ重大ノ危難アルヘキコトヲ信スヘカラサル者ハ其罪ヲ宥恕スヘカラスト

ノ意ヲ帶セシメテ望ムナリ

六六二

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕スヘキ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

前數條ハ即チ第三百九條ヨリ第三百十二條マデノ四條ヲ云フナリ其餘ハ敢テ註釋ヲ要

セズ

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百九條ヨリ前條マデハ宥恕減輕ニ係リ本條以下ハ不論罪ニ係ルナリ身體生命ヲ正當

ニ防衛スルトハ人ヨリ暴行ヲ受ケ一身ノ危急ニ際シ勢ヒ兇行人ヲ殺傷スルニアラサレハ

他ニ道ル可キ途ナク猶豫セシ已レノ身體生命ヲ害セラルハ必然ナルノ場合ニ於テ兇

客ヲ殺傷スルヲ云フ西人之手正當防禦ト云フ是レ當ニ然ラサルヘカラサル所ニシテ實ニ

良法ト謂フ可シ若シ此法ニシテハカランニハ良民一タヒ兇客ノ暴行ヲ受ケルニ當テ之ヲ

防禦セラルハ則チ其害ヲ被ムル若シ之ヲ避ケントシテ防禦ノ爲メ彼レヲ殺傷セハ則チ法

律ヲ以テ罰セタル進退維ニ谷ルナリ去レハ一タヒ兇客ヨリ暴行ヲ加ヘラレントスルノ場

合ニ至テハ其兇客ノ暴行カ又ニ法律ノ刑罰カ孰レカ一害ヲ被ムラサルヲ得サルノ不幸ニ

陷ル可シ予輩ト反對ニ思想ヲ抱ケル死刑廢止論者ニ於テモ亦此正當防禦ノ場合ニ至テハ

人ヲ殺スノ權アリト云ヘリ故ニ此ノ刑法本條ヲ設ケテ良民ノ身體生命ヲ保護セリ然リト

雖モ若シ已レ固ト不正ノ所爲アルニ因リ自ラ其暴行ヲ招キタル者ハ本條不論罪ノ限リニ

アラス又假令已レ固ト不正ノ所爲アルニ非ラスシテ正當ナリト雖モ若シ他ニ道ル可キノ

途アルノ場合ニ於テハ本條不論罪ノ限リニアラス故ニ本條ニハ二個ノ要點アリ曰ク正當

ニ防衛スルナリ曰ク己ムヲ得サルナリ此二個アリテ初メテ之ヲ本條ニ照シテ不論罪ト

爲メ可シ既ニ正當ノ防衛ト己ムヲ得サルトノ二個アル以上ハ其自己ノ爲メニスルト他

人ノ爲メニスルヲ分タス等シク之ヲ無罪ナリトス而シテ其自己ノ爲メニスルハ前既ニ之ヲ

説明シタルハ是レヨリ將ニ他人ノ爲メニスル者ヲ無罪トスルノ理由ヲ説明セシ例ヘハ

茲ニ甲ノ兇客乙ノ良民ニ對シテ將ニ暴行ヲ加ヘントスルニ當リ乙柔弱ニシテ之ヲ防衛ス

ルヲ能ハサルニ際シ丙ナルモノ傍ラニ之ヲ觀テ乙ノ爲メ其急ヲ救ハントシテ之ヲ防衛ス

七六二

刑○第三百十三條○第三百十四條

ルニ彼レ兇客即チ甲ヲ殺傷セザレハ以テ乙良民ノ身體生命ヲ防救スルコト能ハサルコト因
 リ己ムコトヲ得ス其甲ヲ殺傷セタルノ場合ニ於テハ丙ハ甲兇客ノ身體生命ヲ以テ乙良民
 ノ身體生命ニ代ヘタルモノナレハ社會ノ恩人ナリ此ノ如キ場合ニ於テ甲乙孰レカ一人必
 ラス殺傷セサルヲ得サルノ勢ヒコ當テハ惡人ヲ殺傷シテ良民ヲ救フヲ以テ可ナリトス抑
 モ此ノ丙ナルモノハ一ハ以テ良民ノ身體生命ヲ防救シタルノ利アリ一ハ以テ一人ノ兇客
 ナ減シテ社會ノ害チ少ナカラシメタルノ益アリ其レ既ニ此ニ利ヲ爲シタル恩人ヲ刑ニ處
 スルニ忍ビシヤ否ナ之ヲ刑ニ處スルノ權ナキ者トス是レ本條己ムコトヲ得サル正當防衛ノ
 殺傷ハ其自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルト分テ之ヲ不論罪ト爲ス所以ナリ

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムコトヲ得サルニ出テ入ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

- 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜贖ヲ取還スルニ出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

本條ハ前數條ノ下ニ於テ既ニ説明スル所ヲ以テ判然タレハ敢テ喋々ノ説明ヲ用ヒス第三
 項ハ**第三百十二條**同一ノ主義ニシテ其異ナル所ハ唯晝間ト夜間トノ別ニ在リ即チ本
 條第三項ハ夜間ニシテ其危害測ル可ラサルヲ以テ全ク其罪ヲ論セザル者トス但シ**第三百
 十二條**ノ下ニ擧ケタル場合ニ在テハ本條ニ於テモ亦不論罪ノ限リニアラサルナリ

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖己ムコトヲ得サルニ非ズシテ害チ暴行人ニ
 加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ尙ホ害チ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ
 在ラス但情狀ニ因リ**第三百十三條**ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

身體財産ヲ防衛スルニ出ルトハ**第三百十四條**及ヒ**第三百十五條**ヲ指スナリ而シテ其身體
 ナ防衛スルニ必要ナルヨリハ更ニ多クノ害チ故意ニ攻撃者ニ加ヘタル者ノ如キハ亦不論
 罪ノ限リニアラサルモノトス然レモ其殺傷ノ端ハ必竟彼レヨリ開キタルモノナレハ情ニ
 於テ恕ス可キ所アリ故ニ其情狀如何ニ因リ**第三百十三條**ノ例ニ照シ本刑ニ二等又ハ三等
 ナ減スルコトヲ可シ去レト法文其罪ヲ宥恕スルコトヲ得トアルヲ以テ犯人ノ當然受ク可キ
 ノ權利ニ非ラスシテ法官ノ意見ニ存スルモノトス

刑○第三百十五條○第三百十六條

〇第四節 過失殺傷ノ罪(凡三條)

本節ニ掲クル所ノ過失殺傷ノ罪ハ舊律ノ過失殺傷ノ主義ト相異ナルモノトス蓋シ舊律ノ過失殺傷ハ全ク思慮ノ到ラサル所耳目ノ及ハサル所ノモノコシテ全ク其意外ニ出テタルモノヲ云ヘトモ此刑法コ於テハ此ノ如キモノハ總則第七十七條ニ規定シテ本節ニハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルヨリ犯シタル者ヲ以テ過失殺傷ノ罪ト爲セリ

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

疎虞トハ不注意ノ謂ニシテ固ト爲ス可ラサルノ事ヲ爲スヲ云フ懈怠トハ怠慢ノ謂ニシテ固ト必ス爲ス可キ事ヲ爲ササルヲ云フ例ヘハ群集ノ中ニ車馬ヲ疾驅シテ之レカ爲メ人ヲ死ニ致シタルカ如キハ即チ疎虞ナリ而シテ鐵道ノ標識ヲ掲クルヲ忘レ又ハ燈臺ニ火ヲ點スルヲ忘リ之レカ爲メ人ヲ死ニ致シタルカ如キハ即チ懈怠ナリ規則トハ法律ニ於テ命令ニ若シクハ禁止シタル事件ヲ云フ慣習トハ風習ニ於テ自然行ヒ來リタル事例ヘハ舟車ノ

衝突セソトスル際ニハ互コ左側ニ之ヲ避クルノ類ヲ云フ乃チ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルカ爲メ人ヲ死ニ致シタルハ其事重シト雖固ヨリ人ヲ殺スノ意アルコト非ラスシテ全ク過失ヨリ生シタルモノナレハ二十圓以上二百圓以下罰金ヲ科スルニ止マル者トス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ廢篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス但シ本條及ヒ次條ニハ過失トノミ記載シ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ云々ノ文字ナキハ之ヲ略シタルナリ

本條ハ第二百一條ニ記載シタルカ如キ區別ヲ爲サス一體ニ其刑ヲ科スルモノトス而シテ本條ノ明文「人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者」トアルヲ以テ若シ身體ニ創傷ヲ成スト雖モ其未ダ疾病休業ニ至ラサル者ハ其罪ヲ論セサルナリ

〇第五節 自殺ニ關スル罪(凡二條)

刑〇第二百十七條〇第二百十八條〇第二百十九條

自殺ノ關スル罪トハ其自殺スル者ヲ罰スルノ謂ヒニ非ラス其自殺セントスル者ヲ助ケタル者又ハ人ヲ教唆シ自殺ヲ爲サシメタル者ノ罪ヲ云フナリ蓋シ其自殺者ヲ刑スルノ條ナキハ之ヲ良行ト認ムルニ非ラス視テ瘋癲トナスノミ且ツ刑ヲ科セサル所以ハ屍ヲ戮辱スルハ益ナク又未遂者ノ全快ヲ竣テ罰スルハ人情ニ近カラズ且ツ益ナクレハナリ又一方ヨリ之ヲ見レハ自ラ己レノ體ヲ殺スハ敢テ他人ニ痛痒關係ナク全ク自由ノ範圍内ニ在ルモノナレハ法律ハ之ヲ罰スルノ權ナキモノナリ何トナレハ法律ノ力ハ他人ノ損害トナルノ所爲ヲ罰スルニ止マルモノナレハナリ故ニ本節題シテ自殺ニ關スル罪ト書シ自殺ノ罪ト謂ハス然ラハ何ヲ以テ本人ヲ罰セスノ却テ助手ト教唆者ヲ刑スル乎本人ハ精神錯乱セル者ト認ムレト助手等ハ決シテ同狀ト見做スヲ得ス自己ノ羞辱損失ハ其精神ヲ乱ルヘシト雖モ他人ハ決シテ其精神ヲ乱ルコトナシ是レ其情甚タ惡ムヘシ決シテ本人ノ如ク恕スルヲ得ス且ツ夫レ助手教唆者ノ如キハ即チ他人ノ損害トナルノ事ヲ爲スモノナレハ既ニ法律ノ責罰ス可キ範圍内ニ入レリ故ニ法律ハ當然之ヲ罰ス可キ

モノトス是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第二百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者トハ例ヘハ親戚朋友ヨリ其罪過ヲ譴メテ屠腹セシメタルノ類ヲ云フ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者トハ例ヘハ自殺セント決心シ既ニ自ラ及傷スルモ尙ホ未タ死ニ至ラス因テ他人ニ囑託シテ己レヲ殺サントテ請フニ他人其苦痛措カサルヲ見テ爲メニ憐察シ其請ニ應シ介錯ヲ爲ス者ノ如キヲ云フ其事甚タ善カラズト雖モ多クハ義理人情ノ已ニ難キ所ヨリ起ルモノコシテ自ラ恕ス可キ所アリ故ニ之ヲ定役ニ服スル重禁錮ノ刑ニ處スルニ忍ヒス即チ定役ノナキ輕禁錮ノ刑ニ處スルモノトス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者トハ即チ自殺ヲ爲スノ情ヲ知テ之レニ器具ヲ給與シ又ハ手段方法ヲ指シタル者ノ類ヲ云フ

彼ノ男女同死ヲ商謀シ一人既ニ死シ一人未タ死セサル時其生存スル者同死ノ教唆者ニ係刑○第二百二十條

レハ亦本條ニ依テ處斷スルモノトス

四七二

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタルモノトハ例ヘハ子弟其父兄ノ遺物ヲ利セン
ト欲シ自殺ヲ慫慂シ又ハ婦其夫ヲ死ナシシ他ニ再嫁セントシ若クハ後見人孤寡ヲ欺キ其
産ヲ奪マシト欲シ教唆シテ自死ヲ遂ケシムルノ類ヲ云フ其情甚タ惡ム可シ故ニ之ヲ重懲
役ニ處スルモノトス本條ノ罪ハ重罪ニ係ルヲ以テ自殺者未タ死ニ至ラサル時ハ未遂犯罪
ヲ以テ論シ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ處斷スルモノナレトモ前條ノ罪ハ輕罪ニ係ルヲ以
テ其未タ死ニ至ラサル時ハ全ク無罪ナリトス但シ子孫其祖父母父母ヲ教唆シテ自殺セシ
メタル時ハ第三百六十二條ニ照シテ二等ヲ加ヘテ之ヲ處斷スルナリ

○第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪(凡四條)

本節ニ記載シタルノ罪ハ平人ノ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ云フ官吏ノ律ニ違テ

此等ノ事ヲ爲スハ第二編第九章第二節中ニ掲ケタリ

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮

ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

現行犯人ハ治罪法ニ於テ何人ト雖モ之ヲ逮捕スルヲ得レトモ本條云フ所ハ非現行犯人ノ
場合ナレハ固ト其職務ノ官吏ニシテ令狀ニ依ラサレハ以テ之ヲ逮捕スルヲ能ハサルモノ
ナリ故ニ假令官吏ト雖モ其職務ニ非ラサル者ハ之ヲ逮捕スルヲ能ハス又假令其職務ノ官
吏ト雖モ令狀ヲ持タサレハ以テ之ヲ逮捕スルヲ能ハサルナリ况ンヤ令狀モナキ平人ニ於
テチヤ焉ソツ其レ擅ニ之ヲ逮捕スルヲ得ンヤ既ニ之ヲ逮捕スルヲ得サルモノトモハ
又私家ニ之ヲ監禁スルヲ能ハサルモ固ヨリ明カナル所ナリ故ニ平人ニ在テ此等ノ罪ヲ犯
シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ併セテ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス但シ監禁日數十日ヲ經レハ一等ヲ加ヘ二十日ヲ過クレハ二等ヲ加ヘ三十日ヲ經レハ三
等四十日ヲ過クレハ四等ト日數十日ヲ過クル毎ニ一等ツ、ヲ加フルモノトス

五七二

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲

ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條ハ唯々擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタルノミノ場合ニ係ルナリ故ニ其所行ヲ爲

刑○第三百廿一條○第三百廿二條○第三百廿三條

シタルノ上苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ本條ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス
第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照
シ重キニ從テ處斷ス

前條ノ罪即チ苛刻ノ所爲ヲ施シタルニ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ本編第一章第二
節ノ毆打創傷ノ各本條ト前條トヲ照シ合セ孰レカ重キ方ノ一刑ヲ科スルモノトス

第三百二十五條 擅コ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル
者ハ亦前條ノ例ニ同シ

本條ノ明文怠リノ文字アルヲ以テ若シ事倉卒ニ發シ勢ヒ之ヲ解クコト能ハサルノ場合ニ在
テノ唯々監禁ノ罪ヲ問フノミヨシテ死傷ノ罪ハ總則ニ照シテ之ヲ論セサルモノトス
抑モ本節四々條ノ罪ハ父兄ノ子弟ヲ懲戒スルニ出ツルモ亦之ヲ適用スルモノナリ

○第七節 脅迫ノ罪(凡四條)

脅迫トハ害ヲ爲スヲ豫告スルノ謂ヒヨシテ言語若クハ文書ヲ以テ人ヲ恐嚇シテ
畏懼ノ念ヲ生セシムルヲ云フ彼ノ腕力ヲ以テ人ヲ威嚇スルカ如キハ之ヲ暴行ト

云ヒ本節ノ罪ト相對スルモノナリ

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者
ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ
十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

惡事ノ心中ニ在ルモノハ宗教ノ關スル所ヨシテ此刑法ノ關スル所ニ非ラスト雖モ一旦言
語文書ノ上ニ現ハレハ則チ行爲ノ初步ニシテ既ニ思想ノ内ニ離レタルモノナレハ此刑法

ヲ以テ問ハサル可ラス言語文書ヲ以テ脅迫スルモノハ惡事ノ決意ノミヨ止マルカ如シト
雖モ既ニ人ヲシテ危懼心ヲ抱カシメ以テ頃刻モ安スルコト能ハサザシムルモノナレハ被脅

迫者現ニ害ヲ被ムル故ニ之ヲ正當ナル罪ノ實行ト云フコト能ハサルモ亦之ヲ其決意ニ止マ
ルト云フ可ラス即チ其決意ト實行トノ間ニ在リテ幾分カ實行ノ方ニ接近セリ是レ本條ノ

設ケアル所以ナリ

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ
刑○第三百廿四條ヨリ○第三百廿七條マテ

第七十一條 第三百七十九條等何レモ皆テ「兇器ヲ携帯シ云々」トアレト本條ハ「兇器ヲ持シテ云々」トアルヲ以テ彼ノ兵卒ノ如キ平素兵器ヲ携帯シタル者脅迫罪ヲ犯シタリト雖モ之ヲ兇器ヲ持シタリトシ一等ヲ加フルコト能ハス故ニ其一等ヲ加フ可キ者ハ兇器ヲ手ニ持シテ脅迫シタル者ニ限ルナリ既ニ兇器ヲ手ニ持シテ人ヲ脅迫セザル者ノ畏懼スルヤ更ニ甚クシ故ニ其兇器ヲ持シテ脅迫シタル者ノ刑ヲ一等加フルハ固ヨリ當然ノコトナリトス

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ假令其對シタル本人ヲ脅迫スルニ非ラスト雖モ其人ノ親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ即チ唯タ言語文書ヲ以テ脅迫シタル時ハ第三百二十六條ノ例ニ從テ之ヲ處分シ若シ兇器ヲ持シテ脅迫シタル時ハ第三百二十七條ニ依テ之ヲ處斷ス第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス脅迫ハ其人ノ膽力ノ弱弱ニ因テ其感觸ノ有無輕重アルモノニシテ豫メ他ヨリ之ヲ圖ルコト

テ得ス他人ヨリ之ヲ見レハ大ニ畏ル可シト思惟スル事モ本人ニ在テハ毫モ慮トセザルコトアリ又他人ヨリ之ヲ見レハ敢テ懼ルコト足ラスト思惟スル事モ本人ニ在テハ甚ク畏怖スルコトアリ故ニ他ノ告發ニ因テ罪ヲ定ムルコト得ス必ス其本人又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ問フ可キモノトス

○第八節 墮胎ノ罪(凡六條)

古來我邦ニ於テハ墮胎ヲ罰スルノ法律ナキヲ以テ墮胎ノ弊風行ハレ之レカ爲メ大ニ人口ノ繁殖ヲ妨害シタリ思フニ其墮胎ノ爲メ死シタル者ノ中ニモ亦釋孔基タル可キ者アリシモ未ク知ル可ラサルナリ實ニ惜ム可キコトナリ夫レ政府タリトモ罪ナキ人ヲ殺スノ權ナシ況ンヤ平人ニ於テチヤ親タリト雖モ決シテ其子ヲ殺スノ權ナキモノトス既ニ之ヲ殺スノ權ナシトモハ其墮胎ノ罪ヲ犯マタル者ハ宜シク之ヲ罰ス可シ然リト雖モ誰カ豈ニ已レノ愛子ヲ殺スチ好ム者アラシヤ然ルチ一時ノ鬼ト爲リテ之ヲ墮胎スルハ實ニ貧苦ニ迫マラレテ已ムコト得ス之ヲ爲スカ又ハ私生ノ爲メ外見ヲ憚テ之ヲ爲スカ大概已ムコト得サルノ情狀ヨリ起ルモ刑○第三百廿八條○第三百廿九條

ノナリ且ツ夫レ胎中ノ兒ハ果シテ全ク分娩スルヤ又果シテ能ク成長スルヤ未ダ
確知ス可ラス好シヤ全ク分娩シテ能ク成長ス可シトスルモ未ダ社會ニ形ハレサ
ル者ニ係レハ決シテ之ヲ以テ成人ヲ殺スト同罪ニス可ラス是レ本節ノ設ケタル
所以ナリ

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁
錮ニ處ス

本條ハ取テ註釋ヲ要セス但シ勞働過度ニヨリ又ハ墮頓墮落ノ爲メ若クハ疾病ノ爲メ其他
ノ藥ヲ服シテ適宜墮胎ヲ致スル無罪タル論ヲ據ダス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ
致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

前條ハ婦女自ラ一人ニテ墮胎シタルノ罪ニシテ本條ハ本夫若クハ密夫婦女ト商議シ藥物
其他ノ方法ヲ以テ婦女ヲシテ墮胎セシメタル者ノ罪ナリ而シテ之レニ同一刑ヲ科スル所
以テモソハ本夫或ハ密夫ハ婦女ト同情同愛ナルコト因テ然ルナリ而シテ本條ニ死ノ場合ヲ

掲ケテ前條ニ之ヲ載セサル所以ハ抑モ本條ハ婦女死スルモ本夫若クハ密夫等ノ生存スル
者アリ以テ其刑ヲ科ス可キ者アレトモ前條ハ婦女自ラ禍ヲ成シテ身既ニ死ス又罪ヲ論ス可
キ人ナケレハナリ

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

醫師穩婆ハ如何ナル場合ヲ問ハヌ都テ之ヲ論ス藥商ハ其情ヲ知ル時ハ之ヲ論シ其情ヲ知
ラサル時ハ之ヲ論セス抑モ醫士等ガ之ヲ爲スニ其罪刑ノ重キハ二個ノ原理アリ醫士等ニ
シテ墮胎セシムルハ道德ノ殘壞社會ノ禍害共ニ大ナリ然ハ道德ノ殘壞大ナリトハ何ソヤ
人ノ健康ヲ司リ生育ヲ保護ス可キ職ニシテ却テ之レニ反スレハナリ然ラハ社會ノ禍害大
ナリトハ何ソヤ其他人ヨリ墮胎ノ方術ニ精シク且ツ漏泄ノ道ナクシテ容易ニ之ヲ爲シ得
レハナリ故ニ刑重ク各一等ヲ加フルモノトス然レトモ難産ニシテ分娩ニ苦ミ母子共ニ死セ
ントスル時子ヲ殺シテ母ヲ助ル又懷胎ノ模様必ス難産ニシテ生死覺束ナキヲ豫知シ
已ムテ得ス墮胎スルトノ二者ノ場合ニ於テハ固ヨリ法律ノ許ス所ナリ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下
刑〇第三百三十條ヨリ〇第三百卅三條マテ

重禁錮ニ處ス

本條ハ嘗テ墮胎セントスルノ意ナキ懷胎ノ婦女ヲ威逼即チ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ誑騙即チ欺瞞シテ藥ヲ吞マシメ以テ之ヲ墮胎セシメタル者ハ其情甚ク惡ム可ク故コ之テ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルモノトス第二百三十一條ハ婦女ト商議ノ場合ニ係リ本條ハ婦女ニ商議ナク威ヲ以テ爲スカ又ハ秘密ヲ以テ爲スノ場合ニ係ルナリ

第三百二十四條 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ之ヲ轉解スルテ要ス即チ懷胎ノ婦女ナルコトヲ知リ故意ヲ以テ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ其懷胎ノ婦女ナルコトヲ知ルモ之ヲ墮胎セシムルノ故意ナク一時ノ忿怒ニ乘テ之ヲ爲シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルモノトス而シテ本條ノ明文「懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ云々」トアルヲ以テ若シ他人

ニシテ其懷胎ナルコトヲ知ラズ之ヲ毆打シ又ハ暴行ヲ加ヘ因テ墮胎セシムルカ如キハ決シテ本條ノ間フ所ニ非ラス即チ本編第一章第二節毆打創傷ノ各條ノ例ニ照シテ之ヲ處分スルモノナリ

第三百二十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ノ意義ハ過條ニ於テ屢ク解説シタル所ナレハ敢テ茲ニ贅釋ヲ施サス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪(凡五條)

幼者トハ八歳以下ナル者ヲ云フ老疾者トハ老者疾病者ノ二者ヲ畧綴シタルモノニシテ其老者コハ年齢ヲ定メス抑此等ノ者ヲ養フ可キ義務アル親屬即チ其戸主ニシテ其老者ノ遺棄スルハ實ニ人情ヲ知ラサル鬼ナリ蛇ナレハ宜シク之ヲ罰ス可キ

第二百二十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス自ラ生活スルコト能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

本條幼者ノ年齢ヲ八歳ト定メタルハ此刑法ヲ以テ問ハサル所ノ年齢ヲ度トシタルナリ而シテ老者ノ年齢ヲ定メサルハ其自ラ生活スルコト能ハサル者ニ限ルヲ以テナリ即チ其自ラ生活スルコト得ル者ハ八十歳ノ老者ヲ遺棄スルモ亦本條ヲ以テ之ヲ論スルノ限リニアト

刑○第二百卅四條ヨリ○第二百卅六條マテ

ス然ルニ其自ラ生活スルコトヲ得サル者ハ五十歳ノ老者ヲ遺棄スルモ尙ホ且ツ本條ヲ以テ
之ヲ論ス可キモノトス而シテ其遺棄スルトハ他所ニ遺棄シテ己レ實家ニ立チ歸ルト實家
ニ之ヲ遺棄シテ己レ逃亡スルトヲ分タヌ等シク之ヲ論スルモノトス

第三百三十七條 八歳ニ滿サル者幼又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上
四年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ニ關シテハ最モ注意ス可キコトアリ何ソヤ人ノ往來スル地ト否トヲ區別スルコト在リ是
ヲ察スルハ判官ノ務メニ屬ス例ヘハ東京府下ノ地ト雖モ往來ナキ地ハ田野寂寞ノ疆ニ同
シ又其時ニ關スル者アリ晝間雜沓ノ地モ夜間闕トシテ人ナキ所ナキニ非ラス是等夜ニ在
テハ皆ナ無人ノ地ト見做ス可シ又平常寂寞ノ地下雖モ事情ニヨリ雜沓ノ處タルコトアラン
即チ操練場ノ如キハ常日無人ノ地ト雖モ練兵ノ日ハ雜沓他所ニ超ルアラン唯々法律ノ精
神人ニ舉ケタルノ難易如何ト看ルノミ

第三百二十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保護ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一
等ヲ加フ

本條ノ罪ハ其情重キヲ以テ其刑ヲ加重セリ但シ本條ノ明文「給料ヲ得テ」トアルヲ以テ若
シ給料ヲ得サル時ハ敢テ加重ノ限リニ非ラス

第三百二十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタ
ル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

本條ハ寂寞ノ地下繁劇ノ所トテ問ハス都テ之ヲ論スルモノトス但シ本條ノ場合ハ凍餒ニ
堪ヘスシテ自ラ死傷シタルト禽獸ノ爲メニ死傷ヲ受ケタルトニ止マル可シ故ニ人ノ之ヲ
死傷シタルモノハ其之ヲ死傷シタル者ニ死傷ノ刑ヲ科シテ其之ヲ遺棄シタル者ハ遺棄ノ
本刑ノミヲ以テ之ヲ處分ス可キモノトス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知
テ之ヲ扶助セヌ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セヌ又ハ申告セサル者亦同シ

本條第一項ハ遺棄セラレタルト迷子トノ二ツノ場合ヲ含蓄スレモ第二項ハ唯々昏倒ノ場
合ノミニ止テ彼ノ遺棄ノ場合ナシ去レハ固ト遺棄ノ罪ヲ記載シタル本節ニハ本條第二項

刑○第三百卅七條ヨリ○第三百四十條マテ

○第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪(凡五條)

略取トハ幼者ノ承諾セザルヲ強テ之ヲ奪取勾引スルヲ云ヒ誘拐トハ謀略ヲ用ヒ欺瞞シテ承諾ヲ得セシメ以テ之ヲ誘引スルヲ云フ

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ奪取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳ニ滿タル幼者ハ大概智慮淺薄自家ノ利害ヲ辨別セサルモノナレハ之ヲ瞞過スル最モ容易ニシテ飴菓子ヲ買テ與ヘントカ又ハ彼處ニ面白キ物アリトカ云ハ、忽チ之レニ應ズルヲ常トス故ニ之ヲ誘拐スルハ之ヲ略取スルト其難易取テ異ナルナリ是レ本條ノ略取ト誘拐ト區別セズ等シク同刑ヲ科スル所以ナリ刑次條ノ刑ヨリ重キ所以ノ一因ナリ而シテ十二歳以下ノ幼者ハ能ク其名籍ヲ記憶セズ故ニ家ヲ離ルレハ其籍滅ス是レ本條餘因ニ本條ノ註釋ニ讓ル

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ奪取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付

シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳以上二十歳ニ滿タル幼者ハ智慮稍々備ハルヲ以テ之ヲ誘拐スルト殆ント難シ然ルニ之ヲ略取スルハ假令體力稍々備ハルト雖モ之ヲ誘拐スルニ比スレハ甚タ易シ故ニ本條ハ二個ニ區別シ其略取シタル者ヲ重ク刑シテ其誘拐シタル者ヲ輕ク罰ス而シテ其略取ナリ誘拐ナリ孰レノ場合ニ於テモ之ヲ十二歳以下ノ幼者ヲ略取誘拐スルニ比スレハ更ニ難シ又其幼者ニ在テモ人ノ援ヲ乞ヒ故ヲ告クルヲ得テ歸家ノ道易シ故ニ害ヲ回療スル十二歳以下ノ爲シ難キカ如キニ非ラサルナリ是ヲ以テ本條ノ刑ハ總體前條ノ刑ヨリ之ヲ輕クセリ

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僱婢、爲シ又ハ其他ノ名稱

ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

幼者ヲ略取誘拐スル者アリテ而シテ後チ之ヲ收受スル者アリ故ニ之ヲ略取誘拐スル者

刑○第三百四十一條○第三百四十二條○第三百四十三條

サケレハ則チ之ヲ收受スル者オシ抑テ之ヲ署取誘拐スル者ハ本條之ヲ收受スル者
末ナリ夫レ本ト末トハ大ニ其情ヲ異ニス是本條之ヲ收受シタル者チ一等減スル所以ナ
リ而シテ本條ノ明文「略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ云々」トアルヲ以テ若シ其略取誘
拐シタル幼者ナルヲ知ラスシテ之ヲ收受シタル者ハ本條問フ所ノ限リニアラサルナリ
第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但署
取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

前數條即チ第三百四十一條ヨリ前條マテノ三ヶ條ニ記載シタル被害者ハ之ヲ告訴シテ世
上ニ公ニシテ其恥辱ヲ受ケンヨリ寧ロ其害ヲ被ルノ優レルニ若カスト思惟スルヲナキ
ニ非ラズ否ナ往々之レアル可キノ情勢ナリ故ニ法律ハ又被害者ニ再ヒ害ヲ被ムラシムル
ヲ欲セス其之ヲ告發スルノ權ヲ他人ニ與ヘスシテ告訴スルノ權ヲ其被害者ト親屬トノ
ニ許シタリ但シ略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ區郡役所若クハ戶長役場ニ婚姻届ヲ爲
シテ其犯人ト婚姻ヲ爲シタルキハ其告訴ノ權ヲ失フモノトス

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者チ略取誘拐ノ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

略取誘拐シタル幼者チ外國ニ交付スル時ハ管ニ日本ノ人口チ減少スルノミナラス幼者チ
搜索スルヲ難ク幼者モ亦自ラ歸復スルヲ易カラヌ故ニ其署取ト誘拐トチ問ハヌ又十二歳
内外チ論セズ都テ之チ重罪ト爲シテ輕懲役ニ處スルナリ

○第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪(凡九條)

男女ノ媾和ハ自由ナリ法律ノ制限スル所ニ非ラス故ニ相互ノ意ニ出テ、人目ニ
觸レズ公衆ヲ壞ラサルハ犯罪トセス然レモ幼者ハ情實未タ開通セス之ヲ姦セハ
自ラ害アリ故ニ其承諾ノ有無チ問ハス都テ罪アリトス又幼者ニ非ラサルモ承諾
ナキ者チ暴制スレハ罪アリトス今本節ハ此等ノ者チ罰スルナリ

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對
シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金チ附加ス

本條ハ二個ノ場合アリ而シテ其前者ハ暴行ナキニ何ノ故ニ罰スルヤ十二歳以下ハ知慮未
タ開ケズ其承諾モ証トスルニ足ラサレハナリ若シ夫レ十二歳以上ナラハ暴行チ加フルコ
刑○第三百四十四條○第三百四十五條○第三百四十六條

非ラサレハ罰セズ日本ノ氣候ニ於テ十二歳以上ニ至ラハ體格漸ク成熟シ情欲モ亦萌生ス
故ニ猥褻ノ所行ヲ爲ス人アルモ之ヲ罰セズ若シ之ヲモ尙ホ罰セハ男女ノ情滅却ス十二歳
以上ノ者ニ暴行脅迫ヲ加ヘテ猥褻ノ所行ヲ爲スハ十二歳以下ノ者ニ暴行脅迫ヲ加ヘスシ
テ猥褻ノ所行ヲ爲スト同罪故ニ特ニ二罪ヲ并列シタリ前者ノ罪ハ其無智ヲ見テ已レ之ヲ
利スルニ在リ後者ノ罪ハ其無力ヲ見テ弱者ヲ強制スルニ在リ若シ十二歳以下ノ者ニ暴行
ヲ加ヘハ次條之ヲ論ス

本條ノ明文「男女ニ對シ云々」トアルヲ以テ獨リ男ノ女ニ對スルノミヲ問フニ非ス一轉シ
テ其女ノ男ニ對スルハ固ヨリ男ノ男ニ對シ女ノ女ニ對スル等モ亦皆ナ之ヲ論ス可キモノ
ス故ニ竊姦ノ如キハ必ス之ヲ罰スルナリ然レモ其對スル人ノ如何ニ因テハ同一ノ事ト
雖モ或ハ猥褻ノ所行ト爲ルモノアリ或ハ猥褻ノ所行ト爲ラサル者アリ例ヘハ乳ヲ握ルカ
内如キ十二歳以上ノ女ニ對シテ之ヲ爲ス時ハ則テ之ヲ猥褻ノ所行ト爲ス可キモ若シ十二歳
以下ノ女ニ對シテ之ヲ爲ス時ハ敢テ之ヲ猥褻ノ所行ト爲スニ足ラス又男ニ對シテ爲シタ
ル時ハ十二歳ノ内外ヲ問ハス都テ之ヲ猥褻ノ所行ト爲スニ足ラス何トナレハ此等ノ者ハ

乳ヲ握ラレハモ自ラ敢テ猥褻ノ所行ト感セサレハナリ

第二百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セサレモ本條及ヒ前條ニ於テ猥褻ノ所行ト云フハ其未ダ實姦淫セ
サルノ前ニ止マレリ故ニ其實姦淫シタル者ハ次條以下ニ之ヲ規定セリ

第二百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯乱セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第二百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ
重懲役ニ處ス十二歳以下ノ幼女ハ其承諾ニ出ルト否トヲ問ハス之ヲ姦スルニ於テハ都テ
之ヲ罰スルモノトス唯タ其承諾アリタルカ爲メ強力ヲ用ヒスシテ姦淫シタル者ハ其情輕
キヲ以テ之ヲ輕懲役ニ處シ其承諾ナキニ強力ヲ用ヒテ強姦シタル者ハ其情重キヲ以テ之
ヲ重懲役ニ處スルノ差アルノミ但シ藥若クハ酒ヲ用ヒテ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯乱セシ

刑〇二百四十七條〇第二百四十八條〇第二百四十九條

メテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論シ之ヲ重懲役ノ部ニ入ルモノトス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前數條ニ記載シタル猥褻姦淫ノ罪ハ畧取誘拐ノ罪ト同シク之ヲ世上ニ公ニスル時ハ大ニ

被害者ノ面目ニ關シ之レカ爲メ一生ヲ誤ルコトナキ能ハス故ニ他ヨリ之ヲ告發スト雖モ之

ヲ受理セス必ス被害者又ハ其親屬ヨリ告訴スルヲ待テ其罪ヲ論ス可キモノトス然レモ之

レカ爲メ次條ノ如キ人ヲ死傷ニ致スノ場合ニ於テハ社會ノ公害トナレハ他人ヨリ告發ス

ルト雖モ亦其罪ヲ論ス可キモノトス是レ本條ヲ此節ノ中間ニ設ケタル所以ナリ故ニ本條

ハ後條ニ關セス後條告訴ノ權ヲ獨リ某人ノミ與ヘタル者ハ本條別ニ之ヲ記載ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シ

タル者ハ無期徒刑ニ處ス

本條ハ取テ註釋ヲ要セス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下

ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者トハ俗ニ所謂取持ト云フモノナリ而シテ男女共ニ十

六歳ニ滿タサル者ハ固ヨリ其一方ハ十六歳ニ滿ルモ他ノ一方ニシテ十六歳ニ滿タサル者

モ亦本條ヲ以テ之ヲ論ス可キモノトス但シ男女共ニ十六歳以上ナル者ハ有夫ノ婦女ニ非

サルヨリハ敢テ此刑法ノ問フ所ニ非ラサルナリ

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者

亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第一項ノ其相姦スル者トハ即チ姦夫ヲ云フナリ此姦夫ハ若シ有夫ノ婦ナルコトヲ知ラズシ

テ姦シタル時ハ其罪ヲ論セサルモノトス而シテ刑法ノ諸條大概禁錮罰金アリテ本條ハ唯

ニ禁錮ヲ掲ケルハ何ソ婦人ハ蓋シ私財ヲ有スル稀レナリ若シ罰金ヲ科セハ既ニ害ヲ受ク

ル夫ニ連及シ夫ノ害ヲ回療スルノ法却テ其害ヲ重ムルニ至レハナリ既ニ姦婦然レハ姦夫

ハ姦婦ト固ト同情同愛ナルモノナレハ勢ヒ同一ノ刑ヲ以テ之ヲ處分セサルヲ得ス是レ姦

刑○第三百五十條ヨリ○第三百五十三條マテ

夫姦婦共ニ罰金ナキ所以ナリ第二項ノ意義ハ既ニ過條ニ於テ屢々之ヲ解説シタルハ敢テ
玆ニ之ヲ贅セス又但書ノ意義ハ第三百十一條ノ下ニ於テ之ヲ説明シタルハ同シク之ヲ贅
セス

第二百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲ストハ既ニ正妻アル者更ニ式ニ從ツテ又正妻ヲ娶リ家ニ兩
妻ヲ養フ者又ハ既ニ夫アル者更ニ式ニ從テ他ノ夫ニ見ヘ一身一時ニ兩夫ニ從フ者ヲ云フ
ナリ但シ後ニ爲シタル婚姻ハ行政ノ處分ヲ以テ離別シテ宗ニ歸ヤシムルモノトス

○第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪(凡七條)

誣告トハ無實ノ罪ヲ構成シテ告發スルモノナリ故ニ實アルノ事ヲ告クルハ誣告

ニ非ラスシテ罰ナシ誹毀トハ名譽ヲ害ス可キ事ヲ摘發スルモノニシテ事實ノ有

無ヲ問ハス都テ罰アリ

第二百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百一十條ニ記載シタル偽証ノ例

照シテ處斷ス

不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告スルトハ全罪ヲ誣告シテ無辜者ニ刑ヲ被ムラシメントスル者ト
輕事ヲ誣ヒテ重事ト告クル者ヲ云フ而シテ不實ノ事ヲ誣テ罪ニ陷ルハ証人ト爲テ不實ノ

事ヲ陳述シ以テ人ヲ罪ニ陷ルト其跡殆ント同一ナリ故ニ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ第

二百一十條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷スルモノトス刑法草案ニハ本條ノ始メニ

「自ラ偽詐ナリト知レルコト云々」トアリテ坡亞會拿德氏ノ説明ニモ亦無實ノ罪ヲ誣告スト

雖用過チ出ルハ罰セス唯其無實タルコトヲ知テ殊更ニ構陷セントスル者ヲ論ストアリ然

レ本條ノ法文ニ依テハ其過テタルト否トヲ問ハヌ都テ之ヲ論スルカ如シ予輩モ亦其都

テ之ヲ論スルヲ可トスルナリ何トナレハ若シ其過チニ出ルハ罰セストセハ之レガ爲メ過

チニ出テタル體ニ見セテ之ヲ誣告スルノ弊ナキヲ保セサレハナリ去レト其全ク過チニ出
テタルコトノ判然タル時ハ酌量減輕ノ處分ニ及ブテ望ム也
第二百五十六條 誣告ヲ爲スト雖但被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時
ハ本刑ヲ免ス

刑○第二百五十四條ヨリ○第二百五十六條マテ

本條ハ總則第八十八條ニ所謂別ニ自首ノ例ヲ掲ケタルモノニシテ特例ナリ然レトモ其被告ノ推問ヲ始メタル後ニ於テ誣告者自首シタル時ハ第八十五條ニヨリ唯々本刑ニ一等ヲ減スルノミナリ

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタルトキハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

本條ハ刑ノ反坐ヲ規定シタルモノニシテ過條ニ於テ既ニ之レヲ解説シタレハ敢テ又茲ニ之ヲ贅セズ

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハズ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

西哲曰ク言語ヲ以テ人ヲ擊ツハ手ヲ以テ打ツヨリ更ニ其傷害スルモノ大ナリト又佛語ニ曰ク言語ノ刺傷ハ鎗ヨリ甚クシト是レ本條ノ設ケアル所以ナリ然レモ何ノ故ニ其事實ノ有無ヲ問ハサルカ予輩未ダ其精神ヲ得サレハ此點ニ向テハ敢テ之レカ解釋ヲ施サズ

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非ラサレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得

本條死者ノ聲譽ニ關スル誹毀ハ歐州ニ十年以來ノ一疑問トナリ是非紛々タリ然レトモ有無一切之ヲ表出スルヲ禁セハ史家亦筆ヲ絶タントヌ故ニ其實アル者ハ忌マサルニ決セリト云フ今本條モ亦此ニ原因スルナラン

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

本條ノ明文「其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ云々」トアルヲ以テ若シ其身分職業ニ關シテ刑○第三百五十七條ヨリ○第三百六十條マテ

業ニアラサル者ハ假令委託ヲ受ケタル事ナリト雖モ其罪ヲ論セス又其委託ヲ受ケタル事
ニ非ラサレハ假令其身分職業ニ於テ知得タル事ナリト雖モ其罪ヲ問ハサルモノトス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ
論ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第十三節 祖父母父母ニ對スル罪(凡四條)

祖父母父母ニ對スル罪ノ節ヲ別ケテ其刑ヲ加重スルハ固ヨリ當然ノ理ニシテ世
人ノ能ク知ル所ナレハ予輩ハ敢テ之レガ註釋ヲ贅セス

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス其自殺ニ關スル罪ハ
凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

故殺ノ罪凡人ニ在テハ無期徒刑ニ處ス若シ子孫其祖父母父母ヲ故殺シタル者ハ謀殺ト同
シク之ヲ死刑ニ處ス是レ尊屬親ニ對スルノ罪ナレハ固ヨリ當然ノ理ナリ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ

犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但廢疾ニ致シタル者ハ有期徒
刑ニ處シ廢疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者
ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及不論罪ノ例ヲ用フルヲ
得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

○第二章 財産ニ對スル罪 凡十節五十九條

本章ノ財産ハ官物私物ヲ包括ス

○第一節 竊盜ノ罪(凡十二條)

刑○第三百六十一條ヨリ○第三百六十五條マテ

竊盜トハ暴行脅迫ヲ用ヒテ唯ヲ竊カニ他人ノ物品ヲ盗ムヲ云フ故ニ假令兇器ヲ
攜帶スルモ暴行脅迫ヲ用ヒスシテ竊カニ盜ム時ハ之ヲ竊盜トス

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮
ニ處ス

本條ハ晝夜ヲ分クテ家ノ内外ヲ問ハズ又其竊取物ノ多少ヲ論セス都テ同一ノ刑ヲ科スル
モノトナリテ本條以下竊盜ノ罪ニ罰金ヲ附加セザルモノハ此罪ヲ犯ス者ハ固ト財ヲキ
ニ因ルモノナレハナリ若シ夫レ之レニ罰金ヲ附加セハ窮益々加ハリ之レガ爲メ又再ヒ此
罪ヲ犯スニ至ルノ患ヒアル可シ故ニ唯ク身體ヲ刑スルニ止ムルモノトス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘リテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁
錮ニ處ス

洪水火災地震難船等ノ災害ニ遭遇シ人ノ最モ防禦シ難キ場合ニ乘シ其困苦ヲ憫マシテ
却テ財物ヲ竊取ス其情狀甚ク惡ム可シ故ニ通常ノ竊盜罪ヨリ其刑ヲ重クセリ

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎗鎗ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル

者ハ亦前條ニ同シ

本條ハ人ノ住居シタルノ明文ナキヲ以テ其人ノ住居シタル邸宅ト否トヲ問ハズ都テ之ヲ
論スルモノトス

第三百六十九條 二人以上共ニ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

二人以上通謀シテ竊盜ヲ爲ス時ハ容易ニ其目的ヲ達シ得可ク又其事主ノ之ヲ防止スル
甚ク難シ故ニ各一等ヲ加フルモノトス

第三百七十條 兇器ヲ攜帶シ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ其明文ニ「人ノ住居シタル邸宅ニ入り云々」トアルヲ以テ若シ人ノ居住セサル家屋
ニ入りタル者ノ如キハ假令兇器ヲ攜帶スルト雖モ決シテ本條ノ問フ所ニ非ラス是レ其兇
器ヲ恐怖スル者ナクハナリ但シ船舶ノ如キモ平素寢食ヲ爲ス者アル時ハ人ノ住居シタ
ル家屋ト同視シテ本條ニ依テ之ヲ處斷スルモノトス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因テ他人
ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

刑〇第三百六十六條ヨリ〇第三百七十一條マテ

興物トハ即チ質物ナリ固ト己レノ物品ナリト雖モ一旦質物ニ入レタルモノハ其借リタル金圓ト利子ヲ拂テ之ヲ受取ラサル以上ハ我レノ物ニシテ我レノ物ニ非ラス豈ニ其レ之ヲ竊取スルコトヲ得ンヤ若シ之ヲ竊取セバ則チ竊盜ト其跡取テ異ナルコトナシ官署ノ命令ニ因テ他人ノ看守シタル物亦同シ故ニ此等ノ物ヲ竊取シタル者ハ假令其固ト己レノ物品ナリト雖モ竊盜ヲ以テ論スルモノトス是レ固ヨリ當然ノ理ナリ

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ノ罪ハ穀類菜菓其他ノ產物共ニ未タ田野即チ其地ヲ離レサル物ヲ竊取シテ之ヲ他ニ持テ行クモノニ係ルナリ故ニ若シ既ニ竊取シテ他所ニ貯積シタル物ヲ竊取スル者ハ即チ財物ヲ竊取シタル者ナリハ本條ノ關スル所ニ非ラス又既ニ生熟セル菜菓ヲ其田野園圃ニ於テ竊取シテ直チニ其場ニ於テ之ヲ食シ又ハ花卉ヲ採折シテ其場ニ投シタル者ノ如キハ違警罪第四百二十九條ノ問テ取テ本條ノ關スル所ニ非ラサルナリ

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生

養シ若シハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ又前條ノ同シ

本條ハ他人ノ所有物ニシテ其邸園外ニ在ル物ニ係ルナリ故ニ此等ノ物件ト雖モ他人ノ邸園内ニ在ルヲ竊取シタル時ハ即チ尋常ノ竊盜ナレハ本條ニ依ラスシテ通常ノ竊盜ヲ以テ之ヲ論スルモノトス

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條モ亦前條ト同シク他人ノ所有ニシテ其邸園外ニ在ルモノニ係ルナリ故ニ若シ此等ノ獸類他人ノ邸園内ニ在ルヲ竊取シタル時ハ即チ尋常ノ竊盜ナレハ本條ニ依ラスシテ通常ノ竊盜ヲ以テ論スルナリ

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セズ

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監刑ニ第三百七十二條ヨリ第三百七十六條マテ

聞ク所ニ據レハ實際經驗ニ因ルコ凡ソ再犯以上ノ犯人ハ十中ノ八九ハ竊盜ナリト是レ竊盜ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ニ監視ヲ付シテ其再犯ヲ豫防減少セント務ムル所以ナリ

第二百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルヲ限マ在ラス

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズ

親屬ニシテ盜ニテ爲スハ他人ノ之ヲ爲スカ如ク罰セス是レ諸國ノ法律皆ナ同シキ所ナリ何ソヤ親屬ハ利益ヲ共ニシ感情同フス故ニ免罪ノ利ヲ與ヘテ唯タ其物品ヲ返還シ損失ヲ賠償セシムルニ止マルノミ然レモ兄弟姉妹ト雖モ同居ニ非ラサル者相竊取シタル時ハ一般ノ盜罪ト異ナルヲナシ何トナレハ本條ノ明文「同居ノ兄弟姉妹云々」トアルヲ以テナリ

第三項若シ他人其親屬ノ共犯ト爲テ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス而シテ其二人以上共ニ犯シタルモノナルヲ以テ第三百六十九條ニ照シテ加重ス可キモノトス

然レモ其賊ヲ分チタル者又ハ親屬相盜ムノ財物ヲ取受奇故買シタル者ハ罪ナキモノトス但シ其親屬ハ他人ト共犯ノ場合ニ於テモ亦其罪ヲ論セサルモ以テス

○第二節 強盜ノ罪(凡七條) 前節竊盜ノ罪ハ固ト暴行ナク唯タ財產ニ對スルノ惡行ニシテ人身ニ對スルモノニ非ラサレモ本節強盜ノ罪ハ暴行アルモノニシテ唯タ財產ニ止ラス又人身ヲ脅

嚇ス故ニ重罪ニ入レリ 第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲

役ニ處ス 本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

一 二人以上共ニ犯シタル時

二 兇器ヲ攜帶シテ犯シタル時

二人以上ニテ前條ノ強盜罪ヲ犯シタル時ハ未タ兇器ヲ攜帶スルコ至ラスシテ既ニ一等ヲ

刑ニ加フ 刑○第三百七十七條○第三百七十八條○第三百七十九條

加ヘテ重懲役ニ處スルモノトス又假令一人ニテ之ヲ犯スト雖モ若シ兇器ヲ携帯シタル時
ハ同シク一等ヲ加ヘテ重懲役ニ處スルモノトス故ニ若シ二人以上ニテ共ニ犯スニ當テ孰
レニテモ一人兇器ヲ携帯スル者アリシ時ハ共犯者皆ナ本刑ニ二等ヲ加ヘテ有刑徒刑ニ處
スルナリ

第二百八十條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

強盗ヲ爲スカ爲メ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ二惡結合スルヲ以テ強盗人ヲ傷シタル時ハ傷
ノ輕重ヲ問ハス人数ノ多寡ヲ論セス又兇器ノ有無ニ拘ハラズ直チニ之ヲ無期徒刑ニ處ス
其人ヲ死ニ致シタル時ハ殺意ノ有無ヲ分タス之ヲ死刑ニ處ス

然レモ二人以上共ニ強盗ノ罪ヲ犯シ其ノ一人殊更ニ人ヲ殺シ餘人全ク初メヨリ之ヲ知ラ
サル時ハ如何ニ之ヲ處分ス可キヲ現ニ其手ヲ下シタル者ト餘人ヲ同刑ニ處スルハ少シク
酷ニ失スルノ嫌ヒナキ能ハス故ニ此場合ニ於テハ其初メヨリ之ヲ知ラサル者ノ如キハ唯
以強盗罪ヲ科スルニ止マルカ又ハ其現ニ手ヲ下シタル者ト同刑ニ處スルモノトシテ酌量
減輕ノ處分ニ及フカノ一ヲ取ラレトナラン

第二百八十一條 強盗婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

本條ハ強姦ノ成否ヲ問ハス財物ノ得否ヲ論セス都テ之ヲ無期徒刑ニ處スルモノトス

第二百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ
論ス

假令竊盜ト雖モ財物ヲ得タルノ後テ事主ノ覺知スル所トナリ將ニ取戻サントスルニ當リ
其賊ヲ護シ事主ニ對シテ臨時暴行脅迫ヲ加ヘタル者ハ是レ盜ニ始マリテ強ニ終ルモノニ
シテ即チ其結果強盜ナレハ強盜ヲ以テ論シ第二百七十八條ヨリ第二百九十一條マテノ四
條ノ例ニ照シテ之ヲ處斷スルモノトス

第二百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕
懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其人ノ知ラサルニ乘シテ財物ヲ盜取スル者ハ其事竊ナリト
雖モ心實ニ強ナリ夫レ藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシムル時ハ其人ノ防禦スルヲ能ハス故
ニ假令恐嚇制縛ノ形ナシト雖モ殆ント事主ヲ制スルノ實アリ是ヲ以テ此等ノ者ハ強盜ヲ

刑〇第二百八十條ヨリ〇第二百八十二條マテ

以テ論シ輕懲役ニ處スルモノトス

八〇三 第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪(凡三條)

遺失物埋藏物及ヒ漂流物ノ如キハ固ト他人ノ所有ニ係ルト雖モ其所有主ノ分明ナラサル物件ナルヲ以テ之ヲ取ル者ヲ以テ直チニ盜罪ナリトスルコトヲ得ス故ニ特ニ此一節ヲ設ケテ別ニ處分スルナリ

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

遺失物漂流物共ニ其規則アリ故ニ其遺失物及ヒ漂流物ヲ拾得タル者ハ其規則ニ從テ其所有主知レタル時ハ之ヲ還付シ若シ所有主ノ分明ナラサル時ハ之ヲ官署ニ申告ス可キモノトス若シ之ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ本條ヲ以テ之ヲ

罰スルモノトス

遺失物漂流物共ニ拾得タル者之ヲ官署ニ申告シ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキモハ之ヲ得者ニ給ス然ルモ若シ隱匿シテ本條ノ問フ所トナリタル者ハ假令一年內ニ其主ナキモ之ヲ其得者ニ給セスシテ官ニ沒収スルモノトス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘リ得タル時ハ遺失物取扱規則ニ從テ之ヲ官ニ送り地主ト中分セシム可キモノナリ故ニ若シ之ヲ官ニ送ラス自ラ隱匿シタル者ハ其罪前條ト敢テ異ナル所ナキヲ以テ前條ト同一刑ニ處スルモノトス

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

九〇三

本條ノ意義ハ既ニ第三百七十七條ノ下ニ於テ之ヲ講解シシタルハ敢テ又茲ニ之ヲ贅セス

○第四節 家資分散ニ關スル罪(凡二條)

家資分散ニ關スル罪トハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者其財産ヲ債主ニ渡サハラン刑○第三百八十四條ヨリ○第三百八十七條マテ

カ爲メ詐偽ノ所行ヲ爲シタル罪ヲ云フナリ本節モ亦盜罪ノ一種類ニシテ他人ノ
財權ヲ害スル者ナリ但シ尋常ノ盜罪ハ其暴行ノ有無ニ拘ハラス直接ニ他人ノ財
物ヲ奪フ者ニシテ家資分散ノ罪ハ詐術ヲ用ヒテ他人ヨリ己レニ財物ヲ附與セシ
メ或ハ他人ニ屬ス可キ自己ノ財物ヲ藏匿スル等即チ間接ニ其財權ヲ奪却スル者
ナリ如何ソ其レ罰ナカル可ケンヤ是レ本節ノ設ケアル所以ナリ

第二百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月
以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若シクハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏スルトハ例ヘハ己レ所有ノ金ヲ隱シ若クハ之ヲ友人ニ附
託シテ偽テ金ナシト云フノ類ナリ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加スルトハ例ヘハ人ニ託シ彼レチ
シテ偽リノ債主ヲ裝ハシメ己レ自ラ負債アルノ狀ヲ爲シ身代限ノ處分ヲ終ルノ後チ彼レ
僞債主ニ渡セル金ヲ取戻スノ類ナリ豈ニ其情惡ム可キモノナラスヤ實際此ノ如キ者往々
之レアリテ予輩ノ聞見セルモノ亦少ナシトモ然ルニ其發覺シテ之レカ刑ヲ被ムリタル

者ハ十中ニ一二アルナシトモ其身代限ノ處分ヲ終レハ明日ヨリ依然トシテ舊ニ復シ其
業ニ従事スルハ其情ノ惡ム可キ豈ニ尋常竊盜罪ノ比ナランヤ坡亞曾拿德氏曰ク夫レ家資
分散ハ人家ニ浸入スル盜ノ暴ナル如キニ非ラスト雖モ其弊害ヲ社會ニ被ムラシムルハ却
テ盜竊リ大ナル者アリ何トナレハ門ヲ銷シ鑰ヲ固フスレハ盜害得テ避ク可シ賊外ニ在レ
ハナリ若シ夫レ家資分散ノ事ハ犯人内ニ在テ自カラ横ニ其財ヲ利ス債主ニ之ヲ防ク豈ニ
至難ナラスヤ故ニ家資分散ノ刑ニ至テハ尋常ノ盜罪ヲ處スルヨリ重クセサル可ラスト且
ツ又鞭珊氏ノ說ニ據ルモ其必罰ヲ期スル能ハサルモノハ之レニ准シテ其罰ヲ重クスルヲ
要ストノコトニテ至極法理ニ適シタルノ說ナレハ予輩ハ法官ニ向テ此等ノ犯罪人ニハ其長
期ノ重禁錮ヲ科セシメテ望ムナリ

第二項ハ本條ノ犯罪ハ往々助手アリ即チ身代限ノ人ノ財物ヲ預リ或ハ詐テ貸借ヲ爲セル
狀ヲ裝フ若シ此助手ナカリセハ其罪ヲ遂クル能ハス故ニ本條ノ犯罪ハ必ス助手アリトス
而シテ其情ヲ知テ助手ヲ爲ス者多シト雖モ聞々亦其情ヲ知ラスシテ其助手ヲ爲ス者ナキ
ニ非ラス其情ヲ知テ之ヲ爲セル者ト其情ヲ知ラスシテ之ヲ爲セル者トハ其結果ハ一ナル

刑〇第二百八十八條

モ其原因及情ハ大ニ異テシテモノ事ニ此等ノ異ナル者ヲ區別セシテ罰スルハ酷ク失スル
ヲ恐レズルヲ以テ今本項ハ其情ヲ知テ之ヲ爲セル者ノ罪夫問フテ其情ヲ知ラズシテ之ヲ
爲シタルモノ如キハ其罪ヲ問ハサルモノトセ

第三百八十九條 家資分散ノ際隠匿ノ類ヲ藏匿毀棄セ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又
ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

前條及ヒ本條ニ罰金ヲ附加セサル所以ノモノハ身代限ニ至ルハ固シ財物ノ高其負債ヲ償
フニ足ラサル者ニシテ罰金ヲ取ルノ餘財ヲキハ知ル可シ若シ強テ之ヲ取ラントセハ彼ノ

債主ニ配分ス可キ財物ノ中ヨリ之ヲ取ルノ外ナシ原來身代限ノ罪刑ヲ豫定スルハ債主ヲ
保護スルカ爲メナルニ若シ配分ス可キ財物ヨリ罰金ヲ引キ去ル時ハ此法ルカ爲メニ却

テ債主其取ル可キ財物ヲ減セラルハナリ豈ニ留ニ保護トナラサルノミナランヤ故ニ此罪
ニハ罰金ヲ科セス

○第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財産ニ關スル罪(凡五條)
本節ハ取テ註釋ヲ要セズ

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪
ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セサレト第二項ノ偽証ノ各本條トハ第二百二條以下ニ記載シタル官

ノ文書ヲ偽造シタル罪及ヒ第二百九條第二百十條ニ記載シタル私書ヲ偽造スル罪ト云フ
ナリ故ニ本條ト其官私ノ文書ヲ偽造シタル罪ヲ比較シ孰レカ一ノ重キ刑ヲ科スル者トス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯乱シタルニ乘リテ其財物若クハ証書類ヲ
授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

幼者ハ二十歳以下ノ幼者ヲ云ヒ精神錯乱トハ瘋癲白痴等ノ類ヲ云フ幼者ハ大概智識思慮
ノ淺薄ニシテ瘋癲白痴ノ如キハ固ヨリ以テ是非ヲ辨別セサルモノナリ故ニ此等ノ者ニ對

シテ財物若クハ証書類ヲ授與セシメタル者ハ敢テ詐欺恐喝ノ所爲ヲ用ヒタルニ非ラスト
雖モ其跡實ニ詐欺取財ニ異ナルヲナキモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論スルモノトス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交
刑○第三百八十九條ヨリ○第三百九十二條マテ

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交
刑○第三百八十九條ヨリ○第三百九十二條マテ

付シタル者ハ詐偽取財ヲ以テ論ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隠シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲シタル者亦同

本條ノ罪ハ販賣、交換、抵當、典物、ト爲スヲ以テ初メテ之ヲ論ス故ニ若シ其冒認シタルノ罪ニ止マル時ハ民事ノ賠償ニ屬シテ本條ニハ敢テ關係ナキモノトス

第二項ハ唯不動産ノヨチ云ヒテ動産ニ及ハサルモノハ抑モ故アリ何ソヤ動産ノ典物ハ必ス之ヲ債主ノ手ニ領置スルモノナレハ重テテ之ヲ賣賣スルコト能ハサルニ因ルナリ夫レ法律ハ無用ノ事ヲ記セス是レ本項ノ動産ニ及ハサル所以ナリ

不動産ノ重典賣ヲ爲スニ當テ區戶長其情ヲ知テ與印ヲ爲シタル時ハ共犯ヲ以テ論ス然レモ若シ其過失ニテ與印ヲ爲シタル時ハ唯タ賠償ノ責メニ任スルノミニシテ其罪ニ坐セス

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

等シク他人ノ物件ナリト雖モ其己レノ手ニ在ルモノヲ費消シタルト他人ノ手ニ在ルモノヲ取リタルトハ其情狀輕重ノ差アルモノトス是レ本條ノ刑前數條ノ刑ヨリ輕キ所以ナリ然レモ騙取拐帶其物詐欺ノ所爲アルニ於テハ其情重クシテ敢テ詐欺取財ト異ナルナリ故ニ此ノ如キニ至レハ則チ詐欺取財ヲ以テ論スルモノトス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

刑○第三百九十二條ヨリ○第三百九十六條マテ

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

○第六節 贓物ニ關スル罪(凡三條)

贓物トハ強盜、竊盜、詐斯取財、賄賂、及ヒ遺失物ヲ拾得テ隱匿シ若クハ家資分散ノ際藏匿脱漏シタル物件ヲ云フ

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ明文「強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ云々」トアルヲ以テ若シ其情ヲ知ラサルヨリ出テタル者ハ其罪ヲ問ハサルモノトス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

前條ノ罪ハ輕罪ト雖モ若シ其罪ヲ犯スニ於テハ其贓物ヲ取捌ク者アルカ爲メ自然強竊盜ノ犯人ヲシテ其罪跡ヲ容易ニ掩蔽スルコトヲ得セシムルノ患ヒアリ故ニ其再犯ヲ防クガ爲メ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルナリ

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐欺取財以下其他ノ犯罪ニ關シタル物件トハ官吏ノ受ケタル賄賂隱匿シタル遺失物又ハ家資分散ノ際藏匿脱漏シタル財產其他偽造ニ用ヒタル器械等ヲ云フ而シテ本條モ亦其情ヲ知テ爲シタル者ニ限り之ヲ罰スルモノトス故ニ其情ヲ知ラスニテ爲シタル者ハ之ヲ罰セサルナリ

○第七節 放火失火ノ罪(凡九條)

本節ノ罪ハ此編中ノ他ノ身體財產ニ關スル罪ト異ニシテ一タヒ火ヲ放チ又ハ火刑○第三百九十七條ヨリ○第四百一條マテ

火災ノ時ハ其害ヲ被ムル者唯々其一斤ニ止マラス時ノ都合風ノ場合ニ依テハ見ル々々數千萬戸ヲ延焼スルコト其例少ナカラス現ニ箔屋町及ヒ松枝町ノ大火僅カニ數年前ニ在リ好シヤ幸ニシテ他ニ延焼ノ患ナク一斤ニシテ鎮火スルニモセテ前後左右及ヒ風下ノ數百千軒ノ人々ハ之レカ爲メ大ニ危懼心ヲ抱キ特ニ其隣家ノ如キハ俗ニ所謂半焼ト一般ナルハ固ヨリ免レサル所ノ通患ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ本節ノ罪ハ宜シク第二編公益ニ關スル罪ノ中ニ編入シテ可ナルヘシト信セラルレモ亦私益ニ關スル罪ト爲サレ可カラサル所以ノ理由アルモノト見ヘタリ然レト予輩未ダ其理由ヲ知ル能ハサレハ姑ク前ニ否ナ後ノ註釋家ノ明解ヲ待ツト云爾

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

人ノ住居シタル家屋トハ現在人ノ居ル所ノ家屋ヲ云フ故ニ學校、集會所、神社、佛閣、露店芝居小屋等ハ或ル時ハ以テ人ノ居ルコトアリ又或ル時ハ以テ人ノ居ラサルコトアリ其人ノ居ル時ハ本條ヲ以テ之ヲ論スルモノトスレモ若シ其人ノ居ラサル時ハ次條ヲ以テ之ヲ論ス

ルナリ而シテ本條ノ明文「家屋ヲ燒燬シタル者云々」トアルヲ以テ火勢屋上ニ燃ヘ上リタルヲ待テ本條ノ刑ニ座ス故ニ若シ未ダ燒燬ニ至ラサル時ハ未遂犯ヲ以テ之ヲ處分スルモノトス以下皆之ニ倣ヘ抑モ本條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ死刑ニ處スル所以ハ火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルニ於テハ或ハ人ヲ燒死ニ致スノ恐レアルヲ以テナリ

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

人ノ住居セサル家屋建造物ニ放火シテ人ノ住居シタル家屋ニ延焼シ或ハ人ノ住居セサル家屋ナリト思惟シテ放火シタリシニ豈ニ圖ランヤ其内ニ人アリシ如キハ固ト犯人ノ意外ニ出テタルモノナレハ并ニ之ヲ無期徒刑ニ處スルナリ餘ハ敢テ註解ヲ要セズ

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ニ掲ケル所ノ屋舎ハ固ヨリ人ノ住居ス可キ所ニ非ラス又貨物ヲ保存ス可キ所ニ非ラサルナリ故ニ此等ノ屋舎ニ放火スルハ之ヲ前條ニ比スレハ其情大ニ輕キヲ以テ重懲役ニ處スルモノトス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス其人ヲ乘載セ刑○第四百二條ヨリ第四百五條マテ

船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

〇二三

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重懲役ニ處ス

自己ノ家屋トハ即チ自己ニテ築建シタル家屋ニシテ且ツ自己ノ現ニ住居スル家屋又ハ空
間房屋ヲ云フナリ故ニ假令自己ノ築建ニ係ルト雖モ既ニ賃銀ヲ得テ他人ニ貸與シタル所
ノ家屋ナル時ハ本條ノ關スル所ニ非ラスシテ他人ノ家屋ニ放火シタルノ罪ヲ以テ之レヲ
論ス可シ又假令現ニ自己ノ住居スル家屋ナリト雖モ他人ノ建築所有ニ係ル時ハ他人ノ家
屋ニ放火シタルノ罪ヲ以テ論ス可シ然レモ獨リ此場合ニ於テハ第四百二條ヲ適用スルヲ
能ハス何トナレハ第四百二條ノ入トハ即チ他人ヲ指シタルモノニシテ自己ヲ目シタルモ
ノニ非ラス又自己ヲ包括シタルモノニ非ラサレハナリ

世間ノ註釋家往々借家人ニテモ現ニ自己ノ住居シタル家屋ニ放火シタルモノハ自己ノ家
屋ヲ以テ論ス可シト云ヒモ予輩ハ斯ク解スル能ハサルナリ何トナレハ若シ此ノ如キノ精
神ナラバ「火ヲ放テ現ニ自己ノ住居シタル家屋云々」ト記ス可キニ「火ヲ放テ自己ノ家屋
云々」トアルヲ以テ之ヲ見レバ自己ノ建築所有ニシテ且ツ現ニ自己ノ住居シタルモノニ
限り適用スルモノト推察セラルレハナリ既ニ自己ノ建築所有ニシテ且ツ現ニ自己ノ住居シ
タル家屋ナル時ハ之レニ火ヲ放テ他ノ家屋ニ延燒スルモ亦本條ヲ以テ論ス可キモノトス
皮相ノ見ヲ以テスレバ自己ノ所有物ハ自己ニテ自由自在ニ取扱フノ權アルモノニシテ敢
テ社會ノ關ス可キモノニ非ラサルカ如シト雖モ自由ハ元來他人ノ損害トナルコトノ自由ヲ
許サレルモノナレハ家屋ニ放火スルハ假令自己ノ所有ナルモ其損害自己一人ニ止マラヌ
コトテ廣ク他人ノ損害トナルヲ以テ自由ハ其他人ノ損害トナル自由ヲ禁スルナリ既ニ自由
ノ禁スル自由ヲ爲シ焉ソシ其レ之レカ罰ナガレ可ケンヤ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

一二三

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

放火ノ罪ハ何レモ皆テ重罪ナレバ其減等シテ輕罪ニ降スコトアリ故ニ其減等シテ輕罪ノ刑

刑ニ降スル者ハ第四百六條ニ第四百七條ニ第四百八條

○第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

三 第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ明文「火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ云々」トアルヲ以テ其唯タ火ヲ失

シテ自己ノ家屋財産ヲ燒燬シタルノミニシテ未タ他人ノ家屋財産ヲ燒燬スルニ至ラサル者ハ本條ノ問フ所ニ非ス又他人ノ財産ト雖モ受託セラレタル物品ヲ燒燬シタルカ如キハ亦其罪ヲ論セサルモノトス然レモ雇人火ヲ失シテ雇主ノ家屋財産ヲ燒燬スルニ於テハ取モ直サズ他人ノ家屋財産ヲ燒燬シタルモノナレハ本條ノ罪ヲ免ル、コ能ハサルモノトス
第四百十條 火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ノ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ツルト過失トチ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス
激發ス可キ物品トハ地雷火ノ類ヲ云ヒ煤氣井トハ瓦斯ノ溜釜ヲ云フ而シテ本條ノ罪其故意ニ出ツル時ハ第四百二條以下ニ記載シタル放火ノ例ニ照シテ之ヲ處斷シ若シ過失ニ出

テタル時ハ前條ニ照シテ之ヲ處分スルモノトス
○第八節 決水ノ罪(凡四條)

決水ノ罪トハ惡意ヲ以テ一般ノ水害ヲ惹起シタル罪ヲ云フ故ニ其自然ノ水勢ニ因テ決水シタルカ如キハ因ヨリ之ヲ論ス可キモノニ非ラス否ナ之ヲ論スルノ相手がキモノナリ

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ「明文家屋ヲ漂失シタル者ハ云々」トアルヲ以テ其唯タ決潰毀壞シタルニ止テ未タ家屋ヲ漂失スルニ至ラサルモノハ本條問フ所ノ限リニ非ラス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ田圃礦杭牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス
本條モ亦明文「荒廢シタル者ハ云々」トアルヲ以テ其唯タ決潰毀壞シタルニ止テ未タ荒廢スルニ至ラサルモノハ本條問フ所ノ限ニ非ラス

三三三 第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其

他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

刑○第四百九條ヨリ○第四百十三條マテ

加ス

本條ハ假令ニ所謂手前ノ田ハ水ヲ引シト云フモノニシテ即チ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ他人ノ水ヲ引テ自家ノ田面ニ灌漑キ又ハ上流ニ在テ水路ヲ壅塞シ己レ獨リ專領シ下流ノ人ヲシテ之カ爲メニ灌漑ノ便ヲ欠カシムルカ如キノ類ヲ云フナリ此等ノ事ハ中夏ノ際田舎ニ於テ屢々見ル所ナリ而シテ本條ノ明文「他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ云々」トアルヲ以テ他人ノ便益ヲ損シタル者ハ假令自己ノ便益ヲ圖ル爲メニ非ラスト雖モ本條ヲ以テ論ス可キモノトス又其自己ノ便益ヲ圖ル爲メニ出テタルモノハ未タ他人ノ便益ヲ損スルニ至ラスト雖モ本條ノ罪ヲ免レサルモノトス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

○第九節 船舶ヲ覆没スル罪(凡二條)

第六十九條ニ記載スル所ハ燈臺浮標等ヲ損壞シタルカ爲メ船舶ヲ覆没セシメタル罪ニシテ本節ニ記載スル所ハ衝突其他ノ所爲ヲ以テ覆没セシメタル罪ナリ

彼レハ間接ノ害ニシテ此レハ直接ノ害ナリ然レモ其間直ノ差コソアレ其害ノ結果ニ至テハ敢テ異ナル所ナラズ故ニ彼此其刑ヲ同一ニセリ

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

本條ハ其自己ノ船舶ト他人ノ船舶トヲ問ハス等シク之ヲ論スルモノトス然レモ本條ノ問フ所ハ唯モ其故意ニ出ツル者ニ止テ敢テ其過失ニ出テタル者ニ及ハサルナリ但シ過失ニ出ツルト雖モ若シ人ヲ死ニ致ス時ハ過失殺ノ本條ニ從テ之ヲ處分スルモノトス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス
本條ハ前條ト同一ノ意義ニシテ其異ナル所ハ唯モ人ノ有無ニ在リ即チ本條ノ船舶ハ人ナキモノニ係ル故ニ其刑亦從テ輕シ

○第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪(凡八條)

本節ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ刑○第四百十四條ヨリ○第四百十七條マテ

二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

六二三

本條ニ云フ所ノ家屋ハ人ノ住居不住居ヲ分テ都テ之ヲ論シ又官舎民屋ヲ問ハス等シク之ヲ論スルモノトス抑モ本條ノ犯罪ニハ甚タ輕重ノ懸隔アルモノニシテ或ハ大厦ノ全體

ヲ傾覆スル者アリ或ハ小屋ノ一隅ヲ毀損スル者アリ其情大ニ異ナル所アレハ從テ亦刑罰

ノ長短多寡ノ間ニ大ナル範圍ヲ設ケテ一月以上五年以下ノ重禁錮二圓以上五十圓以下ノ

罰金ト定メ其範圍内ニ就テ參酌シテ科斷スルモノトセリ故ニ此刑法ニ於テ禁錮罰金ノ範

圍ヲ大ナラシメタルモノ本條ヨリ外ニ此クノ如キ大差アルモノナシ故ニ裁判官ノ見込ヲ

以テ之ヲ活用スルモノトス去レハ本條ニ就テハ裁判官ノ活眼ヲ要スルナリ

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シ

タル者ハ十一日以上三月以下ノ罰金ニ處ス

園地ノ裝飾トハ燈籠、垣籬、袖籠、架橋、置物等ノ類ヲ云フ

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁

錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ重禁錮ガ罰金カ法官ノ意見ヲ以テ孰レカ一ノ刑罰ヲ科スルモノトス以下「何日以下何月何日以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ何圓以上何圓以下ノ罰金ニ處ス」トアルモノ皆ナ之

ニ倣ヘ

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下

ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罰ヲ犯スハ其情重キヲ以テ重禁錮罰金ヲ併セ科スルナリ

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

器物トハ一切ノ動產物ヲ云フ而シテ本條ハ其故意ニ出ツル者ヲ罰シテ其過失ニ出テタル

者ハ唯タ其損害ヲ賠償セシムルニ止マルモノトス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

七二三

刑○第四百十八條ヨリ○第四百廿二條マテ

本條ノ罰ヲ犯スル第四百二十條ノ犯罪ト同シク其情重キヲ以テ重禁錮罰金ヲ併セ科スル
 第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
 ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 前條ニ記載シタル以外ノ家畜トハ羊豚鶏犬猫兔ノ類ヲ云フナリ但シ前條ノ罪ハ被害者ノ
 告訴ヲ待テスシテ之ヲ罰スレド本條ノ罪ハ被害者之ヲ告訴スルニ非ラカレハ以テ其罪ヲ
 論セサルモノトス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ
 重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 權利義務ニ關スル證書類トハ動産不動産ノ買賣約定證書或ハ金穀土地家作ノ貸借約定證
 書及ヒ諸請負證文若クハ委任狀其他寄託書等ノ類ヲ云フナリ此等ノ證書類ヲ毀棄滅盡シ
 タル者ハ其目的ノ那邊ニ在ルニ問ハス都テ本條ノ刑ニ處スルモノトス
 ◎第四編 違警罪(凡六條)

違警罪ニモ亦公益ニ關スルモノト私益ニ關スルモノトアリ又身體ニ對スルモノ
 財産ニ對スルモノトアリ然レド其罪最モ輕微ニシテ且ツ全編僅カニ六條ノミナレ
 ハ之ヲ區別スルモ敢テ其利益ナカル可シ故ニ之ヲ一編中ニ併記シテ事ノ簡便ニ從
 へリ

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一
 圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 規則ヲ遵守セズシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運搬シタル者
- 二 規則ヲ遵守セズノ火藥其外破裂ス可キ物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者
- 三 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者
- 四 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者
- 五 蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者
- 六 官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲サ、ル者
- 七 官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

刑○第四百廿三條○第四百廿四條○第四百廿五條

- 八 自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者
- 九 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 十 密ニ竇淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者
- 十一 人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者
- 十二 定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者
- 十三 官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル罪
- 十四 違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者但被告人偽証ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ
第二百十九條ノ例ニ從フ

本條以下拘留科料ヲ併セ科スルニ非ラス法官ノ意見ヲ以テ孰レカニノ刑罰ヲ科スルモノトス

明治十四年十二月九日第六十四號布告ヲ以テ本條第十項ノ取締懲罰ヲ東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任セラレタリ其法文即チ左ノ如シ

「密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘドモ當分ノ内其取締懲罰ハ従前

ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス

元來法律ハ百人ハ有罪者ヲ無罪放免ニ失スルモ寧ロ一人ノ無罪者ヲ有罪被刑ニ失セシムルコトキテ要スルモノナルハ違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ第二百二十條ヲ以テ輕罪ト爲セテ違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ本條ヲ以テ同シク違警罪トス但シ被告人其偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ照シテ一等ヲ加フルモノトス

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上

一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 人ノ家近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者
- 二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
- 三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
- 四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者
- 五 人ノ通行ス可キ場處ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サル者

刑〇第四百廿六條

- 六 路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸セシメタル者
- 七 發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
- 八 狂犬猛獸等ヲ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
- 九 變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
- 十 墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
- 十一 神佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者
- 十二 公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 本條ハ敢テ註釋ヲ要セサレモ第十二項ニ就テ少シク註解ヲ下クサン抑モ罵詈嘲弄ノ事ハ其人ノ性質ニ因テ或ハ感觸スル者アリ或ハ感觸セサル者アリテ一定ナラス例ハ近ク改進黨員ノ如キハ自由黨カ極メテ之ヲ罵詈スルモ少シモ感觸セサレモ自由黨員ノ如キハ改進黨員カ少シク嘲弄スルモ尙ホ且ツ感觸シテ大ニ憤激スルニ至レルノ差アリ故其ノ罵詈嘲弄ハ豫メ其被害者ノ感觸スルト否トヲ判スル能ハサルヲ以テ本項ニ限リ其被害者ノ訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上

一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ狂惑シタル者

刑○第四百廿七條

四三三

- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者
 - 十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者
 - 十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
 - 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ廁場等ヲ毀損シタル者
 - 十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
本條第三項ニ假令車馬ヲ疾驅スルモ燈火ヲ照スル時ハ之ヲ罰セス又假令燈火ナシト雖モ疾驅セサル時ハ其罪ナキモノトス
- 又第十二項ハ若シ其利ヲ圖ルコトナケレハ其罪ヲ問ハサルモノト解スルナリ然レモ予輩ハ假令其利ヲ圖ラサル者ト雖モ之ヲ罰センコト望マシケレ何トナレハ其害甚ク大ナレハナリ去レト斯ク規定シタル以上ハ亦己キヲ得ス唯タ後ヲノ改正ヲ懇望スルノミ
- 第四百一十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

五三三

- 二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者
 - 三 渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者
 - 四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 - 五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者
 - 六 溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者
 - 七 制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 - 八 官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者
 - 九 身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 - 十 他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 - 十二 他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者
- 本條第一項官署ヨリ價額ヲ定メタル物品トハ証券印紙郵便切手及ヒ民事訴訟用印紙証券印紙界紙等ノ類ヲ云フナリ而シテ其以下ノ明文「定價以上ニ販賣シタル者」トアルヲ以テ若シ其定價以下ニ販賣シタル者ハ其罪ヲ論セサルモノトス
- 刑○第四百廿八條

六三

- 第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 橋梁又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 - 二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
 - 六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サズル者
 - 七 制止ヲ肯セズシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クコトヲ忽カセシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 - 九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者
 - 十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者
 - 十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者
 - 十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

七三

- 十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者
 - 十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者
 - 十五 邸宅ノ番號標札招牖又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者
 - 十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
 - 十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者
 - 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者
- 本條第七項ノ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者ハ唯タ其妨害ヲ爲シタルノミニテハ未ダ以テ其罰ナキモノトス何トナレハ本項ノ明文「制止ヲ肯セズシテ云々」トアルヲ以テ其妨害ヲ爲シタルニ因リ警察官ヨリ制止ヲ受ケ尙ホ止メスシテ引キ續テ之ヲ爲スニ至テ初メテ之レカ罰アルモノトス
- 第十一項モ亦同シク唯タ道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シタルノミニテハ未ダ以テ其罰ナキモノトス其道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シタルコト因リ警察官ヨリ制止ヲ被ムリ尙ホ止メスシテ引キ續テ放歌高聲ヲ發スルニ至テ初メテ之レカ罰アルモノトス
- 刑○第四百廿九條○第四百三十條

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

前數條即チ第四百二十五條ヨリ前條マテノ五條ニ記載シタル違警罪ハ日本社會一般ニ適用スルモノナレモ其外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ニテ其地方限り之ヲ適施スル所ノモノアリ故ニ其地方ノ違警罪ヲ其所轄ノ地方ニ於テ之ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ之ヲ處斷スルモノトス但シ拘留料ノ期數ハ此刑法ニ規定スル所ノ範圍外ニ出ツルコト能ハサルモノトス

刑法註釋。 一名 獨案内 大尾

刑法附則註釋。 一名 獨案内

刑法附則トハ取リモ直サス刑法ノ不足ヲ補ヒタルモノナリ

第一章 主刑執行(凡二十條)

主刑トハ刑法第七條第八條第九條ノ三ヶ條ニ記載シタルモノヲ云フ其主刑處分方ハ刑法第一編第二章第二節ニ於テ之ヲ規定シタレモ其執行方法ニ至テハ之ヲ他ノ規則ニ譲リ其第十一條ニ於テ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム可キ旨ヲ記セリ而シテ其別ノ規則トハ即チ本章是レナリ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但シ其期限ハ午前十時前トス

刑法第十二條ニ「死刑ハ絞首ス但シ規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ」トアリ其所謂規則ニ定ムル所ノ官吏トハ即チ本條ニ記載スル所ノ官吏即チ是ナリ

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴シ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス

附○第一條○第二條

二 但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限リニ在ラス
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三條 死刑ノ執行畢リタルキハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印
シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

治罪法第四百六十三條第一項ニ「死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規則
ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ」ト其所謂刑ノ執行規則トハ即チ本條
ノ謂ヒナリ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭 孝明天皇祭 紀元節

仁孝天皇祭 神武天皇祭 六月大祓

神宮神嘗祭 天長節 後桃園天皇祭 春季皇靈祭

光格天皇祭 十二月大祓 新嘗祭

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ
果シテ懷胎ナル時ハ検査官ヨリ司法省ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法
卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ

本條ノ意義ハ既ニ刑法第十五條ノ下ニ詳説シタルハ敢テ復タ爰ニ之ヲ贅セス

第六條 死刑ノ遺體ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ請可シ下付
スルヲ得

監獄則第三十二條第二項ニ「其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過キサレハ埋葬若
クハ下付スルコトヲ得ス」トアリ故ニ親屬故舊請フ者アルモ其二時間ヲ過キサレハ以テ
之ヲ下付セサルモノトス

本條ニ就テ一ノ疑問アリ何ソヤ刑法第十六條ニ「死刑ノ遺體ハ親屬故舊ヨリ請フ者アレ
ハ之ヲ下付ス云々」トアリ此法文ニ由テ之ヲ見レハ死刑ノ遺骸ハ親屬故舊ヨリ請フ時ハ
必ス之ヲ下付スルモノナリ然ルニ今本條ニハ「若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ請
可シ下付スルヲ得」トアリ此法文ニ由テ之ヲ見レハ其死刑ノ遺骸ヲ下付スルト否トハ

附○第三條○第四條○第五條○第六條

三

四

一ニ典獄ノ權内ニ在アリテ假令親屬故舊ヨリ之ヲ請フ者アルモ其典獄ノ意見ニテ或ハ之ヲ下付スルコトモアレト又々或ハ之ヲ下付セサルコトモアリ何トナレハ法文下付スルコトヲ得ト止マリタレハナリ夫レ得ト止ムルノ文法ハ其得ノ字ノ上ニ在ル某人ノ權利ニシテ請者ノ必ス受テ可キモノニ非ラサルナリ刑法ハ必ス之ヲ下付ス可キノ旨ヲ記シ刑法附則ハ其之ヲ下付スルト否トハ典獄ノ特權ニ委セラレタリ予輩ハ孰レニ從テ解釋ヲ下クシテ可ナランカ殆ソト其適從スルノ方ニ困難ナキ能ハス何トナレハ彼レニ隨ヒハ此レニ背キ此レニ從ヒハ彼レニ反ケハナリ然レモ其適從ノ方アリテ存ス可キコト亦必ス可ケレハ予輩ハ後チノ註釋家ノ明解ヲ待タントス

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第九條 徒刑ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

徒流ノ囚ヲ發遣スルトハ即チ島地ニ發遣スルヲ云フナリ抑モ徒刑ト流刑トハ刑法ニ於テ孰レモ有期無期ヲ分ク等シク之ヲ島地ニ發遣スルモノト規定セラレタルヲ以テ本條ヲ設ケテ其發遣ノ手續方法ヲ規定セリ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

徒刑ノ囚ハ通常島地ニ於テ獄内ノ役ニ服セシムル者ナレモ又其時ノ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトアル者ナリ

五

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

附○第七條ヨリ○第十一條マテ

六

流刑ノ囚ハ無期有期ヲ分クモ定役ニ服スルノ義務ナキモノナリ然レトモ其自ラ工業ヲ爲
ント請フ者ハ典獄之ヲ許スナリ而シテ通常此ノ如キ法文ハ典獄之ヲ許可スルコトヲ得ト記ス
ルヲ以テ其法トスルニ今本條ハ典獄之ヲ許ス可シト記シタルハ是レ何ニ因テ然ルカ監獄
則第四十六條ニ「定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生
又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス云々」トアリ其レ既ニ之ヲ勸誘
シテモ尙ホ且ツ勞作セシメント欲スルヲ以テ法律ノ精神トス故ニ其自ラ工業ヲ爲サント
請フ者アルニ於テハ乃チ喜ンテ其請ヲ許サル可カラズ是レ本條典獄之ヲ許可スルコト
得ト記セスシテ典獄之ヲ許ス可シト記シタル所以ナリ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受
ク可シ

刑法第二十一條ニ「無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ
於テ地ヲ限り居住セシムルコトヲ得有期流刑ノ囚三年ヲ經過スルモノ亦同シ」トアリ故ニ
能ク其獄則ヲ謹守シ峻改ノ狀アル者無期流刑ノ囚ハ五年有期流刑ノ囚ハ三年ヲ經過スル

ノ後チ其幽閉ヲ免ス可シト認定スル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ケテ
而シテ後チニ其幽閉ヲ免スルモノトス

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ
同居スルヲ乞フ時ハ之ヲ許スコトヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

監獄則第六十二條第一項ニ「假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ
親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之レヲ許否ス可シ」トア
リ故ニ本條「家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スコトヲ得」ト記シタリ抑モ此得ト止ム
ルノ文法ハ固ト囚人ノ當然受ク可キノ權利ニ非ラス其之ヲ許スト否トハ單ニ典獄ノ權
内ニ在ルモノトス

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り住居セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督
ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ乞フテ限外ニ出ルコトヲ得

本條モ亦法文得ト止マタルヲ以テ固ト囚人ノ當然受ク可キノ權利ニ非ラハ其之ヲ許スト
否トハ一ニ典獄ノ意見權内ニ在リ

附○第十二條○第十三條○第十四條

七

八
第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得
唯タ懲役トノミ記シタルハ重輕ヲ分タサルノ故ニ因ル禁錮ハ獨リ重禁錮ノミニ關ス故ニ

特ニ重禁錮ト記セリ此三刑ハ何レモ皆ナ通常獄内ノ役ニ服スルモノナレモ其時ノ便宜ニ依リ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得ルモノトス

第十七條 禁獄輕禁錮ノ監獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ
唯タ禁獄トノミ記シタルハ重輕ヲ分タサルノ故ニ因ル禁錮ハ獨リ輕禁錮ノミニ關ス故ニ

特ニ輕禁錮ト記セリ此三刑ハ何レモ皆ナ固ト定役ニ服スルノ義務ナキモノトス然レモ其自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ是レ第十一條ノ精神ト同一ナリ故ニ敢テ喋々ノ復解ヲ施サス

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セ

ス

刑法第二十五條ニ「定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日内ハ給與ノ限ニ在ラス」トアリ故ニ今本條ニ於テモ亦後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス例ヘハ前犯三ヶ月ノ重禁錮ニ處セラレ服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ三ヶ月ノ重禁錮ニ處セラレタルカ如キ前後二犯ノ刑期ヲ通算スレハ六ヶ月即チ百八十日ニ至ルト雖モ前後二犯ノ刑期ヲ通算セス孰レモ其一犯ノ刑期ヲ計算スルヲ以テ二者共ニ九十日ニシテ百日ニ足ラサレハ其工錢ヲ給與セサルノ類ナリ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從

本條ニ云フ所ノ監獄ノ規則トハ即チ左ノ七ヶ條ヲ云フナリ

監獄則第五十一條定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ科定メ之ヲ十分ノ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム」定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ

附○第十五條ヨリ○第十九條マテ

九

工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニノ日當ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢モ又同シ

同第五十二條第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辦スル者ノ工錢ハ其余分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辦スルハ能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

同第五十三條在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

同第五十四條各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應ジ一日若干錢ト定ムヘシ

同第五十五條監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

同第五十六條在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ第三十三條ノ例ニ照シテ處分スヘシ

同第五十七條在監人若シ逃走シタルキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セズ附加ノ罰金ニ於ルモ亦同シ

彼ノ民法上ノ義務ハ假令其本人死亡スルモ亦相續人ニ於テ其義務ヲ果サ、ル可ラザルモノトスレド此ノ刑法上ニ於テハ刑ハ一身ニ止マルヲ原則トスルヲ以テ罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セズ附加ノ罰金ニ於ケルモ亦同シ之ヲ徵收セズ

第二章 監視(凡十七條)

刑法第一編第二章第三節中ニ記載シタル監視ハ其處分方ニ係ル今本章ノ監視ハ其執行方法ヲ規定シタルモノナリ

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

附○第二十條○第廿一條

本條ハ監視ノ解義ヲ示シタルモノナリ

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

本條ハ監視ニ付ス可キ者ヲ警察所ニ護送スル手續ヲ示シタルモノナリ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

典獄若シクハ檢察官トアルハ主刑ノ執行ヲ受ケタル犯人ハ典獄其護送ノ事ヲ管掌スルモノニシテ主刑ノ期滿免除ヲ得タル者若クハ主刑ヲ免シテ唯テ監視ニ付ス可キ者ハ檢察官其護送ノ事ヲ管掌スルモノナリ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直ニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ
本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

監視ノ期間間遵守ス可キ條件ハ次條ニ詳カナレハ敢テ茲ニ之ヲ贅セズ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ノ事ヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ヘシ

三二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

附○第廿一條ヨリ○第廿七條マテ

四一

四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許サス若シ己ムコトヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

監視ハ犯人ノ自宅ニ於テ之ヲ執行スルモノナルヲ以テ毎月二次所轄ノ警察所ニ到リ其謹愼ナルコトヲ表スト雖モ其間ノ時日ニ於テハ犯人ノ舉動如何ヲ知ル能ハス或ハ其監視ヲ忽諸ニスルノ恐レナキヲ保シ難シ故ニ時宜ニ因リ警察官吏其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與スヘシ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸

來リ直ニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ証書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出スヘシ

本條モ亦同シシ註釋ヲ要セス

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

本條ハ第二十二條ノ例外ヲ規定シタルモノナリ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ并ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シ監視ヲ執行ス可シ

附○第廿九條ヨリ○第卅四條マテ

五一

本條ノ意例ヘハ茲ニ八年ノ輕懲役ニ處セラレタル者刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯シ更ニ六年ノ輕懲役ニ處セラレタルカ如キ先ツ前後ノ主刑十四年ノ懲役ヲ執行シタル後テ前後ノ監視ヲ通算シテ四年間之ヲ執行スルノ類ナリ又其初犯ノ主刑既ニ終リ監視ノ期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ刑ニ處セラレタル時モ亦其再犯ノ主刑ヲ執行シタル後テ初犯ノ監視期限ト再犯ノ監視期限トヲ通算シテ執行ス可キモノトス

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

罰金ヲ科セラレタル者其裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セサル時ハ壹圓チ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フルルハ刑法第二十七條ニ於テ規定セラレタリ若シ其罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルモノトス例ヘハ己ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者刑法第九十九條ニ依リ十圓ノ罰金ニ處セラレタルニ其限内納完セサルヲ以テ之ヲ十日ノ輕禁錮ニ換ヘタルカ如キ刑法第二百零一條ニ依リ六ヶ月ノ監視ニ付セラレタル時ハ輕禁錮ノ執行十日ヲ終リタル後其禁錮

ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルモノナルヲ以テ其監視六ヶ月即チ百八十日ヨリ禁錮ノ日數十日ヲ扣除シ餘ル百七十日間監視ニ付スルノ類ナリ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

本條ハ刑法第四十一條ト參看ス可シ

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セシ

○第三章 假出獄及ヒ特別監視 凡十條

本章ハ敢テ註釋ヲ要セシ

第三十八條 假出獄ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

本條云フ所ノ假出獄ヲ許ス可キ者トハ即チ左ノ刑法及ヒ監獄則ニ記載スル所ノ者ヲ云フ

附○第卅五條ヨリ○第卅八條マテ

ナリ

刑法第五十三條第一項「重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スル後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得」又其第二項「無期徒刑ノ四ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ」其第二項畧ス

監獄則第九十六條已決囚獄則ヲ謹守シ且悔改ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞與スヘシ

同第九十七條賞與セシ者ニハ賞與セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖(肩臂間ノ表面)ニ方二寸(曲尺)ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

同第九十八條賞與ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其証票ヲ犯人ニ下付ス可シ

本條ニ敢テ註釋ヲ要セス

第四十條 假出獄証票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セ

サル事

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若シハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

刑法第三十五條ヲ以テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ゼラル然レモ又刑法第五十五條ヲ以テ假出獄ヲ許サレタル者ハ

行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得ルモノトス是ニ於テ本條ノ設ケアリ

第四十二條 假出獄ヲ許スヘキ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

特別監視ハ通常監視ト異ニシテ假出獄ヲ許サレタル時ヨリ主刑滿限ニ至ルマテノ間執行

附○第卅九條ヨリ○第四十二條マテ

スルモノトス故ニ假出獄ヲ許サレタル者ニシテ本刑監視ニ付ス可キ者ナル特別監視ヲ終
リタル後チ更ニ通常ノ監視ニ付スルモノトス

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九
條第三十一條ノ例ヲ適用ス

特別監視ト雖モ監視ハ即チ監視ナリ故ニ通常監視ト別ナリト雖モ畢竟大同小異ナルモノ
ナリ是レ特別監視ニ於テモ亦大概通常監視ノ例ヲ適用スル所以ナリ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク
可シ但シ疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ
可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉
移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

特別監視ニ付セラレタル者ノ遵守スル所ノ條件ハ四ツコシテ通常監視ニ付セラレタル者
ト其數同シト雖モ其條件更ニ嚴ナリ是レ何コ因テ然ルカ彼レハ附加刑ニシテ主刑終リタ
ルノ後チニ之ヲ執行スル所ノモノコシテ即チ餘分ノ刑ナレモ此レハ主刑ノ期限内ニ執行
スル所ノモノコシテ取り直サス主刑ノ換リニ處スルモノナルコシテ其差チ生シタルナリ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

本條ハ第二十八條ト同一ノ主義ナリ故ニ敢テ復タ茲ニ之ヲ贅セス

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄証票ヲ警察所ニ還納シ警
察所ヨリ証票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限 後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住居ナク及ヒ引取人ナキハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄
中ノ別房ニ留置ス可シ

附〇第四十三條ヨリ〇第四十七條マテ

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四章 刑事裁判費用(凡六條)

刑罰法第四十五條ニ「刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ其所謂別ノ規則トハ本章ノ謂ヒナリ

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事裁判費用ト爲ス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當 五十錢

旅費 一里十錢

止宿料 一宿二十五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當并ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第五十條 証人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

本條ハ証人云々トアリテ他ヲ云ハス又証人等ト云ヒテ他ヲ容シタル文法ニ從ヒタルニモ非サレハ無論本條ハ獨リ証人ノミニ限り請求アルニ非ラサレハ給與セズ故ニ醫師鑑定人通辯人翻譯人等ニ在テハ假令本人之ヲ請求セサルモ官署リ之ヲ給與スルモノト知ル可シ

第五十一條 証人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百十九條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當外若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

治罪法第百九十條第二項ニ「若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得」トアリ故ニ其日稼高ニ等シキ償金モ亦旅費日當ト同時ニ之ヲ要求スル時ハ之ヲ給與スルヲアル可シ然レモ本條ノ結文若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シトアルヲ以テ假令証人之ヲ要求スルモ必ス之ヲ給スル者ト定マラス或ハ之ヲ給スルヲモアレハ又或ハ之ヲ給セサルヲモアル可シ若シ必ス之ヲ給ス可キ者ナレハ本條ノ結文次條ノ如ク若干ノ償金ヲ給與ス可シト記ス可シ然ルニ此ノ如ク記セズシテ彼レカ如ク記

附○第四十八條ヨリ○第五十一條マテ

シテハ或ル時ハ以テ之ヲ給ス可キモ又或ル時ハ以テ之ヲ給セサルノ意タル亦知ル可キ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與スヘシ

本條ノ償金ハ假令本人ノ要求ナシト雖モ官必ス之ヲ給與スルモノトス

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴収ス

裁判費用ハ既ニ刑法註釋中ニ説明セルカ如ク民事上ノ賠償ニシテ刑罰ニ非ラス刑罰ハ犯人ノ一身ニ止マリテ決シテ子孫ニ及ハサルモノナレハ犯人ノ死ト共ニ消滅スルヲ以テ罰金料ノ如キハ之ヲ徴収セスト雖モ民事上ノ責任ハ一身ニ止マラス子孫ニ至ルト雖モ其之ヲ賠償セサル内ハ必ス之ヲ負擔セサルヲ得ス是レ本條斬ク規定シタル所以ナリ

◎第五章 賠償處分(凡十條)

本章ハ敢テ註釋ヲ要セス

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手

ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスニテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムトテ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

本條ハ頗フル錯雜セルカ如シト雖モ能ク之ヲ熟讀スレハ自ラ其義判然明瞭ナルヲ以テ予輩ハ敢テ贅釋ヲ施サス

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スルモハ還給ヲ拒ムトテ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

本條ハ敢テ註釋ヲ要セス

第五十七條 贓物交換シテ現在スルモハ公商ニ由ルト否トチ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ附○第五十二條ヨリ○第五十七條マテ

處分不可シ

六二

本條モ亦敢テ註釋ヲ要セス

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

本條モ亦同シク註釋ヲ要セス

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

人ニ損害ヲ被ムラシメタル者ハ固ヨリ以テ之ヲ賠償セル可ラス然レモ失火ニ因テ人ニ損害ヲ被ムラシメタル者ノ如キハ已レ亦必ズ損害ヲ招キ事急ニ手ノ廻ラハサルヨリ從テ他人ヨリ其損害ノ割合大ナリ且ツ火勢ノ如何ニ因テハ或ハ數千萬斤ヲ延焼スルコトアレハ被害者皆テ擧テ之レニ向テ損害ノ賠償ヲ求ムルモ到底得可キニ非ラス假令之ヲ其額僅少ニシテ其訴訟ヲ爲スノ費用ヲ得ル能ハサルハ其常ナル可シ豈ニ亦無益ノ訴訟ト謂ハサル可ケンヤ否ナ有害ノ訴訟ト謂ハサルヲ得サルナリ何トレハ其訴訟ニ因テ得ル所ノ金額其

訴訟入費タニ償テ能ハサレハナリ故ニ失火ハ此限ニ在ラスト規定セリ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其ニ固ト民事ニ屬スルヲ以テ民事裁判所ニ請求ス可キモノナレモ其審判未タ終ラサル内ハ其公訴ニ附帶スルヲ以テ或ハ之ヲ刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトス然レモ其審判己ニ終リタル後ハ最早刑事ノ關係絶テナキヲ以テ民事裁判所ニアラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フヘシ

民事ト刑事トハ固ト其性質ヲ異ニス故ニ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スルノ方法モ亦從テ之ヲ別ニセリ

七二

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其事民事ニ屬スルヲ以テ本犯身死スルモ其相續人ニ對シ之ヲ

附○第五十八條ヨリ○第六十三條マテ

要求スルヲ得ルモトス但シ民事ニ属スル事ナルヲ以テ其之ヲ請求スルモ亦民事裁判
所ニ限ルモノトス
第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更
ニ民事裁判所ニ身代限入處分ヲ請求スルヲ得
本條私訴ノ結局ヲ示シタルモノナリ而シテ刑法附則モ亦本條ヲ以テ結局トス

刑法附則註釋 一名 獨案内 大尾

杉山哲理校閱
西村英註釋

版權所司

治罪法註釋

一名 獨案内

治罪法參考諸布告
附錄 監獄則

要求スルヲ得ルモノトス但シ民事ニ属スル事ナルヲ以テ其之ヲ請求スルモ亦民事裁判所ニ限ルモノトス

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

本條私訴ノ結局ヲ示シタルモノナリ而シテ刑法附則モ亦本條ヲ以テ結局トス

刑法附則註釋

一名 獨案内 大尾

杉山哲理校閱
西村英註釋

版權所司

治罪法註釋 一名 獨案内

治罪法參考諸布告
附錄 監獄則

刑罰學
治罪法之善美

治罪法之善美

其旨釋

山本野村



治罪法之註釋序

治罪法之刑法ヲ實施スル所以ノ具雖リ故ニ刑法如何ニ善美ナルモ之
 ナ實施スル所以所ヲ治罪法ニシテ善美ナルヲ以テ刑法ヲ活用スル
 ナ能ハス去歲ハ刑法ヲシテ善美ナルヲ以テシテハ亦隨テ治罪法ヲシテ
 善美ナルヲ以テ可ヲサルナリ今日日本ノ新刑法大ニ善美ヲ盡クシ往
 ナ法律ニ有名ナル佛國ノ法律ニ優ル法ニアリ而シテ治罪法ノ如何ナ
 顧ミルニ刑法ノ善美ナルニ從テ亦其善美ヲ極メタリ然レモ其精神意
 義ノ難易ニ至テハ大ニ異ナルモフア何ヲヤ治罪法之ヲ他ノ文章ニ
 比スルハ其文簡ニシテ其意深キモ之ヲ刑法ニ較スルハ其文長ク
 シテ其義易シト謂ハサルヲ得ヌ是レ何ニ因テ然ルカ治罪法ハ即チ罪
 ナ治ムル所以ノ手續ヲ定メタルモノナレハ固ト敢テ其精神意義ノ解
 シ難キナリ故ニ易キ精神ノ法律ヲ精密ナル文章ヲ以テ記シタルモ

ノナレハ彼ノ難キ意義ノ法律ヲ簡畧ナル文章ヲ以テ記シタル刑法ト
 正ニ相反スルナリ且ツ夫レ往々同一主義ノ法條在ル有レハ刑法ヲ註
 シタル筆ヲ以テ其心ヲ更メヌ直チニ治罪法ノ解ヲ施ス時ハ識ラス
 知ラス贅解ヲ施スノ徒筆ヲ免レサルモノトス尤モ世ノ註釋家モ亦茲
 ニ注意ナキニ非ラサルモノト見ヘテ概シテ治罪法ノ註釋ハ刑法ノ註
 釋ヨリハ之ヲ短縮セリト雖モ其刑法ノ先入心ヲ全ク脱却シテ更ニ新
 タナル心ヲ以テ註センコトハ平常ノ想思ヲ有テル學者ノ免レサル通患
 ナリ是ヲ以テ世ノ註釋家ノ解ハ唯タ言葉ヲ換ヘタリケリノモノ殆ン
 ト半ヲ占メ爲メニ余ヲシテ雷笑ニ堪ヘザラシムルモノアリ今西村氏
 ノ註釋ハ其世病ヲ避ケ其敢テ註釋ヲ施スヲ要セサル節條ニ至テ其徒
 筆ヲ下タサハルハ實ニ余ノ意ニ好適シタルモノト謂フ可シ否ナ實ニ
 條理ニ好適シタルモノト謂ハサル可ラサルナリ是レ余カ刑法ト併セ

テ此ノ治罪法ヲ校閲シ且ツ一言ノ序ヲ述フル所以ナリ

明治廿一年五月

杉山哲理識

豊高社 一平正良

山 普 聖 齋

治罪法註釋

治罪法註釋

凡例

- 一 刑法ト治罪法ハ譬ヘハ猶ホ夫婦ノコトキモノコソテ固ト一對ノモノナレハ治罪法コ用フ可キ凡例ハ大概刑法ノ凡例中ニ記載シタレハ今復取テ茲ニ贅例ヲ掲クルヲ要セサレハ治罪法ニハ又自ラ治罪法ノ凡例アルヲ以テ少シク記スル所アラントス
- 一 治罪法ハ即チ罪ヲ治ムルノ手續ヲ定メタルモノナレハ編章節條長クシテ且ク錯雜セリト雖モ刑法ノ如ク敢テ其精神意義ノ解シ難キコトナク又往々同一主義ノ法條ノ在ル有レハ其註解ヲ要ス可キモノハ總條ノ半ハニ過キサルナリ故ニ若シ世ノ註釋家ノ如ク敢テ總テノ編章節條ニ註釋ヲ施サントセハ爲メニ同一ノ事ヲ唯々言語ヲ換ヘテ言ヒ反メニ止マルノ贅解ヲ附シ終ニ空シク讀者ノ光陰ヲ費サシムルノ恐レアリ是ヲ以テ予輩ハ其敢テ註釋ヲ要セサルノ法條ハ本條ハ敢テ註釋ヲ要セストノ旨意ヲ註シテ彼ノ卑劣ナル唯々言語ヲ換ヘタリケリノ贅解ヲ省ケリ然レモ本書ノ表題獨案内ト命スルヲ以テ其表題ニ適ハシメンカ爲メ十ノ七八マテハ其註釋ヲ施セリ